

2022年6月27日

各位

会社名 株式会社新生銀行  
代表者名 代表取締役社長 川島 克哉  
(コード番号 : 8303 東証スタンダード市場)

## 男性社員のお小遣い額は昨年比微減の 38,642 円、女性社員は減少の 33,278 円 -「2022 年会社員のお小遣い調査」結果について

～男女ともお小遣い額が減少する。働き方・支出項目は昨年同様に新型コロナウイルスの影響を受ける～

当行は、20代から50代の有職者の男女約2,700名を対象にした「2022 年会社員のお小遣い調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

### 「2022 年会社員のお小遣い調査」結果の主なポイント

- 男性社員の毎月の平均お小遣い額は 38,642 円と、前年より 68 円減少。2010 年以降、金額で大きな変化は見られない。女性社員の毎月の平均お小遣い額は 33,278 円と、前年より 1,120 円減少し、最も少ない 2019 年(33,269 円)に次ぐ金額となった。
- 男性社員の昼食代は 623 円(前年比 26 円減少)、女性社員は 656 円(同、66 円増)。
- 男性社員の 1 ヶ月の外での飲み代は 11,495 円(同、1,734 円減)、女性社員は 8,429 円(同、1,278 円減)と、男女ともに昨年より減少。特に、男女とも 30 代で大幅に減少する結果に。
- 新型コロナウイルスの影響により男性社員で 46.0%、女性社員で 39.8%の割合で働き方に変化があり、具体的には「テレワークで働くようになった」「残業が減った」が上位となる。同様に、新型コロナウイルスが支出項目にも影響し、男女とも「水道光熱費」が増え、「飲み代」「旅行代」が減る結果に。前年に引き続き、テレワークの浸透や外出自粛が特定の支出項目に影響を与える結果となった。

### ■ 男性社員のお小遣い額は前年比微減で横ばいの状態、一方、女性社員は昨年までは 2019 年から 3 年連続で増加していたが減少に転じた

男性社員の月額平均お小遣い額は 38,642 円と前年比 68 円の減少となりました。近年の男性社員のお小遣い額の推移は増加と減少を繰り返し、金額で大きな変化は見られません。年代別では、40 代・50 代で増加し、20 代は減少するなど、世代間で差が出る結果となりました。この 1 年間のお小遣い額の変化では、変化があった社員は「アップした」が 6.5%(昨年は 6.4%)、「ダウンした」が 9.3%(同、13.3%)と、ダウンした社員の割合が昨年よりも少ない結果となりました。

一方、女性社員のお小遣い額は、昨年より 1,120 円減少し、33,278 円となりました。昨年までは 2019 年から 3 年連続で増加していましたが、最も少ない 2019 年(33,269 円)に次ぐ金額となりました。年代別では、50 代で増加したものの、30 代・40 代で減少しました。

### ■ 昼食代は、男性社員で微減・女性社員で増加し、女性社員の昼食代が男性社員を上回る結果に

男性社員の 1 日の昼食代は、昨年の 649 円から 26 円減少し、623 円となりました。微減となったものの、2010 年以降で 2 番目に高い水準です。年代別にみると、20 代で 727 円と最も高くなっております。

女性社員の 1 日の昼食代は、昨年の 590 円から 66 円増加し、656 円となりました。3 年連続の増加となり、2016 年以降の 600 円を超える高水準となりました。

男性・女性社員ともに持参弁当の割合が最も高く、男性で 33.9%、女性 52.0%を占める結果となりました。

### ■ 男性・女性社員ともに 1 ヶ月の外での飲み代は減少

男性社員の 1 回あたりの外での飲み代は 5,395 円、1 回あたりの飲み代と 1 ヶ月の平均飲み回数から算出した 1 ヶ月の飲み代は前年比 1,734 円と大幅に減少し、11,495 円となりました。女性社員の 1 回の外での飲み代は 4,464 円、1 ヶ月の飲み代は前年比 1,278 円減少の 8,429 円と大幅な減少に転じました。新型コロナウイルスの影響のためか、男性・女性ともに外で飲む回数は前年と同水準だったものの、自宅で飲む回数が増える結果も見えました。

- **働き方の変化の有無は、「変化があった」が男性会社員で 46.0%、女性会社員で 39.8%となった。男性・女性会社員ともに、働き方の変化の内容は「テレワークで働くようになった」、「残業が減った」が上位に**  
新型コロナウイルスの影響により「職場で働き方に変化があった」と回答する割合は、去年は男性会社員、女性会社員ともに約半数を占めました。今回は男性・女性ともに約 7 ポイント減少し、働き方の変化が定着してきた様子も伺えます。働き方改革の内容は、「テレワークで働くようになった」「残業が減った」が上位となり、首都圏居住者や従業員規模が大きい会社に勤める会社員ほど、それらのスコアが高くなる傾向が見られました。
- **調査名称の変更について:**株式会社レイク(当時)が 1979 年に開始したお小遣い調査は、男性会社員を対象とした調査でしたが、2000 年から女性会社員も含めて調査実施をしております。また、2021 年からは、性別について男性・女性以外の「その他・答えたくない」と回答した人も調査対象としております。そのため、「サラリーマン」という名称から、より幅広い意味の「会社員」へ変更することとなりました。現在、お小遣い調査の実施は、新生銀行グループの新生フィナンシャル株式会社※が実施をしています。  
※新生フィナンシャル株式会社はカードローンブランドの「レイク ALSA」(<https://lakealsa.com/>)を展開しています。

本調査の詳しい調査結果については、別添「2022 年会社員のお小遣い調査詳細レポート」をご参照ください。

お問い合わせ先  
新生銀行 グループIR・広報部  
報道機関のみなさま: [Shinsei\\_PR@shinseibank.com](mailto:Shinsei_PR@shinseibank.com)  
株主・投資家のみなさま: [Shinsei\\_IR@shinseibank.com](mailto:Shinsei_IR@shinseibank.com)

別添

2022年  
会社員のお小遣い調査  
詳細レポート

## 2022年 会社員のお小遣い調査概要

2022年のお小遣い額は  
男性会社員と女性会社員ともに減少という結果に  
男性会社員は38,642円(前年比68円減少)  
女性会社員は33,278円(前年比1,120円減少)

- 2022年3月の月例経済報告で「景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる。」とされる景況感の中、男性会社員の毎月の平均お小遣い額は38,642円と、前年より68円微減する結果に。
- 女性会社員の毎月の平均お小遣い額は33,278円と、前年より1,120円減少し、最も少ない2019年(33,269円)に次ぐ低い水準となった。
- 男性会社員と女性会社員の毎月の平均お小遣い額の差は、5,364円。
- 男性会社員の1日の平均昼食代は前年比26円減少で623円、女性会社員は66円増加し656円。
- 男性会社員の1回あたりの飲み代は5,395円、自宅で飲む方の2,817円より2,578円高い結果に。女性会社員の1回あたりの飲み代は4,464円、自宅で飲む方の1,948円より2,516円高い結果に。
- 働き方の変化の有無は、「変化があった」が男性会社員で46.0%、女性会社員で39.8%。男性・女性会社員ともに働き方の変化の内容は同じで「テレワークで働くようになった」と「残業が減った」が上位に。
- 新型コロナウイルスの影響による支出変化として、支出が増えたものは「水道光熱費」が男女ともトップとなり、支出が減ったものは男女ともに「旅行代」「飲み代」「ファッション費用」となっています。テレワークの浸透や外出自粛による影響が特定の支出項目に影響を与えた結果に。

## ■2021年度の景気動向

2021年度初頭の日経平均株価は2万9,000円台からスタートしました。新型コロナウイルスの再拡大による緊急事態宣言やその延長を受けて、国内消費が活発化せず、8月までは株価は伸び悩みました。その後は、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展や企業業績が回復したこと等を要因として、9月には3万0,795円78銭と31年ぶりの高値となりました。しかしながら、ウクライナ情勢の緊迫化などを受けた、原油価格の高騰による景気下振れや企業業績悪化の懸念、米国の金融引き締めへの懸念等から、2022年3月には一時、2020年11月以来となる2万5,000円割れとなりました。

景気の見方について、2021年度の実質GDPは前年度比+2.2%となりました。新型コロナウイルスによる経済社会活動の制限の影響を受け、コロナ前のGDP水準には戻らず、経済成長が伸び悩む結果となりました。

賃金面においては、厚生労働省が発表した2021年度の「毎月勤労統計調査」によると、名目賃金指数が前年度比0.7%増加、物価変動を除いた実質賃金指数も同0.5%増加となりました。同じく厚生労働省が発表した2021年の「賃金構造基本統計調査」によると、一般労働者の月額賃金は男性33万7,200円(前年比0.5%減少)、女性25万3,600円(同0.7%増加)となりました。

## ■2022年度の見通し

当行は、国内での行動制限の緩和により、2022年度の日本の実質GDPは前年度比+2.0%(注)と、段階的な回復を見込んでいます。もっとも、世界的な物価・金利の上昇による世界景気の減速、厳格な新型コロナウイルス対策を実施する中国経済の減速等、下振れリスクが大きいことには留意が必要です。また2022年度の賃金の見通しとしては、2022年春闘の中間集計結果によると(2022年5月9日公表)、基本給を底上げするベースアップ(ベア)実施額は、1,795組合の賃上げ額平均で1,848円となり(引き上げ率は0.62%)、前年同時期の実施額と率(賃上げ額1,635円、引き上げ率0.56%)より微増しました。

## ■2022年会社員のお小遣い調査

2022年の「会社員のお小遣い調査」では、男性会社員のお小遣いが前年の38,710円から68円減少して38,642円となりました。男性会社員のお小遣いを年代別にみると、30代が最も高く40,149円と4万円台のお小遣い額となっていますが、20代は年代別で最も低い36,792円となりました。女性会社員のお小遣い額は、昨年より1,120円減少し33,278円となり、最も少ない2019年(33,269円)に次ぐ低い水準となりました。

ライフステージ別では、未婚の男性会社員のお小遣いが最も高く45,549円となっています。一方で、子どもあり世帯では約3万3,000円~3万6,000円となり、子育て・教育費の家計への負担が重い世帯において、お小遣い額が低い結果となっています。

新型コロナウイルスによって働き方の変化があったと回答した人は、男性会社員で46.0%、女性会社員で39.8%となり、変化の内容として「テレワークで働くようになった」と「残業が減った」がともに男女共通して高くなっています。新型コロナウイルスの影響による支出変化として、支出が増えたものは「水道光熱費」が男女ともトップとなり、支出が減ったものは男女ともに「旅行代」「飲み代」「ファッション費用」となっています。テレワークの浸透や外出自粛による影響が特定の支出項目の影響しました。

副収入については、男性会社員は14.9%、女性会社員は14.4%が副収入があり、1か月あたりの副収入額が男性会社員で平均37,626円に対し、女性会社員は平均21,454円と金額に1万5000円以上の差がある結果となりました。

## ＜調査設計＞

- 調査時期 2022年4月11日～4月18日の8日間
- 調査方法 インターネットによる調査(株式会社マクロミルに依頼し、全国からサンプルを収集)
- 調査エリア 全国
- 調査対象者 会社員(正社員・契約社員・派遣社員)、パート・アルバイト
- サンプル数 合計2,712名
  - 会社員 男性:1,252名、女性:842名
  - パート・アルバイト 男性:306名、女性:312名

### ■ サンプル内訳

|     | 男性<br>会社員    |             | 女性<br>会社員  |             | 男性<br>パート・アルバイト |             | 女性<br>パート・アルバイト |             |
|-----|--------------|-------------|------------|-------------|-----------------|-------------|-----------------|-------------|
|     | N            | %           | N          | %           | N               | %           | N               | %           |
| 20代 | 313          | 25%         | 211        | 25%         | 78              | 25%         | 78              | 25%         |
| 30代 | 313          | 25%         | 210        | 25%         | 78              | 25%         | 78              | 25%         |
| 40代 | 313          | 25%         | 211        | 25%         | 78              | 25%         | 78              | 25%         |
| 50代 | 313          | 25%         | 210        | 25%         | 72              | 24%         | 78              | 25%         |
| 総計  | <b>1,252</b> | <b>100%</b> | <b>842</b> | <b>100%</b> | <b>306</b>      | <b>100%</b> | <b>312</b>      | <b>100%</b> |

※会社員、女性パート・アルバイトは、年代均等にて割付回収しています。

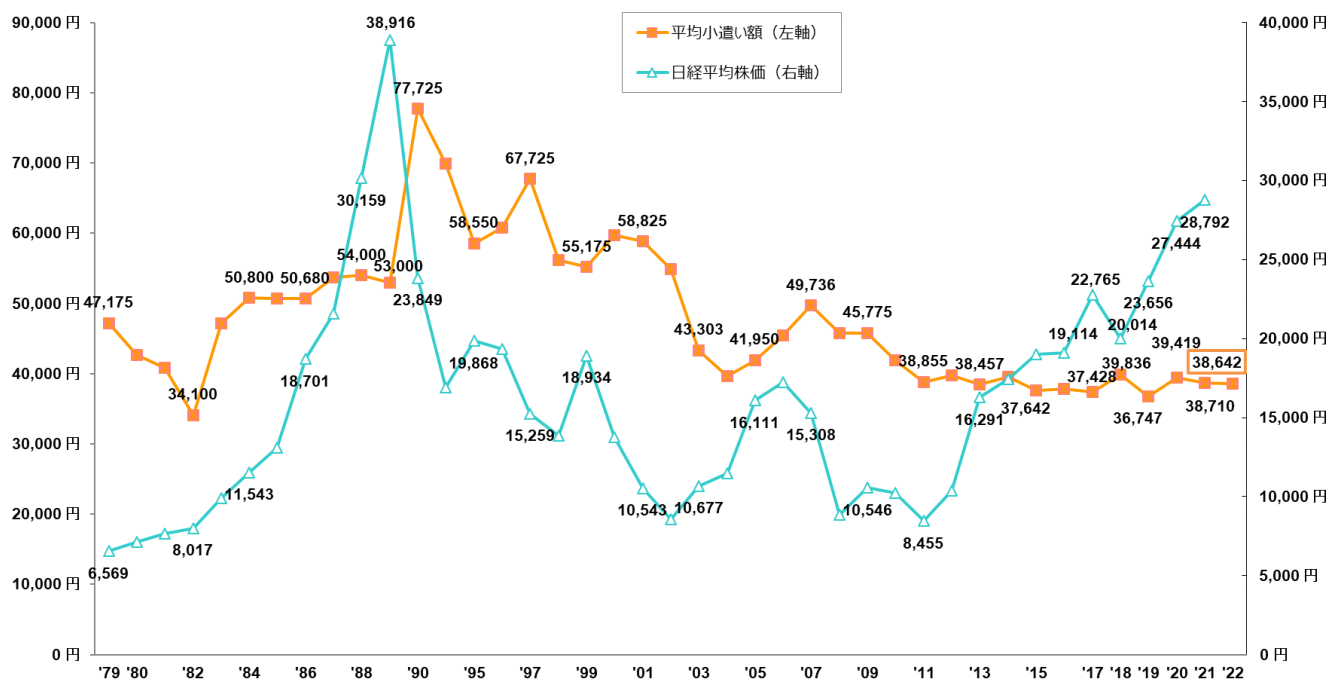
※男性パート・アルバイトは年代均等になるよう、集計時に補正をしています。  
(本レポートは、補正後のスコアを掲載しています)

※性別について「その他・答えたくない」と回答した人も対象としていますが、n=74のため分析軸に入れていません。

## ＜目次＞

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 【1】会社員のお小遣い.....              | 6  |
| 【2】会社員の昼食事情.....              | 12 |
| 【3】会社員の飲み事情.....              | 16 |
| 【4】新型コロナウイルスの影響による働き方の変化..... | 20 |
| 【5】経済的なゆとり.....               | 31 |
| 【6】お小遣いの使いみち、やりくり術.....       | 33 |
| 【7】会社員の給与管理状況.....            | 38 |
| 【8】支払い手段.....                 | 42 |
| 【9】投資状況.....                  | 44 |
| 【10】次世代サービスの認知及び利用状況.....     | 46 |
| 【11】パート・アルバイトの基本データ.....      | 51 |

## 日経平均株価と会社員の平均お小遣い額の推移 (1979年～2022年)



- 1978年以前と、1991年および1993年、1994年については調査を実施していません。
- グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。



## 【1】 会社員のお小遣い

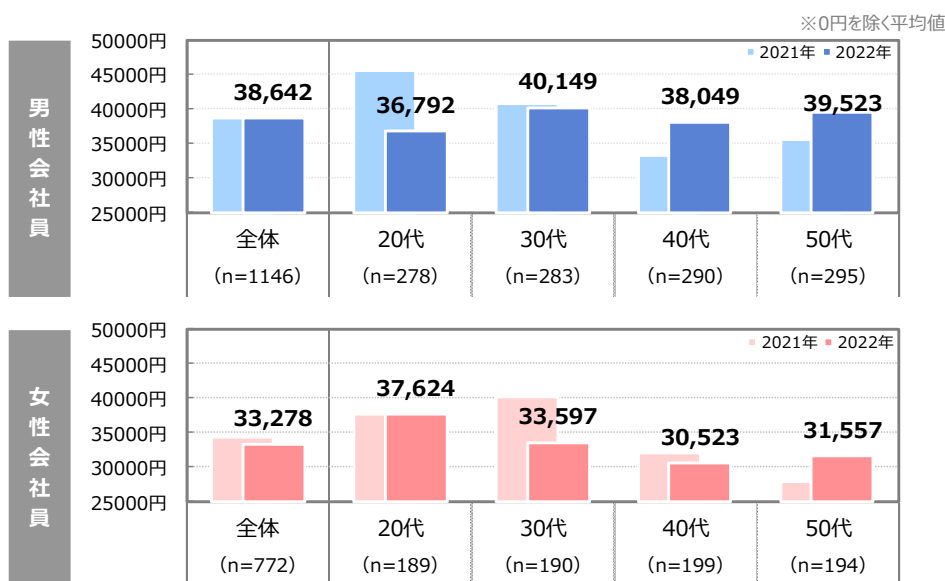
- ▶ 男性会社員の月平均お小遣い額は38,642円と昨年比68円の減少となった
- ▶ 年代別では唯一30代が40,149円と、4万円を超える結果に
- ▶ ライフステージ別では、未婚者は45,549円と男性会社員全体より約7,000円高い
- ▶ 女性会社員は昨年比で1,120円減少し33,278円となり、最も少ない2019年(33,269円)に次ぐ金額となった

### ■ 月の平均お小遣い額

男性会社員の月の平均お小遣い額は、昨年の38,710円から68円減の38,642円となりました。年代別にみると、40代と50代で増加しておりますが、20代では減少しております。

一方、女性会社員のお小遣い額は昨年の34,398円から1,120円減少し、33,278円となりました。年代別にみると、30代は減少しておりますが、50代で増加いたしました。

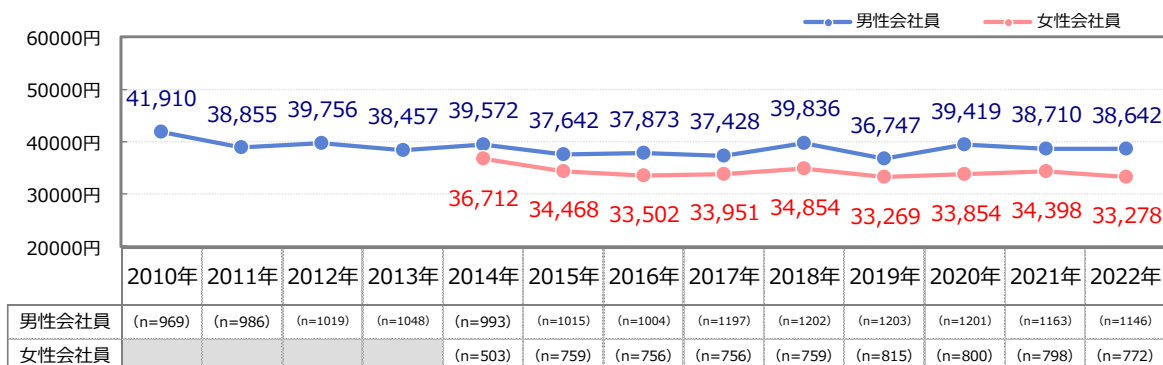
設問：あなたの「一カ月の“おこづかい”はいくらですか？(昼食代含む)



男性会社員における近年のお小遣い額は、2020年から2021年に続き、2021年から2022年でも微減して推移しております。

女性会社員のお小遣い額も男性会社員と同様、2021年から低下しており、最も少ない2019年(33,269円)に次ぐ金額となっております。

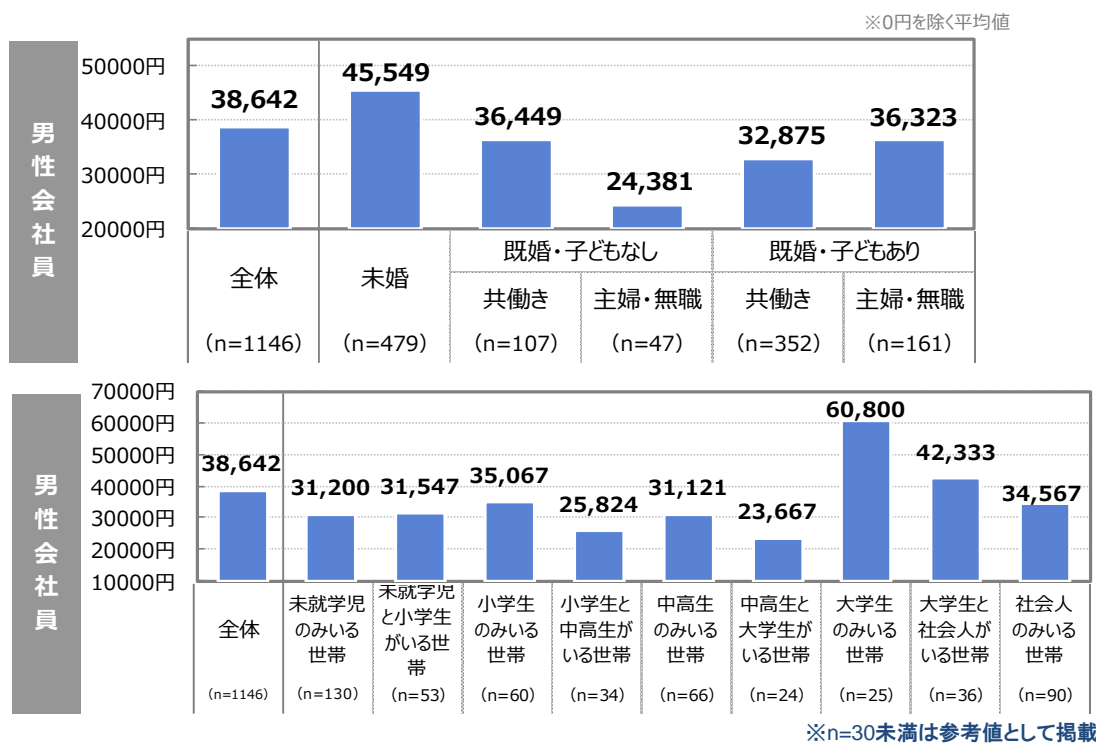
### ■ 平均お小遣い額の時系列推移(2010年～2022年)





男性社員の平均お小遣い額をライフステージ別にみると、未婚者では4万円を超えており、既婚者と比べてお小遣い額が高い結果となりました。

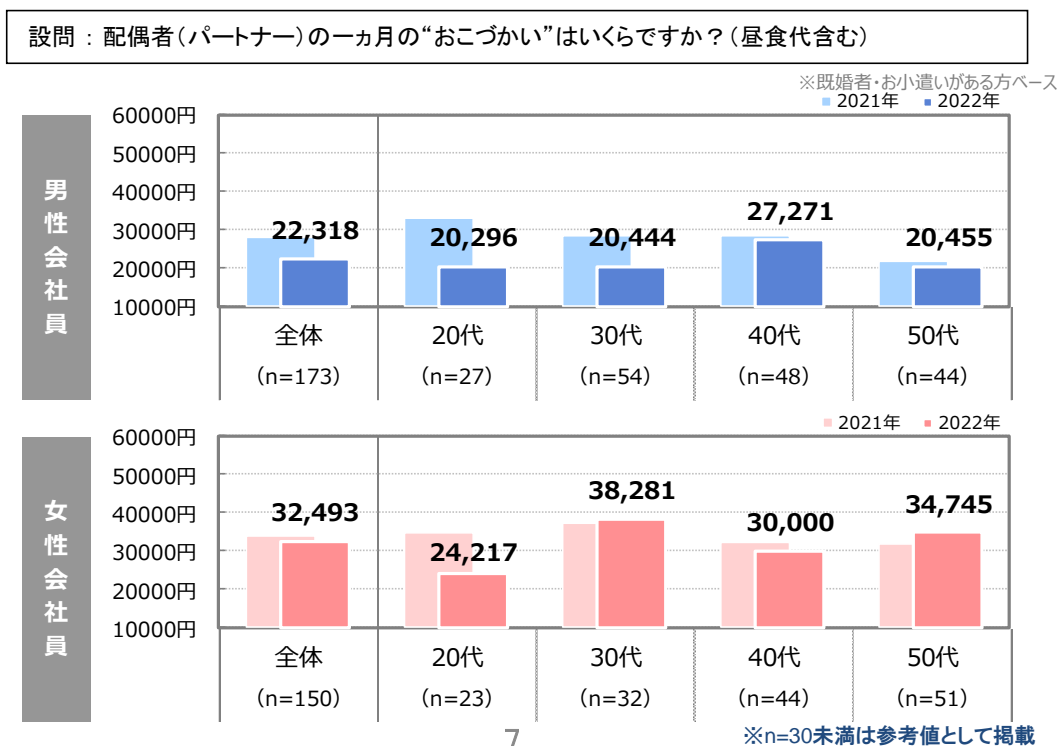
また、子どもの学齢別にみると、中高生と大学生がいる世帯でお小遣い額が最も少なくなっております。



## ■ 配偶者（パートナー）のお小遣い額

男性社員の配偶者（パートナー）のお小遣い額は、昨年より5,593円減少し、22,318円となっています。年代別では、40代が27,271円と最も高い金額となっております。

一方、女性社員の配偶者（パートナー）のお小遣い額は、1,384円減少し、32,493円となっております。また、年代別にみると、30代が38,281円と最も高い金額となっております。



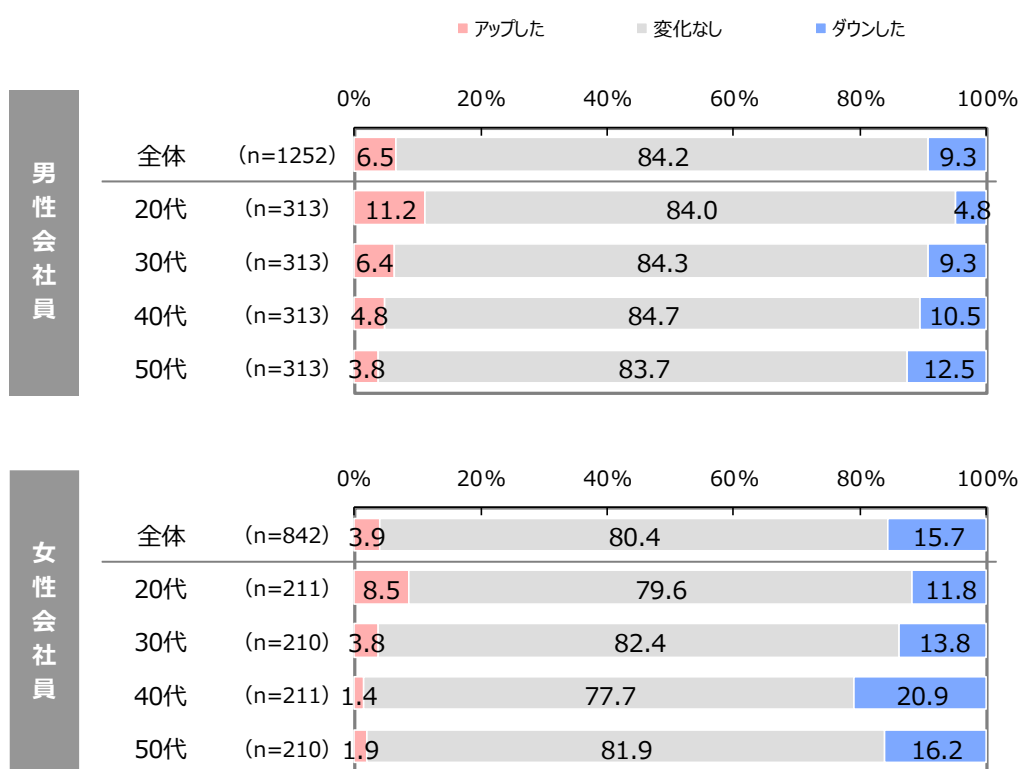
## ■ お小遣い額の変化

男性会社員では、この1年でお小遣い額に変化があった方は限定的で、「変化なし」が8割半ばという結果でした。変化があった方では、「アップした」が6.5%、「ダウンした」が9.3%と、ダウンした方の割合がやや多い結果となっております。年代別にみると、若年の方ほど「アップした」の割合が高まり、20代では11.2%となります。

一方、「ダウンした」の割合は、50代で12.5%と最も多くなります。

女性会社員についても、多くの方が「変化なし」という結果は、男性会社員と同様です。ただし、「ダウンした」の割合が15.7%と男性会社員より高めで、特に40代で20.9%と2割を超える高い割合となっております。

設問：この一年(2021年4月～2022年3月)の間に、あなたの“おこづかい”はどのように変化しましたか？



## ■ お小遣いに変化があった方のプロフィール

男性社員のこの1年でお小遣いがアップした方(6.5%)とダウンした方(9.3%)のプロフィールを、男性社員全体と比較したものが以下となります。ここから、お小遣いに変化があった方がどのような方なのかを確認します。

まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が42.7%を占め、若年層寄りの傾向が顕著です。年収では、個人年収・世帯年収ともに全体より高く、特に世帯年収は全体と100万円以上の開きがあります。家族構成では未婚層の割合が高い傾向がみられます。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は50代が多く、年収は、個人年収・世帯年収ともに全体より低い結果となっております。

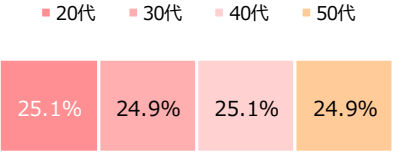
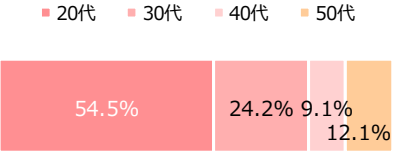
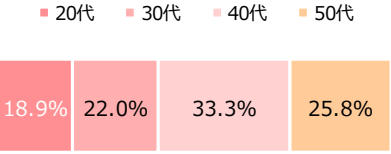
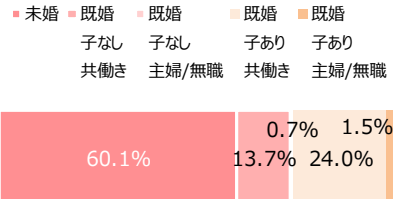
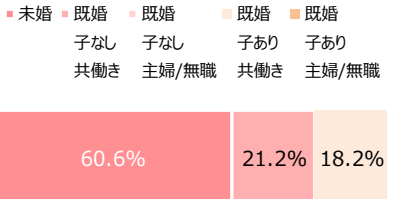
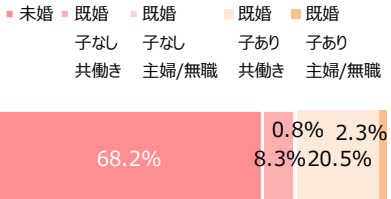
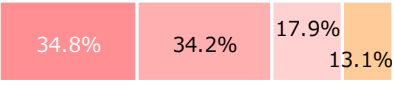
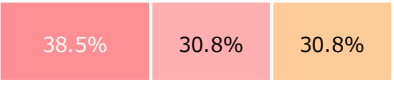
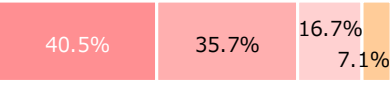
|                   | 男性社員 全体<br>(n=1252)  | お小遣いがアップした方<br>(n=82)   | お小遣いがダウンした方<br>(n=116)  |
|-------------------|--|---|---|
| 年齢                | <ul style="list-style-type: none"> <li>20代 25.0%</li> <li>30代 25.0%</li> <li>40代 25.0%</li> <li>50代 25.0%</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>20代 42.7%</li> <li>30代 24.4%</li> <li>40代 18.3%</li> <li>50代 14.6%</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>20代 12.9%</li> <li>30代 25.0%</li> <li>40代 28.4%</li> <li>50代 33.6%</li> </ul>  |
| 年収                | 個人年収 <b>518</b> 万円<br>世帯年収 <b>664</b> 万円   | 個人年収 <b>580</b> 万円<br>世帯年収 <b>808</b> 万円  | 個人年収 <b>488</b> 万円<br>世帯年収 <b>593</b> 万円  |
| 家族構成              | <ul style="list-style-type: none"> <li>未婚 41.9%</li> <li>既婚 子なし 9.3%</li> <li>既婚 子なし 4.2%</li> <li>既婚 子あり 30.2%</li> <li>既婚 子あり 14.4%</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>未婚 51.2%</li> <li>既婚 子なし 13.4%</li> <li>既婚 子なし 1.2%</li> <li>既婚 子あり 26.8%</li> <li>既婚 子あり 7.3%</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>未婚 40.5%</li> <li>既婚 子なし 6.0%</li> <li>既婚 子なし 4.3%</li> <li>既婚 子あり 31.9%</li> <li>既婚 子あり 17.2%</li> </ul>                      |
| 給与管理状況<br>※既婚者ベース | <ul style="list-style-type: none"> <li>全額を家庭に入れる 57.5%</li> <li>一定額を家庭に入れる 23.8%</li> <li>一定額を残し、残りを家庭に入れる 13.3%</li> <li>自分で自由に使っている(家庭には入れず) 5.4%</li> </ul> (n=727) | <ul style="list-style-type: none"> <li>全額を家庭に入れる 52.5%</li> <li>一定額を家庭に入れる 27.5%</li> <li>一定額を残し、残りを家庭に入れる 15.0%</li> <li>自分で自由に使っている(家庭には入れず) 5.0%</li> </ul> (n=40) | <ul style="list-style-type: none"> <li>全額を家庭に入れる 63.8%</li> <li>一定額を家庭に入れる 20.3%</li> <li>一定額を残し、残りを家庭に入れる 13.0%</li> <li>自分で自由に使っている(家庭には入れず) 2.9%</li> </ul> (n=69) |

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

女性社員では、この1年でお小遣いがアップした方は3.9%、ダウンした方は15.7%という結果になりました(P8参照)。

女性社員全体と比較して、プロフィールの特徴をみると、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が54.5%を占め、若年層寄りの傾向がみられます。個人年収・世帯年収ともに女性社員全体を大きく上回る金額になっており、どちらも全体と比べて、50万円以上の開きがあります。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は40代が最も多く、年収は個人年収・世帯年収ともに全体より低い結果となっております。

|                   | 女性社員 全体<br>(n=842)  | お小遣いがアップした方<br>(n=33)   | お小遣いがダウンした方<br>(n=132)  |
|-------------------|---|---|---|
| 年齢                |  <p>20代 25.1% 30代 24.9% 40代 25.1% 50代 24.9%</p>  |  <p>20代 54.5% 30代 24.2% 40代 9.1% 50代 12.1%</p>                                  |  <p>20代 18.9% 30代 22.0% 40代 33.3% 50代 25.8%</p>  |
| 年収                | <p>個人年収 <b>340</b> 万円<br/>世帯年収 <b>615</b> 万円</p>  | <p>個人年収 <b>392</b> 万円<br/>世帯年収 <b>676</b> 万円</p>  | <p>個人年収 <b>283</b> 万円<br/>世帯年収 <b>466</b> 万円</p>  |
| 家族構成              |  <p>未婚 60.1% 既婚子なし 13.7% 既婚子あり 0.7% 既婚主婦/無職 24.0% 1.5%</p>   |  <p>未婚 60.6% 既婚子なし 21.2% 既婚子あり 18.2%</p>                                      |  <p>未婚 68.2% 既婚子なし 8.3% 既婚子あり 0.8% 既婚主婦/無職 20.5% 2.3%</p>  |
| 給与管理状況<br>※既婚者ベース |  <p>全額を家庭に入れる 34.8% 一定額を家庭に入れる 34.2% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 17.9% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 13.1%</p> <p>(n=336)</p> |  <p>全額を家庭に入れる 38.5% 一定額を家庭に入れる 30.8% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 30.8%</p> <p>(n=13)</p> |  <p>全額を家庭に入れる 40.5% 一定額を家庭に入れる 35.7% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 16.7% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 7.1%</p> <p>(n=42)</p> |

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

※n=30未満は参考値として掲載

## ■ お小遣い額がアップした理由・ダウンした理由

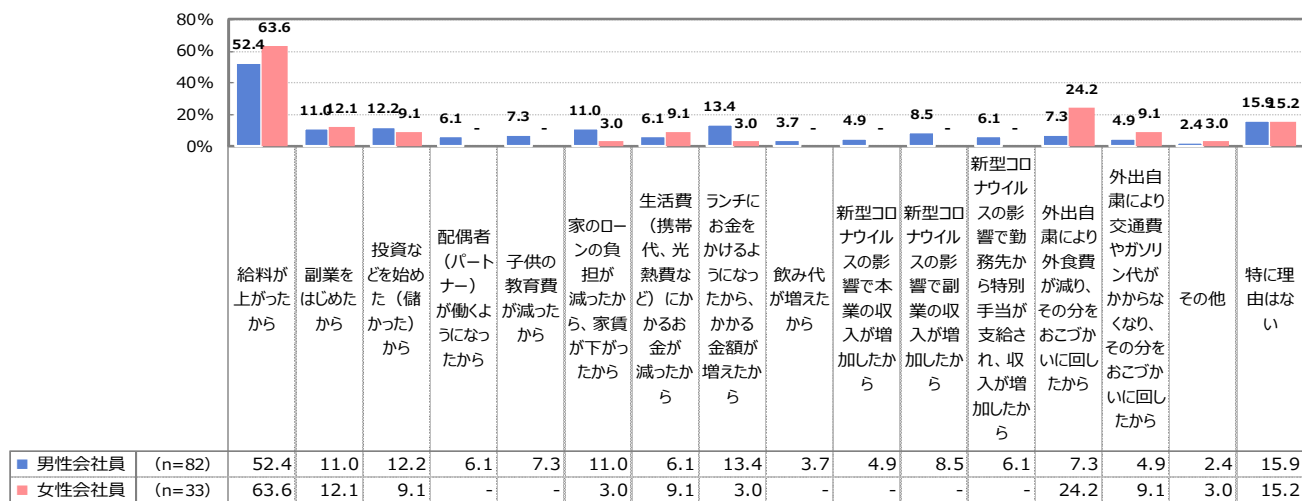
この1年でお小遣いがアップした方(男性会社員:6.5%、女性会社員3.9%)の理由が以下となります(P8参照)。

男性会社員におけるお小遣いがアップした理由は、「給料が上がったから」が52.4%で最も高く、「ランチにお金をかけるようになったから」13.4%、「投資などを始めたから」12.2%が続く結果となりました。

女性会社員では1位は男性会社員と変わらずですが、2番手には「外出自粛により外食費が減り、その分をお小遣いに回したから」が挙がる点が特徴となっております。

設問：おこづかいがアップした要因としてあてはまるものをすべてお選び下さい。

※お小遣いがアップした方ベース



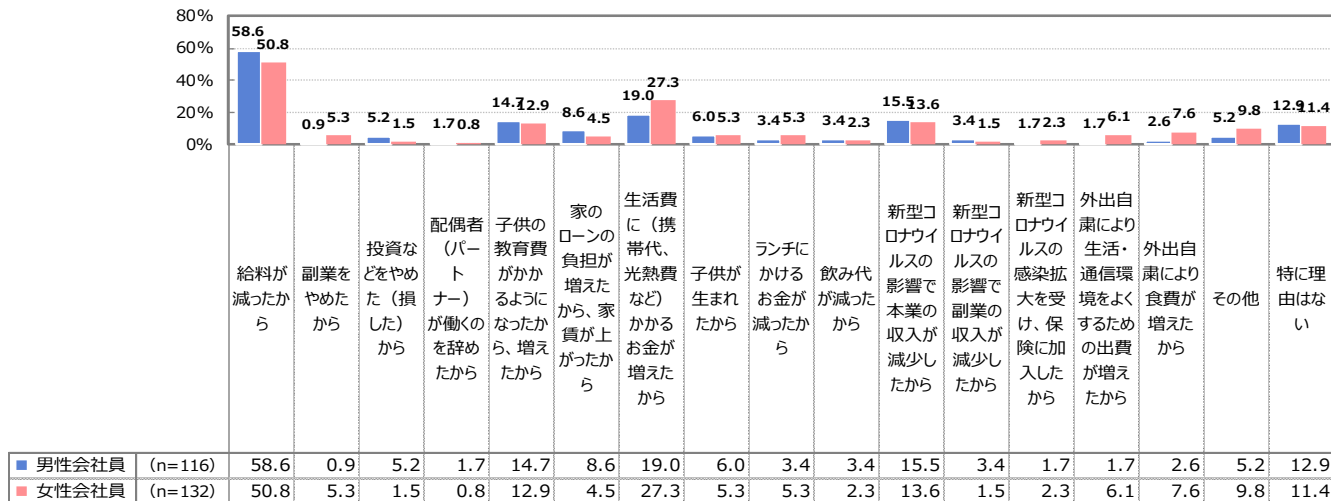
また、この1年でお小遣いがダウンした方(男性会社員:9.3%、女性会社員15.7%)の理由が以下となります(P8参照)。

男性会社員におけるお小遣いがダウンした理由は、「給料が減ったから」が58.6%で最も高く、「生活費にかかるとお金の増えたから」19.0%、「コロナの影響で本業の収入が減少したから」15.5%が続く結果となりました。

また、女性会社員の理由は、男性会社員同様、「給料が減ったから」が50.8%で最も高く、「生活費にかかるとお金の増えたから」27.3%、「コロナの影響で本業の収入が減少したから」13.6%と続いています。

設問：おこづかいがダウンした要因としてあてはまるものをすべてお選び下さい。

※お小遣いがダウンした方ベース



## 【2】 会社員の昼食事情

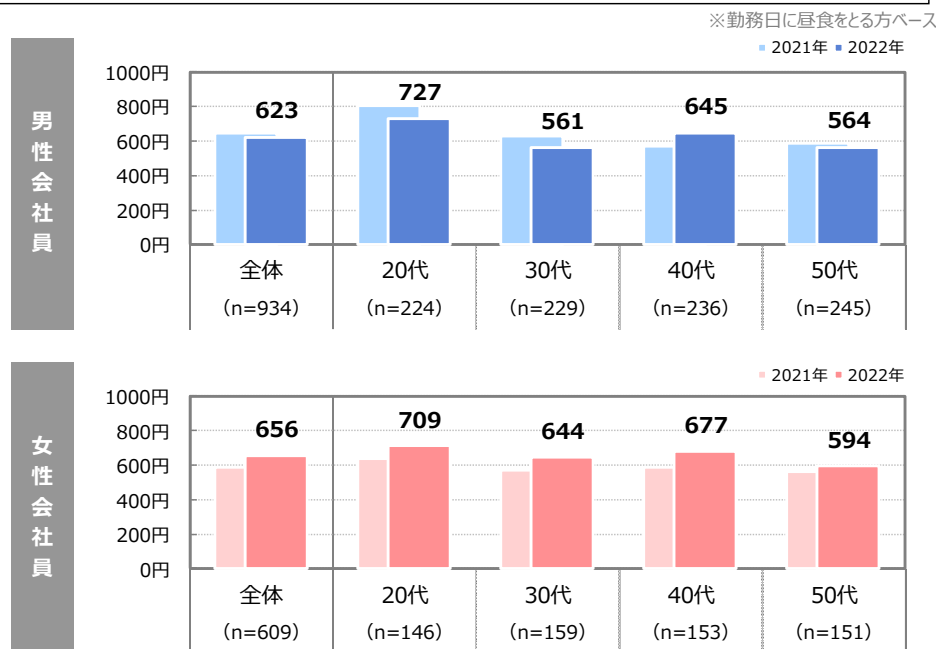
- 男性会社員の昼食代は623円と昨年の649円とほぼ同水準、女性会社員は昨年より66円増加し656円となり、女性会社員の昼食代が男性会社員を上回る結果に
- 男性・女性会社員ともに持参弁当の割合が最も高く、男性で33.9%、女性で52.0%を占める
- 昼食にかかる平均時間では、男性会社員の21分に対し、女性会社員は28分と男性よりやや長い傾向

### ■ 一日の平均昼食代

男性会社員の一日の昼食代は、昨年の649円から26円減少し、623円となりました。  
年代別にみると、20代で727円と最も高くなっております。

女性会社員の一日の昼食代は、昨年の590円から66円増加し、656円となりました。  
年代別にみると、いずれの年代でも増加しております。また、男性と同様、20代で709円と最も高くなっております。

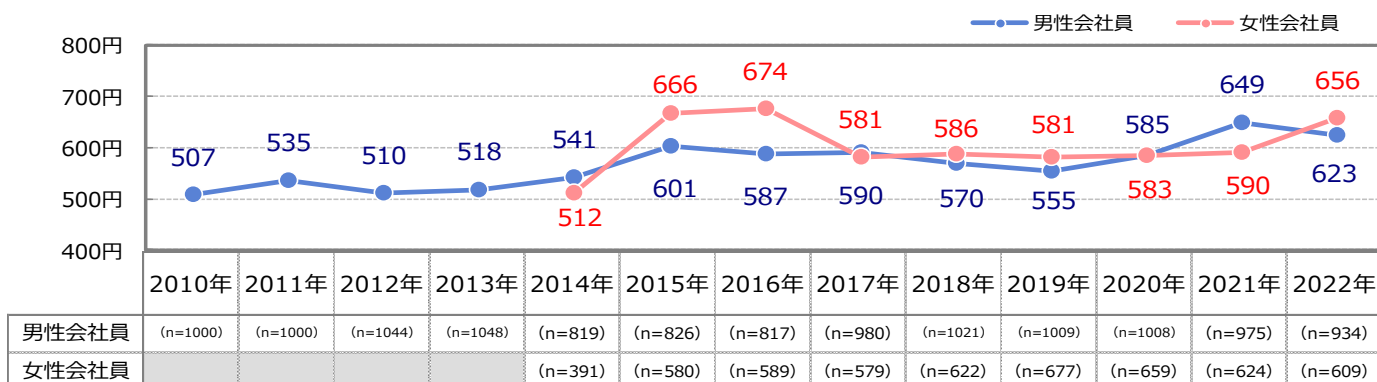
設問：昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参や、在宅勤務でお昼を作る時除く)



男性会社員における直近の昼食代の傾向は、昨年より26円減少しましたが、昨年に続き600円は超えており、高い水準となっております。

一方、女性会社員の平均昼食代は、昨年より66円増加して、2016年以來の600円を超える高水準となっております。

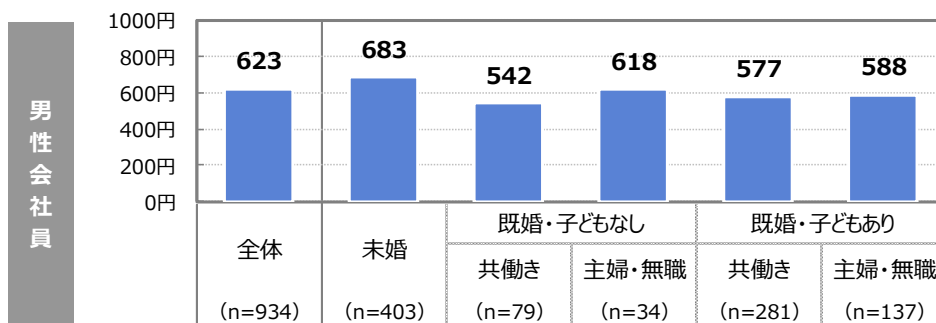
### ■ 平均昼食代の時系列推移(2010年～2022年)



男性会社員の一日の昼食代をライフステージ別にみると、未婚者が683円と最も高い金額となっています。

設問：昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参や、在宅勤務でお昼を作る時除く)

※勤務日に昼食をとる方ベース



## ■ 昼食の内訳

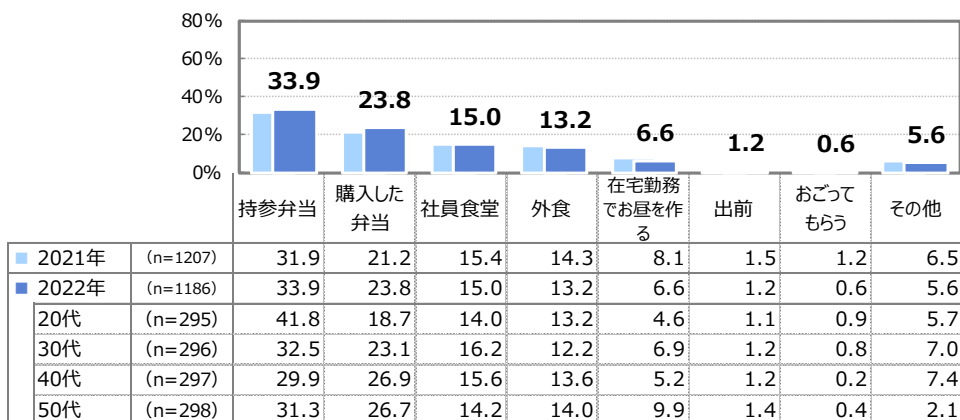
男性会社員における、昼食の内訳トップ3は、「持参弁当」33.9%、「購入した弁当」23.8%、「社員食堂」15.0%の順で、昨年と比較して大きな変化はみられませんでした。

女性会社員では、「持参弁当」52.0%、「購入した弁当」18.3%、「社員食堂」8.3%の順となっています。

設問：あなたの平均的な一週間の昼食(勤務日)のそれぞれの回数の内訳を教えてください。

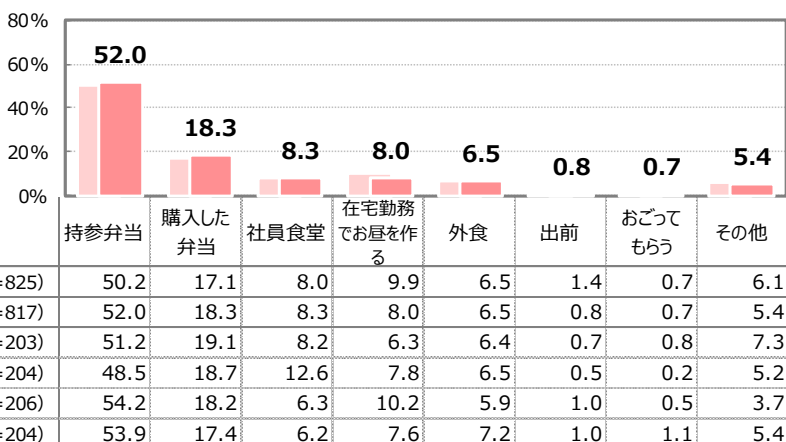
### 男性会社員

※勤務日に昼食をとる方ベース



※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示

### 女性会社員



※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示

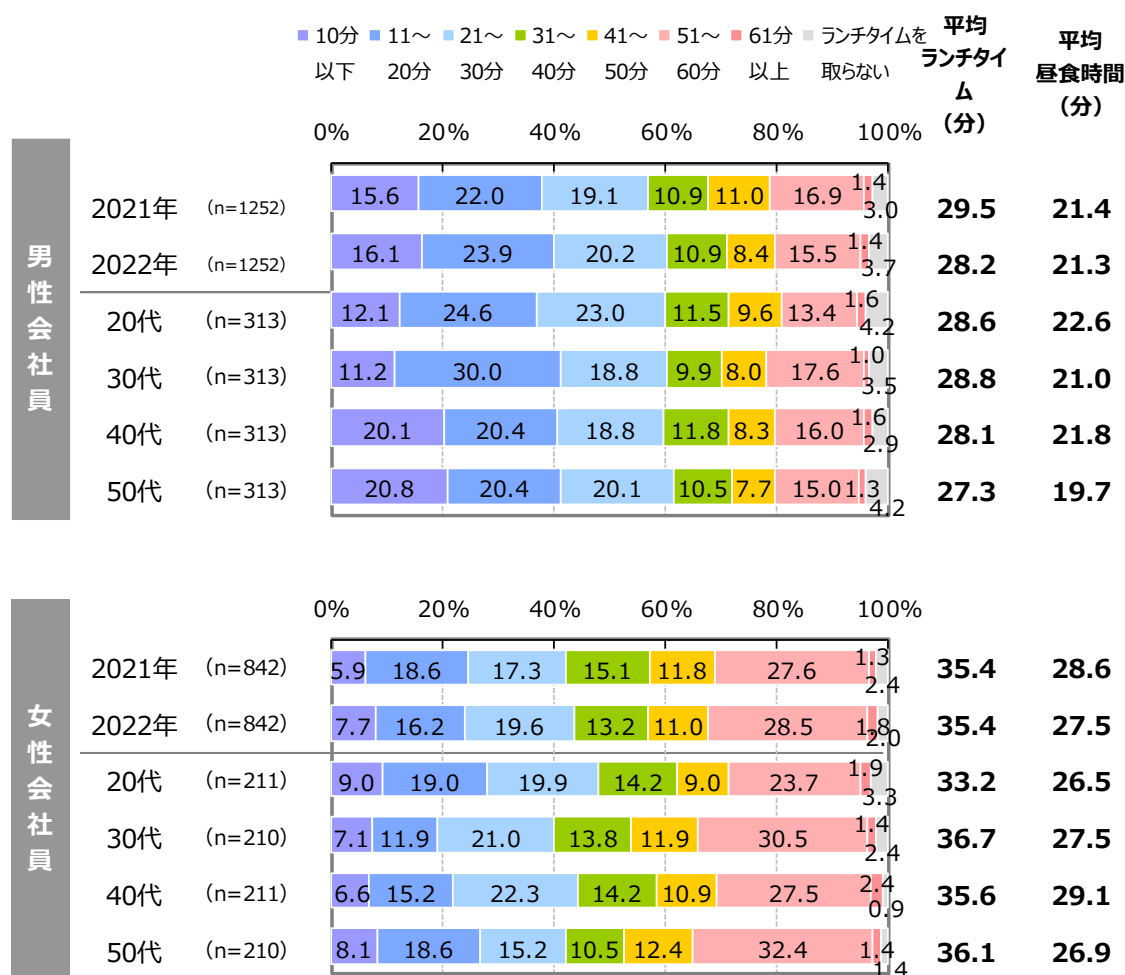


## ■ ランチタイムにかける時間

男性社員における、ランチタイム時間は平均28.2分。そのうち、昼食時間は平均21.3分となっています。なお、ランチタイム時間の回答は、「11～20分」と「21～30分」が2割以上と比較的多いです。また、年代別にみると、40代以上で「10分以下」が2割程度と割合が高い点が特徴です。

女性社員においては、「51～60分」が3割弱と多く、ランチタイム時間は平均35.4分、昼食時間は平均27.5分と、男性社員よりやや長い傾向がみられます。

設問：ランチタイム(昼食を含む勤務日のお昼休憩時間)にかける時間は平均して、どのくらいですか。  
 昼食(勤務日)にかける時間は平均して、どのくらいですか。



## ■ ランチタイムの過ごし方

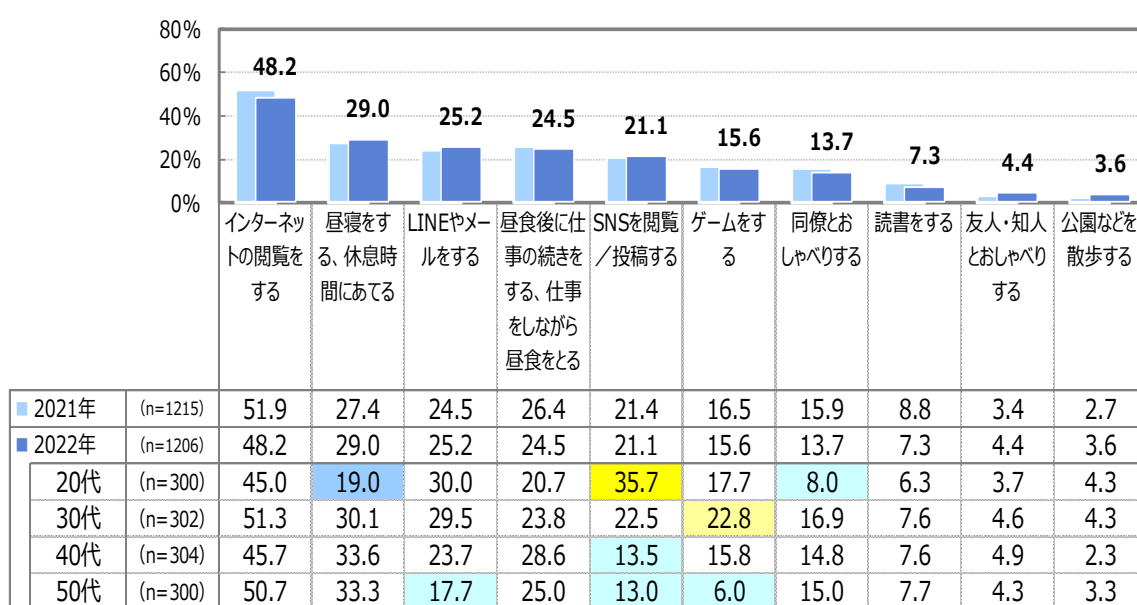
男性社員における、ランチタイムの過ごし方トップ3は、「インターネットの閲覧」48.2%、「昼寝や休息」29.0%、「LINEやメールをする」25.2%となっております。20代では「SNSを閲覧/投稿する」が3割半ばと高い点が特徴です。

女性社員においても、男性同様、「インターネットの閲覧」54.3%がトップになっています。しかし、「LINEやメールをする」39.8%、「SNSを閲覧/投稿する」38.9%、「同僚とおしゃべりする」22.8%が続いており、男性社員とやや異なる傾向にあることがわかります。昨年と比較すると「LINEやメールをする」は5pt以上減少しております。また、年代別では、30代以下で「SNSを閲覧/投稿する」が5割以上と高くなっております。

設問：あなたの「ランチタイムの過ごし方」として、あてはまるものを、全てお答えください。

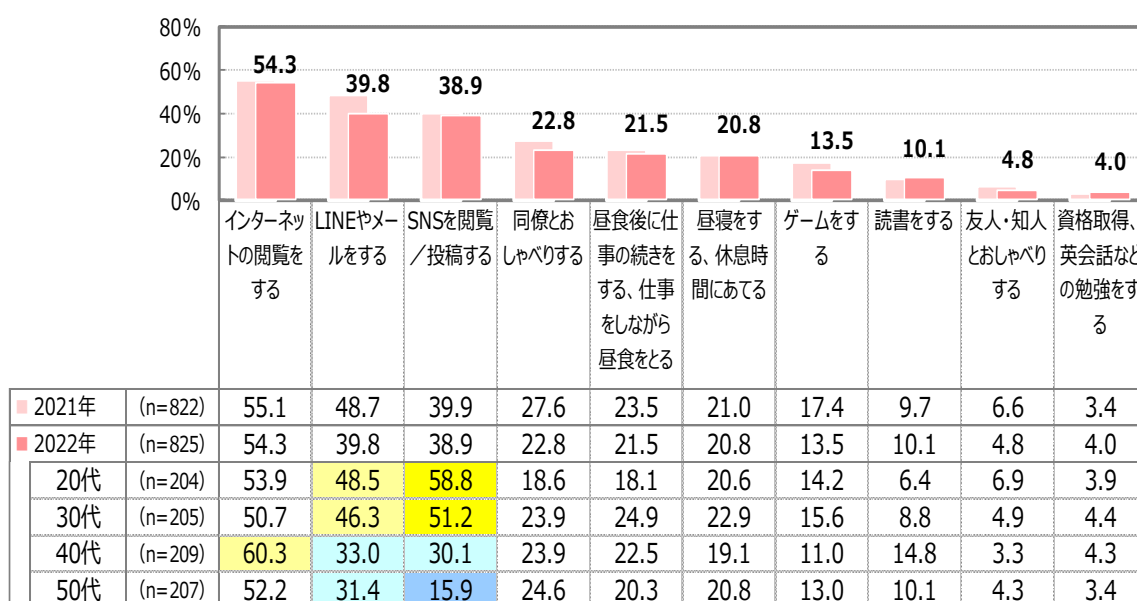
### 男性社員

※ランチタイム(お昼休憩)をとる方ベース



■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt ※上位10項目を掲載

### 女性社員



■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt ※上位10項目を掲載

### 【3】 会社員の飲み事情

- 昨年と比べて飲酒している男性会社員の割合はほぼ同じで、仕事後の外、自宅含めた飲酒は68.2%となり、「お酒を飲まない人」は31.8%と約3人に1人は飲酒しない状況
- 男性会社員の1回の飲み代は5,395円、女性会社員の1回の飲み代は4,464円
- 1カ月の飲み代は、男性会社員は昨年より1,734円減り11,495円、女性会社員は1,278円減り8,429円に(※飲み行く方ベース比較、19ページ参照)

#### ■ 仕事後の飲酒状況と1回あたりの飲み代

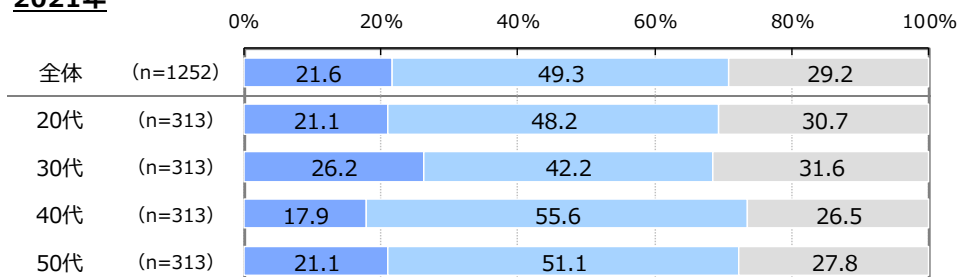
男性会社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が23.8%、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」が44.4%を占めており、飲酒している方は68.2%にのびります。年代別では、20代で「飲みに行く」が最も高くなっております。なお、昨年と比較すると、「飲みに行く」は2pt増加いたしました。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代を比較すると、外での飲み代が平均5,395円に対し、自宅での飲み代が平均2,817円と、2,578円の開きが見られます。

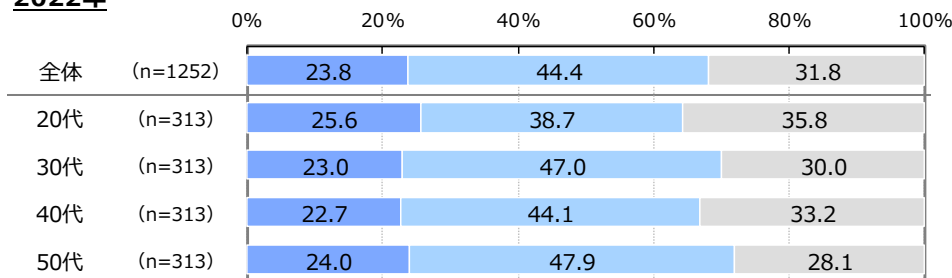
設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？  
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？

#### 男性会社員

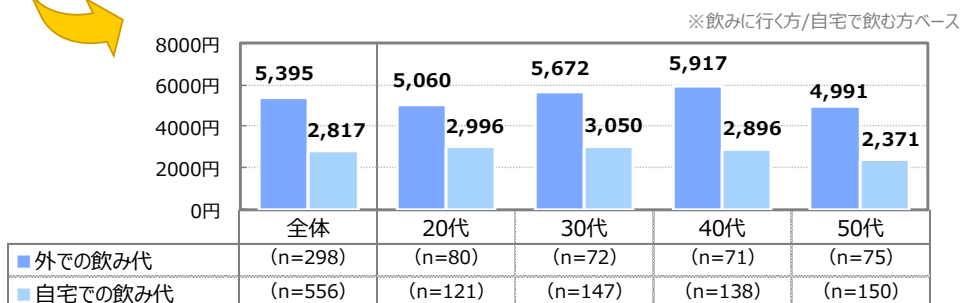
#### 2021年



#### 2022年

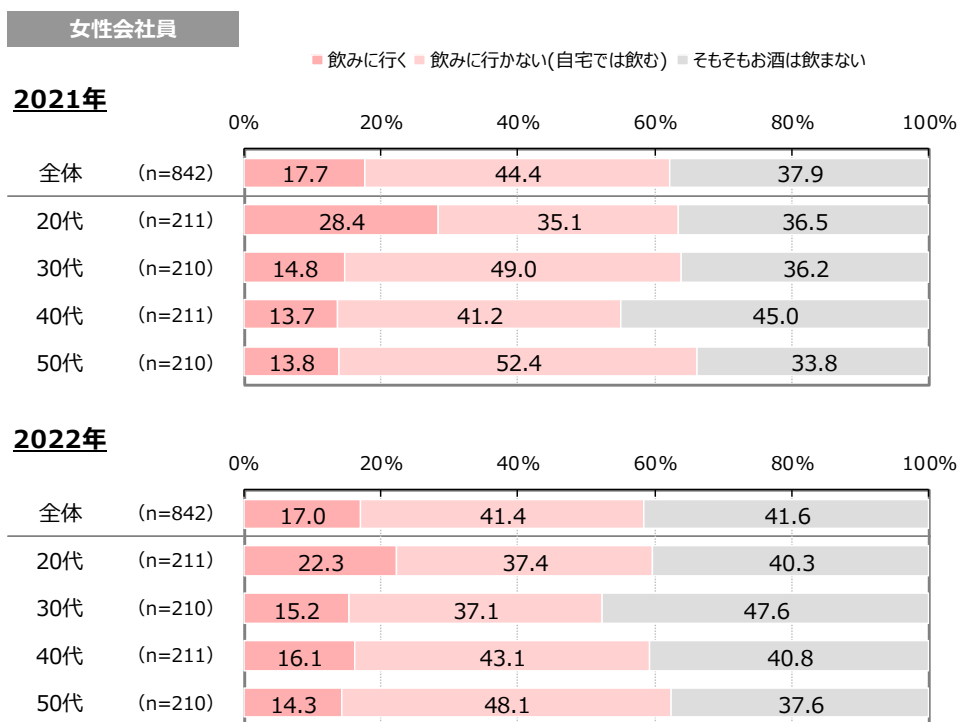


#### 1回の平均飲み代は…？

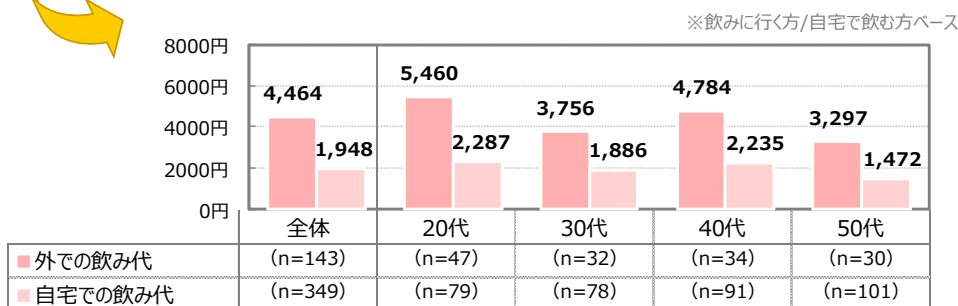


女性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が17.0%を、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」は41.4%を占めており、飲酒している方は58.4%となっています。なお、昨年と比較すると、「飲みに行く」は0.7pt減少、「飲みに行かない(自宅では飲む)」は3pt減少しており、飲酒している方全体では4pt程度の減少となっております。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外での飲み代が平均4,464円に対し、自宅での飲み代が平均1,948円と、2,516円の開きがみられます。また、年代別では、20代で外での飲み代が高い点の特徴です。



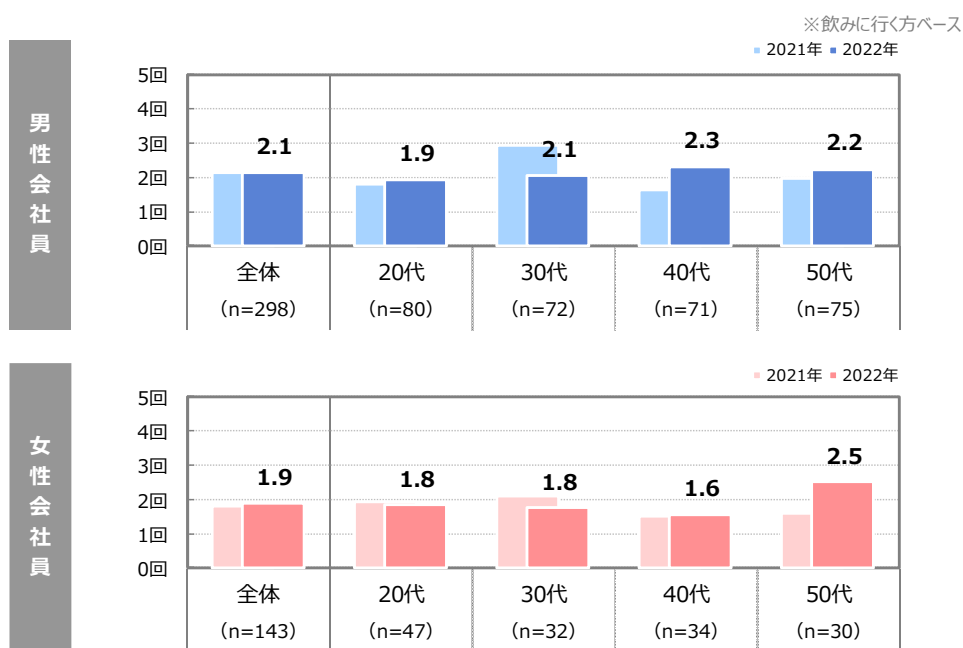
**1回の平均飲み代は・・・？**



■ 1カ月の飲み回数 ※飲みに行く方/自宅で飲む方ベース

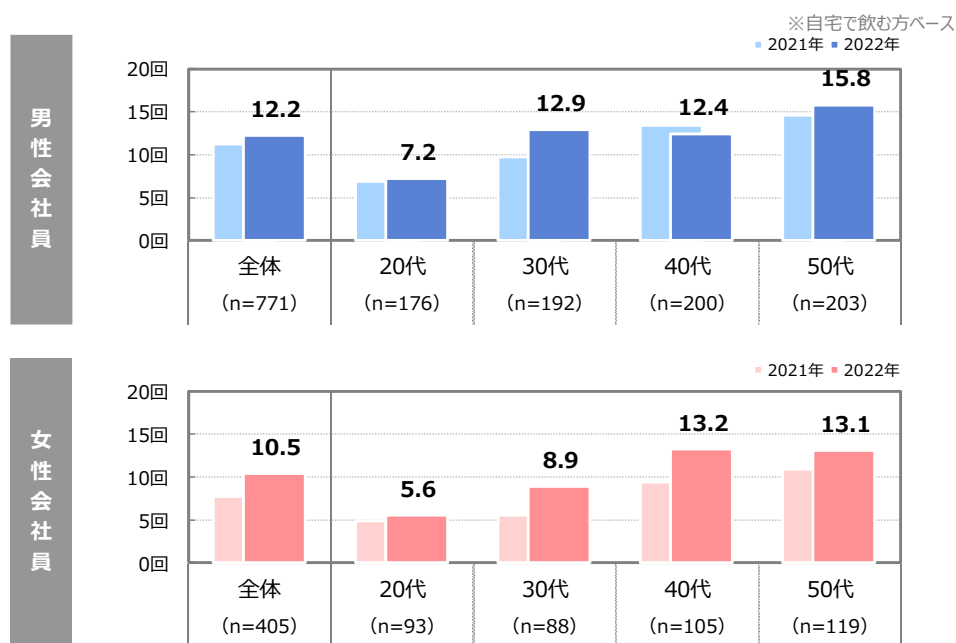
男性社員の1カ月の平均外飲み回数は2.1回、女性社員は1.9回と、どちらも昨年と同水準となっております。年代別にみると、男性社員は、唯一、30代で飲み回数が減少しておりますが、その他の年代ではいずれも増加しております。また、女性社員では、50代で飲み回数が増加しております。

設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？



1ヶ月の自宅での飲みの回数の平均は、男性社員が12.2回、女性社員が10.5回と、いずれも昨年より増加しております。年代別にみると、女性社員は、いずれの年代でも自宅で飲む回数が増加している点が特徴となります。

設問：1ヶ月あたり平均何回くらい自宅でお酒を飲みますか？

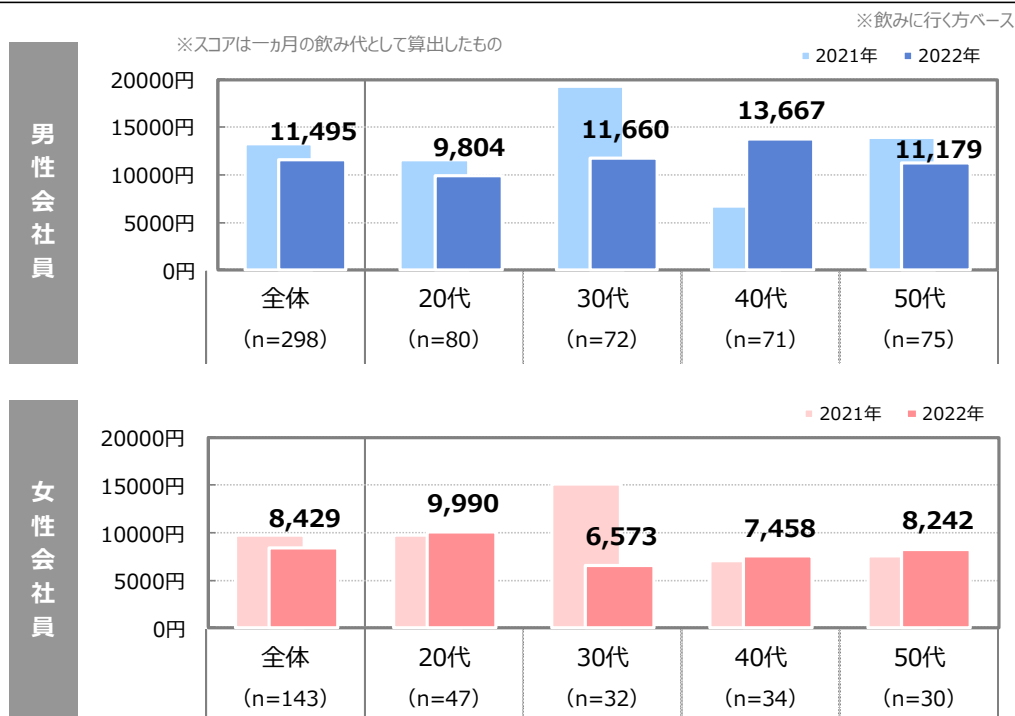


■ 1カ月の飲み代 ※飲みに行く方ベース

1回の飲み代と1カ月の飲み回数から算出した男性会社員の1カ月の飲み代は、昨年より1,734円減少し、11,495円となりました。年代別にみると、30代は大幅に減少している一方、40代は大幅に増加している点が特徴となっております。

女性会社員は、男性会社員より3,066円低い8,429円という結果になりました。年代別にみると、男性会社員と同様、30代で昨年より大幅に減少している点が特徴的です。

設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？  
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？



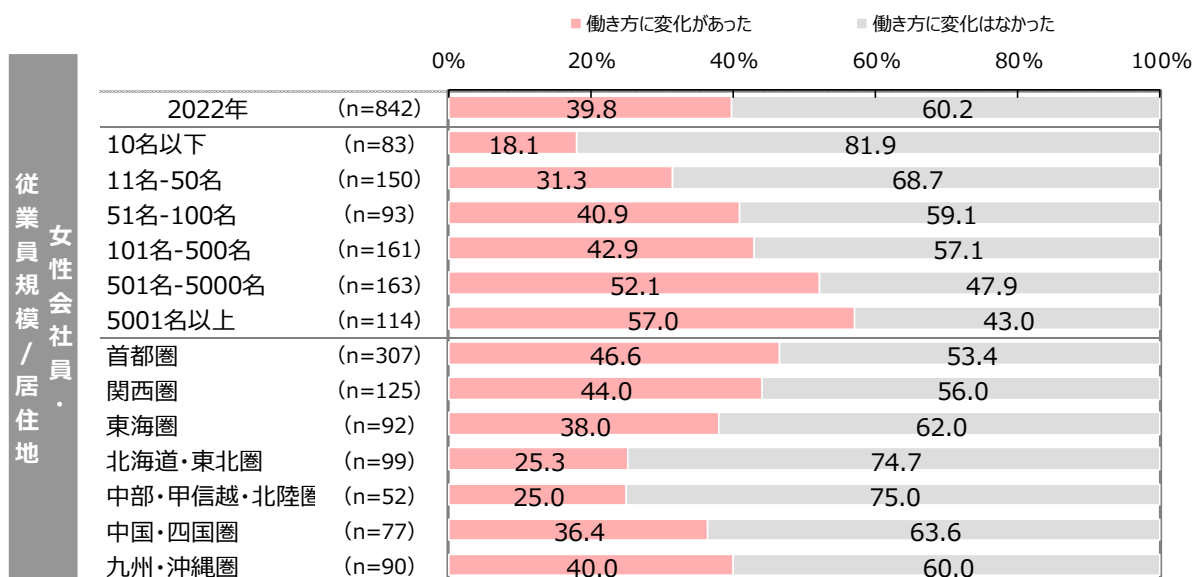
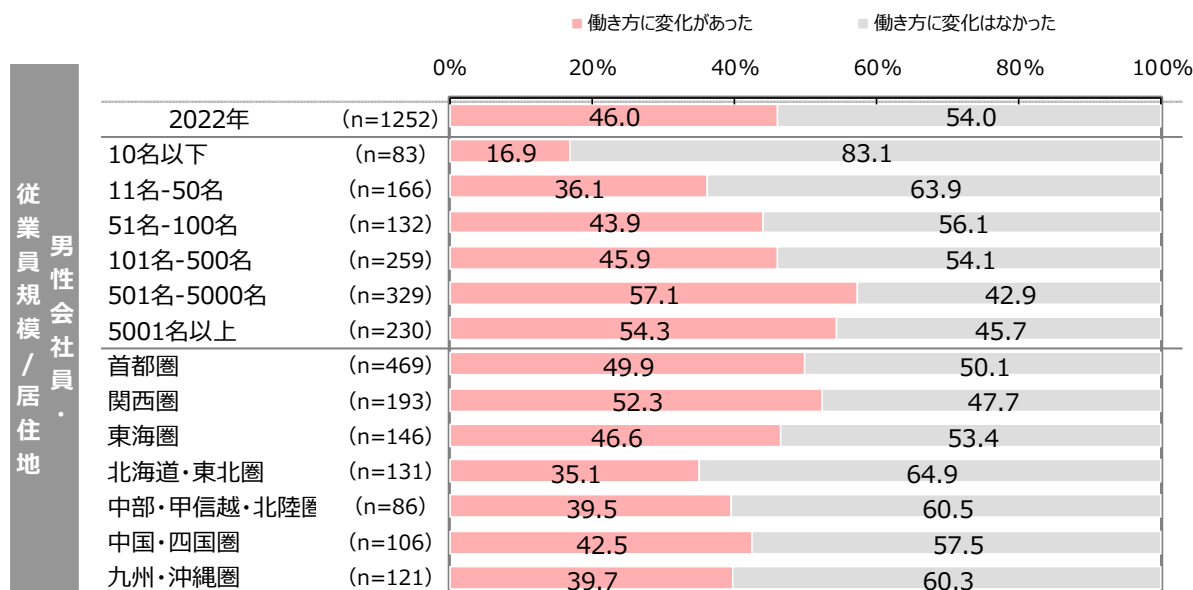
#### 【4】新型コロナウイルスの影響による働き方の変化

- ▶ 働き方変化の有無は、「変化があった」が男性会社員で46.0%、女性会社員で39.8%となる。男性・女性会社員で従業員規模が501名以上で「変化があった」が5割を超える
- ▶ 男性・女性会社員の働き方変化の内容は同じで、「テレワークで働くようになった」と「残業が減った」が上位に
- ▶ 新型コロナウイルスの影響で支出が増えたものは、男性会社員は「水道・光熱費」35.2%、「テレワーク関連費」23.4%、「子どもの教育費」20.2%、女性会社員は「水道・光熱費」46.3%、「子どもの教育費」28.2%、「テレワーク関連費」23.0%と続く

#### ■ 働き方変化の有無

男性会社員において、働き方変化の有無は「変化があった」が46.0%と4割半ばを超えます。また、女性会社員においては39.8%と男性よりは低いスコアとなっております。なお、どちらも従業員規模が大きいほど、「変化があった」のスコアが高くなる傾向です。

設問：あなたのお勤め先の、新型コロナウイルスの影響による働き方の変化にあてはまるものをお選びください。





## ■ 働き方変化の内容

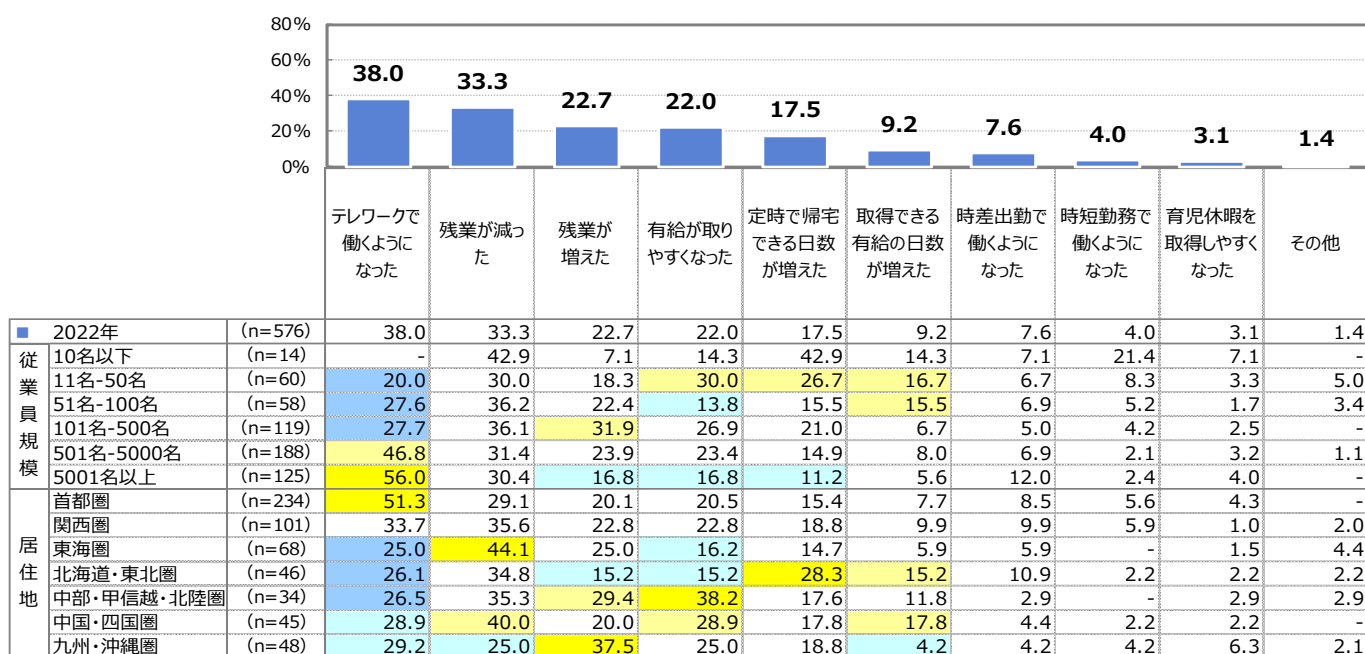
男性社員の働き方変化の内容は、「テレワークで働くようになった」が38.0%で最も高く、「残業が減った」33.3%、「残業が増えた」22.7%が続きます。「テレワークで働くようになった」については、従業員規模が大きいほどスコアが高くなる傾向で、501名以上では4割以上と高くなっており、また、首都圏でもスコアが5割強と高くなっており、

また、女性社員の働き方変化の内容は、男性社員と同様、「テレワークで働くようになった」41.5%、「残業が減った」25.1%が上位となっております。「テレワークで働くようになった」については、男性同様に従業員規模が大きいほどスコアが高くなる傾向で、501名以上では半数以上と高くなっており、また、首都圏でもスコアが高い傾向が見られます。

設問：あなたのお勤め先の、新型コロナウイルスの影響による働き方の変化にあてはまるものをお選びください。

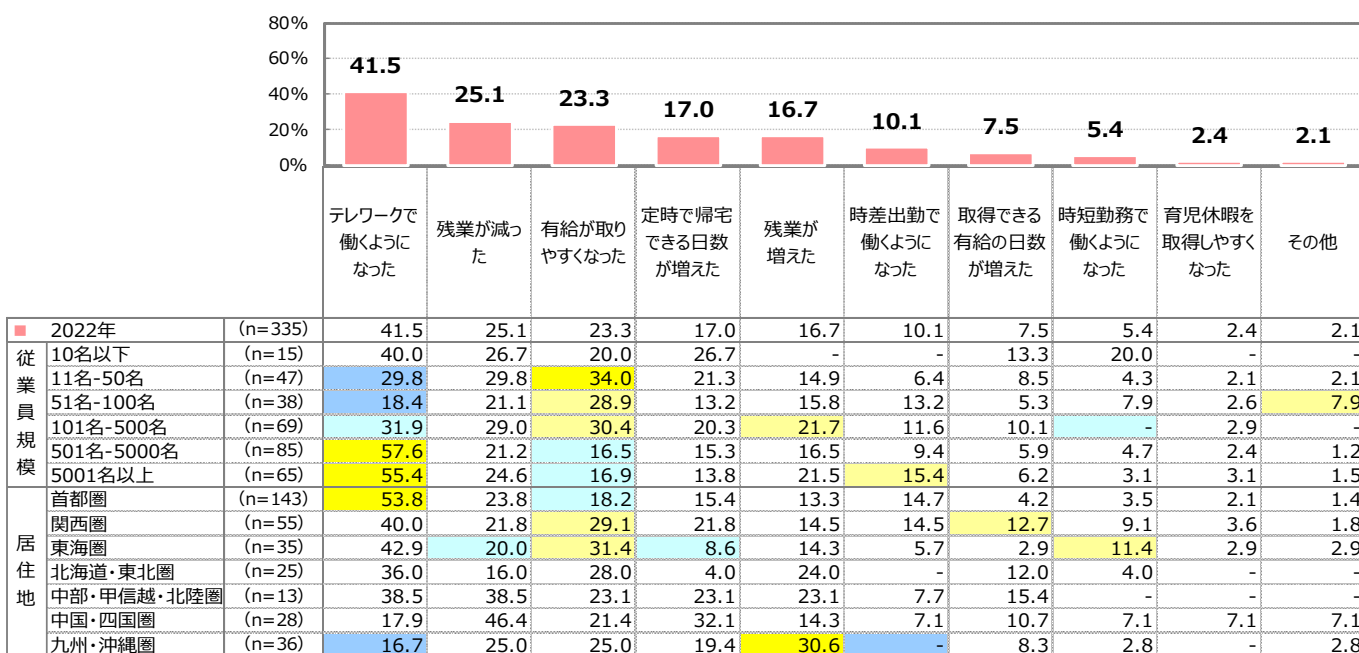
### 男性社員

※働き方に変化があった方ベース



■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

### 女性社員

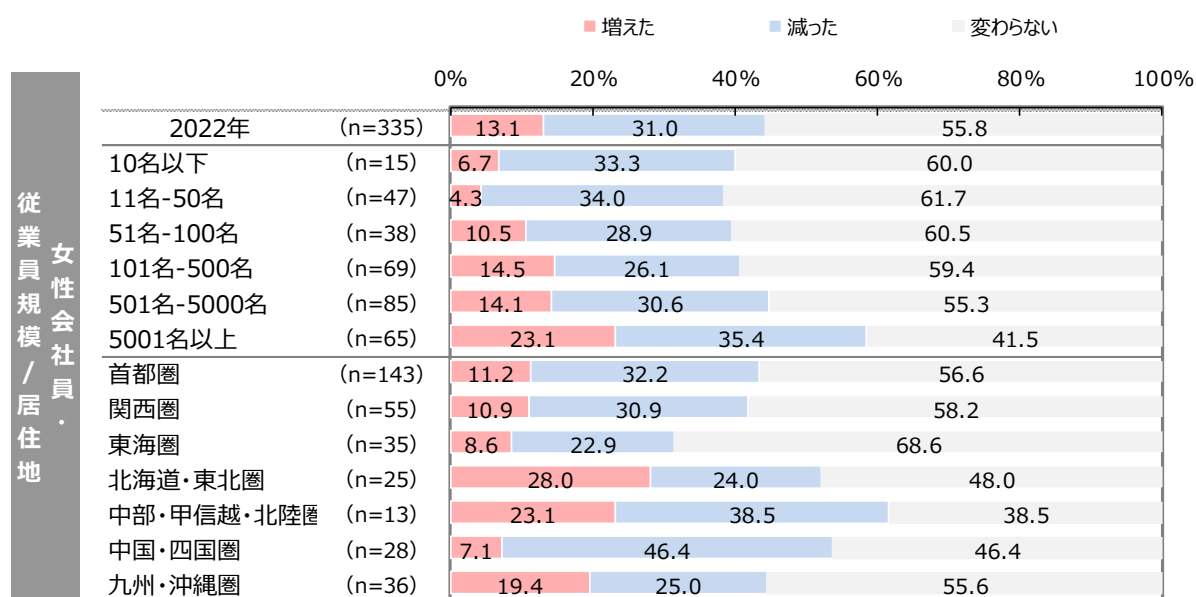
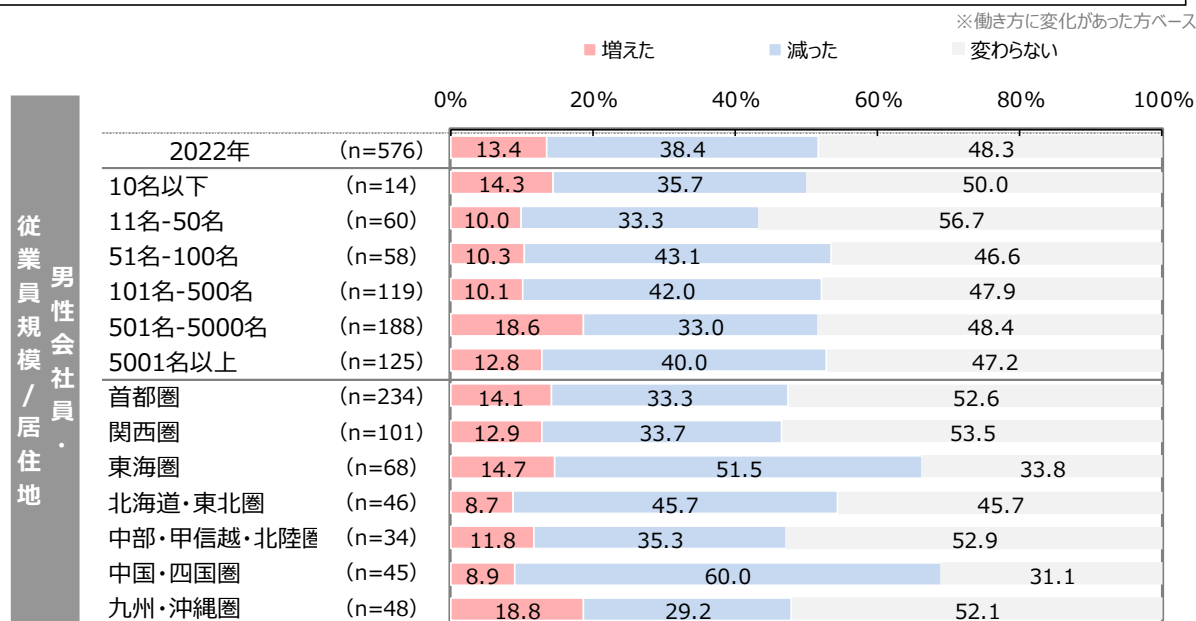


■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

## ■ 残業代の変化

男性社員において、残業代の変化は「変わらない」が48.3%と最も多くなっており、「減った」が38.4%となっております。従業員規模別で見ても、概ね大きな差はなく、「変わらない」が最も高く、次いで「減った」となっております。また、女性社員においても「変わらない」が55.8%と最も多く、「減った」が31.0%となっております。なお、「増えた」が13.1%と男性社員と同水準となっております。

設問：新型コロナウイルスの影響により、以下の項目の支出や残業代に変化はありましたか。



## ■ 残業代の変化による支出変化

男性会社員の残業代の変化による支出の変化を見ると、支出が増えたものについては、「水道光熱費」が35.2%で最も高く、「テレワーク関連費」23.4%、「子どもの教育関連の費用」20.2%が続きます。従業員が5001名以上において、「水道光熱費」が4割台、「テレワーク関連費」が3割強と高くなっている点が特徴となっております。

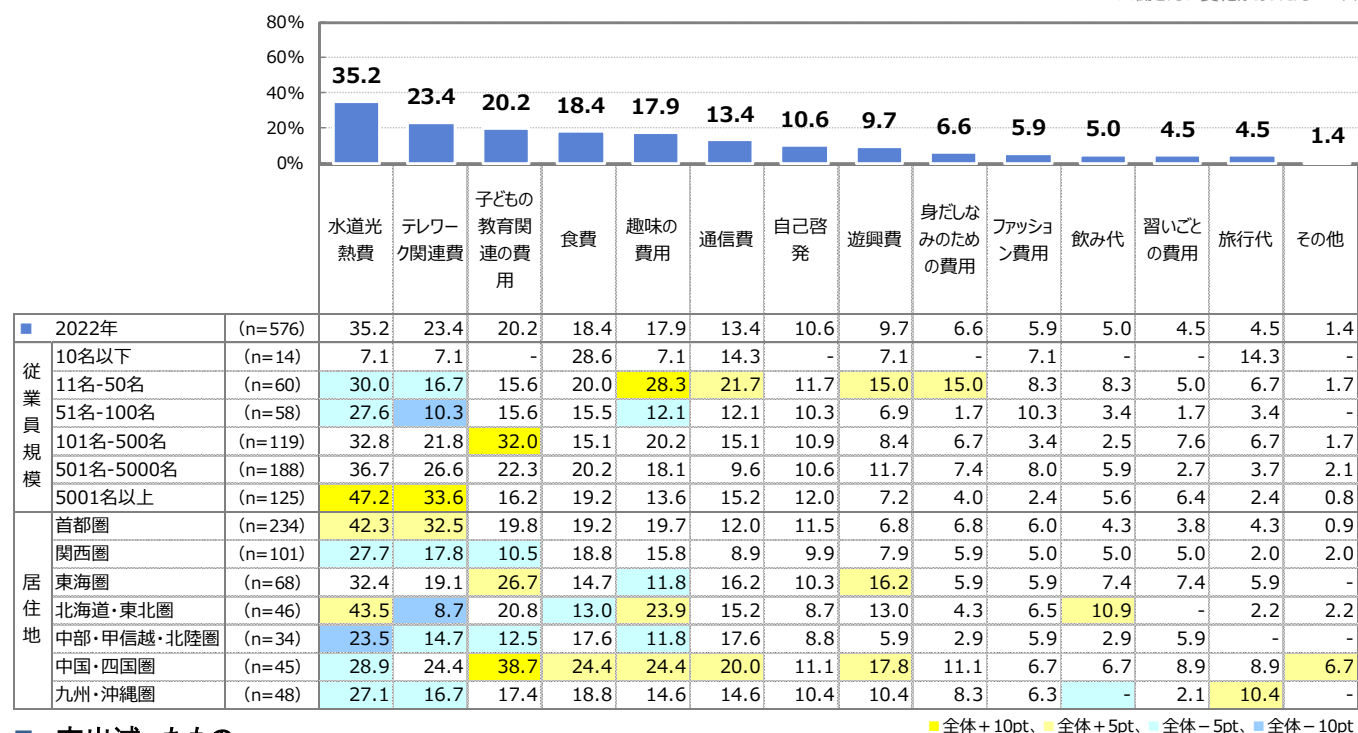
一方、支出が減ったものについては、「飲み代」62.7%、「旅行代」56.9%が5割以上で上位を占めます。次いで、「ファッション費用」37.3%、「身だしなみのための費用」31.6%、「食費」31.4%が続きます。

設問：新型コロナウイルスの影響により、以下の項目の支出や残業代に変化はありましたか。

### ■ 支出増えたもの

男性会社員

※働き方に変化があった方ベース

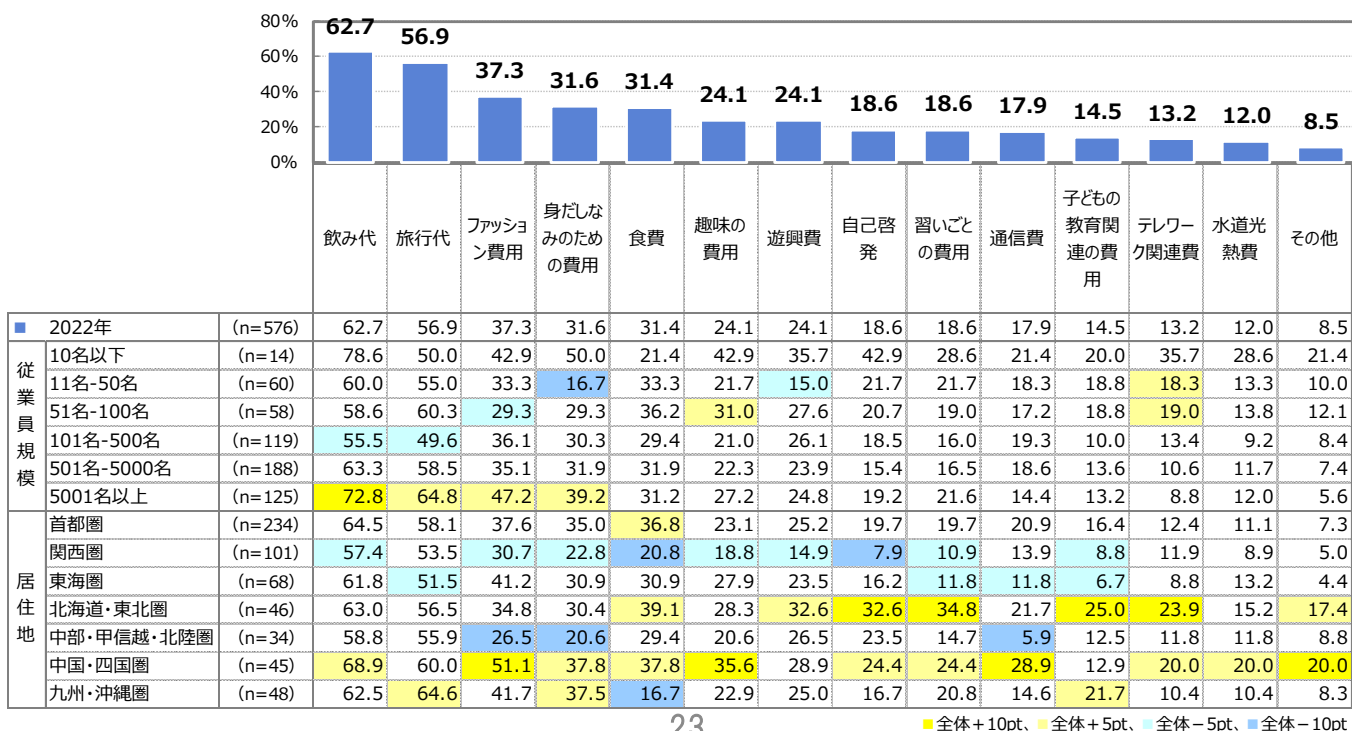


■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

### ■ 支出減ったもの

男性会社員

※働き方に変化があった方ベース



■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

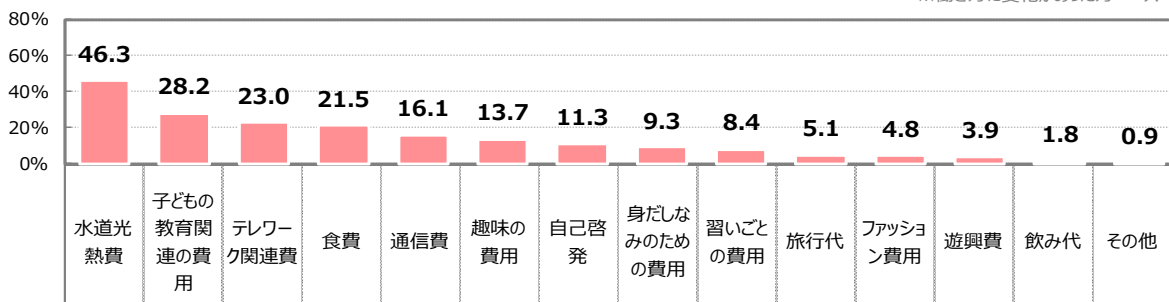
女性会社員の残業代の変化による支出の変化を見ると、支出が増えたものについては、男性社員と同様、「水道光熱費」が46.3%で最も高く、「子どもの教育関連の費用」28.2%、「テレワーク関連費」23.0%、「食費」21.5%が続きます。一方、支出が減ったものについては、「旅行代」が64.8%で最も高く、「飲み代」63.0%も6割以上となっております。

設問：新型コロナウイルスの影響により、以下の項目の支出や残業代に変化はありましたか。

■ 支出増えたもの

女性会社員

※働き方に変化があった方ベース



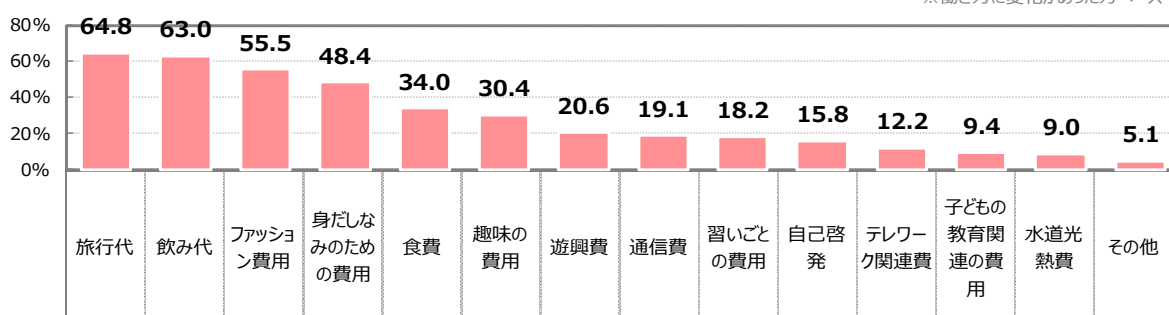
| 2022年          | (n=335)           | 46.3 | 28.2 | 23.0 | 21.5 | 16.1 | 13.7 | 11.3 | 9.3  | 8.4  | 5.1 | 4.8 | 3.9 | 1.8  | 0.9 |
|----------------|-------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|------|-----|
| 従業員規模          | 10名以下 (n=15)      | 53.3 | -    | 26.7 | 20.0 | 20.0 | 6.7  | 20.0 | 6.7  | 6.7  | 6.7 | 6.7 | 6.7 | 13.3 | -   |
|                | 11名-50名 (n=47)    | 38.3 | 23.1 | 12.8 | 25.5 | 14.9 | 12.8 | 6.4  | 10.6 | 6.4  | 8.5 | 6.4 | 2.1 | -    | -   |
|                | 51名-100名 (n=38)   | 34.2 | 25.0 | 23.7 | 23.7 | 10.5 | 23.7 | 13.2 | 2.6  | 7.9  | 2.6 | 2.6 | 7.9 | 2.6  | 2.6 |
|                | 101名-500名 (n=69)  | 40.6 | 32.1 | 15.9 | 8.7  | 13.0 | 8.7  | 5.8  | 5.8  | 4.3  | 4.3 | 2.9 | 2.9 | 2.9  | 1.4 |
|                | 501名-5000名 (n=85) | 54.1 | 19.2 | 24.7 | 24.7 | 17.6 | 14.1 | 14.1 | 12.9 | 9.4  | 3.5 | 7.1 | 3.5 | -    | -   |
| 5001名以上 (n=65) | 49.2              | 47.8 | 33.8 | 24.6 | 18.5 | 16.9 | 13.8 | 9.2  | 13.8 | 7.7  | 4.6 | 3.1 | 1.5 | 1.5  |     |
| 居住地            | 首都圏 (n=143)       | 46.9 | 35.7 | 29.4 | 17.5 | 15.4 | 17.5 | 13.3 | 7.0  | 9.8  | 6.3 | 2.8 | 3.5 | 2.1  | 0.7 |
|                | 関西圏 (n=55)        | 49.1 | 31.6 | 18.2 | 23.6 | 18.2 | 12.7 | 14.5 | 10.9 | 9.1  | 3.6 | 9.1 | 7.3 | -    | 3.6 |
|                | 東海圏 (n=35)        | 37.1 | 16.7 | 14.3 | 17.1 | 20.0 | 11.4 | 8.6  | 17.1 | 14.3 | 8.6 | 8.6 | 2.9 | 5.7  | -   |
|                | 北海道・東北圏 (n=25)    | 36.0 | 18.2 | 32.0 | 28.0 | 8.0  | 12.0 | -    | 8.0  | -    | 8.0 | 8.0 | 8.0 | 4.0  | -   |
|                | 中部・甲信越・北陸圏 (n=13) | 61.5 | -    | 7.7  | 30.8 | 15.4 | 7.7  | 15.4 | 7.7  | -    | -   | -   | -   | -    | -   |
|                | 中国・四国圏 (n=28)     | 57.1 | 21.4 | 25.0 | 28.6 | 25.0 | 10.7 | 10.7 | -    | 10.7 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | -    | -   |
| 九州・沖縄圏 (n=36)  | 41.7              | 31.3 | 11.1 | 25.0 | 11.1 | 8.3  | 8.3  | 16.7 | 2.8  | -    | 2.8 | -   | -   | -    |     |

■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

■ 支出減ったもの

女性会社員

※働き方に変化があった方ベース



| 2022年          | (n=335)           | 64.8 | 63.0 | 55.5 | 48.4 | 34.0 | 30.4 | 20.6 | 19.1 | 18.2 | 15.8 | 12.2 | 9.4  | 9.0  | 5.1 |
|----------------|-------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 従業員規模          | 10名以下 (n=15)      | 53.3 | 53.3 | 53.3 | 40.0 | 26.7 | 20.0 | 26.7 | 6.7  | 20.0 | 6.7  | 13.3 | 20.0 | 6.7  | 6.7 |
|                | 11名-50名 (n=47)    | 55.3 | 63.8 | 48.9 | 38.3 | 36.2 | 27.7 | 23.4 | 23.4 | 23.4 | 25.5 | 19.1 | 23.1 | 14.9 | 8.5 |
|                | 51名-100名 (n=38)   | 65.8 | 52.6 | 55.3 | 55.3 | 26.3 | 23.7 | 26.3 | 21.1 | 21.1 | 18.4 | 13.2 | 6.3  | 15.8 | 2.6 |
|                | 101名-500名 (n=69)  | 66.7 | 56.5 | 53.6 | 46.4 | 40.6 | 29.0 | 24.6 | 21.7 | 17.4 | 15.9 | 14.5 | 10.7 | 5.8  | 4.3 |
|                | 501名-5000名 (n=85) | 67.1 | 72.9 | 61.2 | 49.4 | 38.8 | 36.5 | 16.5 | 20.0 | 14.1 | 14.1 | 14.1 | 7.7  | 7.1  | 7.1 |
| 5001名以上 (n=65) | 70.8              | 69.2 | 58.5 | 56.9 | 30.8 | 32.3 | 15.4 | 18.5 | 20.0 | 12.3 | 4.6  | 4.3  | 9.2  | 3.1  |     |
| 居住地            | 首都圏 (n=143)       | 65.0 | 65.7 | 57.3 | 51.0 | 39.9 | 30.1 | 18.2 | 23.1 | 18.2 | 14.7 | 13.3 | 4.8  | 10.5 | 6.3 |
|                | 関西圏 (n=55)        | 56.4 | 49.1 | 45.5 | 40.0 | 23.6 | 29.1 | 21.8 | 12.7 | 16.4 | 16.4 | 14.5 | 5.3  | 3.6  | 3.6 |
|                | 東海圏 (n=35)        | 71.4 | 71.4 | 57.1 | 48.6 | 31.4 | 28.6 | 28.6 | 20.0 | 11.4 | 17.1 | 17.1 | 8.3  | 11.4 | 8.6 |
|                | 北海道・東北圏 (n=25)    | 64.0 | 52.0 | 68.0 | 56.0 | 28.0 | 24.0 | 16.0 | 20.0 | 16.0 | 16.0 | 8.0  | 18.2 | 16.0 | -   |
|                | 中部・甲信越・北陸圏 (n=13) | 76.9 | 84.6 | 53.8 | 53.8 | 46.2 | 38.5 | 15.4 | 15.4 | 30.8 | 15.4 | 7.7  | 33.3 | 7.7  | -   |
|                | 中国・四国圏 (n=28)     | 67.9 | 64.3 | 67.9 | 64.3 | 21.4 | 46.4 | 28.6 | 17.9 | 28.6 | 21.4 | 3.6  | 21.4 | 14.3 | -   |
| 九州・沖縄圏 (n=36)  | 63.9              | 63.9 | 44.4 | 30.6 | 38.9 | 25.0 | 19.4 | 13.9 | 16.7 | 13.9 | 11.1 | 6.3  | -    | 8.3  |     |

■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

## ■ 働き方の変化による時間の使い方の変化

男性社員の働き方の変化による時間の使い方の変化を見ると、増えたものについては、「家事」が36.8%と最も高くなっております。次いで、「育児」が28.3%です。特にテレワーク率が高めの従業員規模501名以上で「育児」のスコアが3割以上と高くなっている点が特徴となっております。

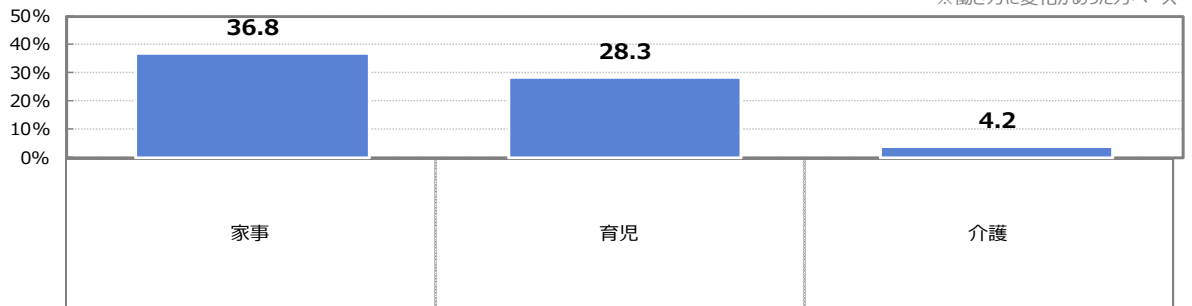
一方、減ったものについては、いずれも1割未満にとどまっております。

設問：働き方の変化により、以下の項目への時間の使い方に変化はありましたか。

### ■ 増えたもの

男性社員

※働き方に変化があった方ベース



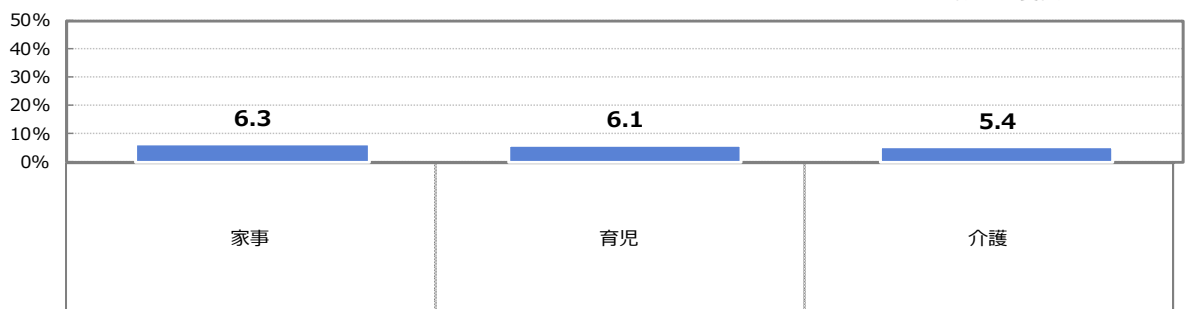
| 項目    | 2022年      | (n)     | 家事 (%) | 育児 (%) | 介護 (%) |
|-------|------------|---------|--------|--------|--------|
| 2022年 | (n=576)    |         | 36.8   | 28.3   | 4.2    |
| 従業員規模 | 10名以下      | (n=14)  | 21.4   | -      | 7.1    |
|       | 11名-50名    | (n=60)  | 43.3   | 25.0   | 8.3    |
|       | 51名-100名   | (n=58)  | 24.1   | 18.8   | 3.4    |
|       | 101名-500名  | (n=119) | 32.8   | 20.0   | 3.4    |
|       | 501名-5000名 | (n=188) | 36.7   | 35.0   | 4.8    |
|       | 5001名以上    | (n=125) | 44.8   | 30.9   | 2.4    |
| 居住地   | 首都圏        | (n=234) | 40.6   | 31.9   | 3.8    |
|       | 関西圏        | (n=101) | 37.6   | 36.8   | 4.0    |
|       | 東海圏        | (n=68)  | 30.9   | 20.0   | 4.4    |
|       | 北海道・東北圏    | (n=46)  | 34.8   | 16.7   | 6.5    |
|       | 中部・甲信越・北陸圏 | (n=34)  | 29.4   | 18.8   | 8.8    |
|       | 中国・四国圏     | (n=45)  | 44.4   | 22.6   | -      |
|       | 九州・沖縄圏     | (n=48)  | 25.0   | 26.1   | 4.2    |

■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

### ■ 減ったもの

男性社員

※働き方に変化があった方ベース



| 項目    | 2022年      | (n)     | 家事 (%) | 育児 (%) | 介護 (%) |
|-------|------------|---------|--------|--------|--------|
| 2022年 | (n=576)    |         | 6.3    | 6.1    | 5.4    |
| 従業員規模 | 10名以下      | (n=14)  | 14.3   | -      | 7.1    |
|       | 11名-50名    | (n=60)  | 1.7    | -      | -      |
|       | 51名-100名   | (n=58)  | 8.6    | 12.5   | 10.3   |
|       | 101名-500名  | (n=119) | 7.6    | 6.0    | 7.6    |
|       | 501名-5000名 | (n=188) | 8.0    | 5.8    | 5.3    |
|       | 5001名以上    | (n=125) | 1.6    | 4.4    | 2.4    |
| 居住地   | 首都圏        | (n=234) | 7.3    | 6.9    | 5.6    |
|       | 関西圏        | (n=101) | 2.0    | 1.8    | 2.0    |
|       | 東海圏        | (n=68)  | 10.3   | 6.7    | 5.9    |
|       | 北海道・東北圏    | (n=46)  | 10.9   | 12.5   | 6.5    |
|       | 中部・甲信越・北陸圏 | (n=34)  | 2.9    | 6.3    | 2.9    |
|       | 中国・四国圏     | (n=45)  | 8.9    | 9.7    | 13.3   |
|       | 九州・沖縄圏     | (n=48)  | -      | -      | 4.2    |

■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

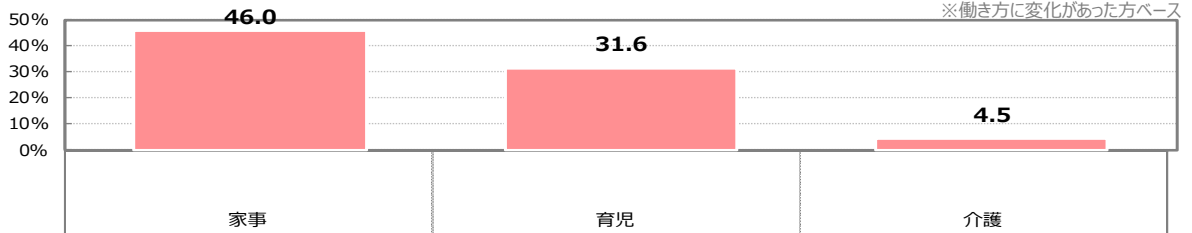
女性社員の働き方の変化による時間の使い方の変化を見ると、増えたものについては、「家事」が46.0%と最も高くなっております。次いで、「育児」が31.6%です。どちらも男性社員より高い点の特徴です。従業員規模501-5000名では「育児」が4割半ばと高くなっている点の特徴です。

一方、減ったものについては、いずれも1割未満にとどまっております。

設問：働き方の変化により、以下の項目への時間の使い方に変化はありましたか。

■ 増えたもの

女性会社員

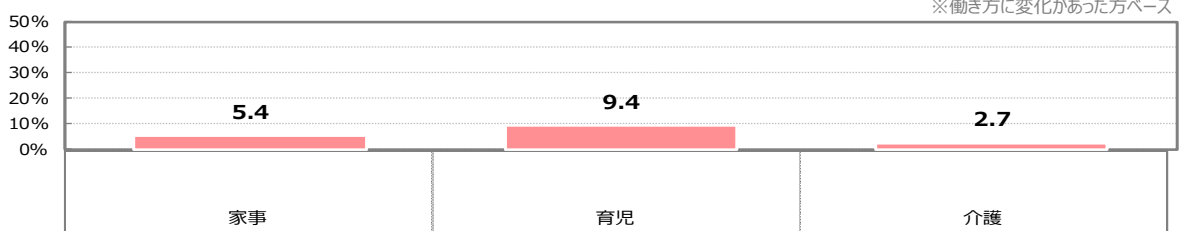


| 従業員規模      | 2022年 (n) | 家事 (%) | 育児 (%) | 介護 (%) |
|------------|-----------|--------|--------|--------|
| 2022年      | (n=335)   | 46.0   | 31.6   | 4.5    |
| 10名以下      | (n=15)    | 40.0   | 20.0   | 6.7    |
| 11名-50名    | (n=47)    | 42.6   | 38.5   | 2.1    |
| 51名-100名   | (n=38)    | 50.0   | 31.3   | 2.6    |
| 101名-500名  | (n=69)    | 34.8   | 14.3   | 2.9    |
| 501名-5000名 | (n=85)    | 49.4   | 46.2   | 5.9    |
| 5001名以上    | (n=65)    | 53.8   | 39.1   | 6.2    |
| 居住地        | (n)       | 家事 (%) | 育児 (%) | 介護 (%) |
| 首都圏        | (n=143)   | 47.6   | 35.7   | 2.8    |
| 関西圏        | (n=55)    | 38.2   | 26.3   | 9.1    |
| 東海圏        | (n=35)    | 40.0   | 33.3   | -      |
| 北海道・東北圏    | (n=25)    | 56.0   | 9.1    | -      |
| 中部・甲信越・北陸圏 | (n=13)    | 46.2   | -      | 7.7    |
| 中国・四国圏     | (n=28)    | 57.1   | 50.0   | 14.3   |
| 九州・沖縄圏     | (n=36)    | 41.7   | 31.3   | 2.8    |

■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

■ 減ったもの

女性会社員



| 従業員規模      | 2022年 (n) | 家事 (%) | 育児 (%) | 介護 (%) |
|------------|-----------|--------|--------|--------|
| 2022年      | (n=335)   | 5.4    | 9.4    | 2.7    |
| 10名以下      | (n=15)    | 6.7    | -      | -      |
| 11名-50名    | (n=47)    | 6.4    | 7.7    | 2.1    |
| 51名-100名   | (n=38)    | 2.6    | 6.3    | -      |
| 101名-500名  | (n=69)    | 2.9    | 21.4   | 4.3    |
| 501名-5000名 | (n=85)    | 4.7    | 7.7    | 3.5    |
| 5001名以上    | (n=65)    | 7.7    | 4.3    | 3.1    |
| 居住地        | (n)       | 家事 (%) | 育児 (%) | 介護 (%) |
| 首都圏        | (n=143)   | 4.2    | 2.4    | 1.4    |
| 関西圏        | (n=55)    | 5.5    | 10.5   | 5.5    |
| 東海圏        | (n=35)    | 8.6    | 8.3    | 2.9    |
| 北海道・東北圏    | (n=25)    | -      | 27.3   | 4.0    |
| 中部・甲信越・北陸圏 | (n=13)    | 7.7    | 33.3   | 7.7    |
| 中国・四国圏     | (n=28)    | 14.3   | 14.3   | 3.6    |
| 九州・沖縄圏     | (n=36)    | 2.8    | 6.3    | -      |

■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt



## ■ 新型コロナウイルスの影響による支出や残業代の変化

次に、働き方に変化があった方の、働き方の変化による支出や残業代への影響をみていきます。

まず、残業代の変化については、男性会社員では、38.4%の方が「減った」と回答しており、「増えた」との回答は13.4%にとどまります。「増えた」との回答は少ないものの若年層ほど高い傾向となっております。

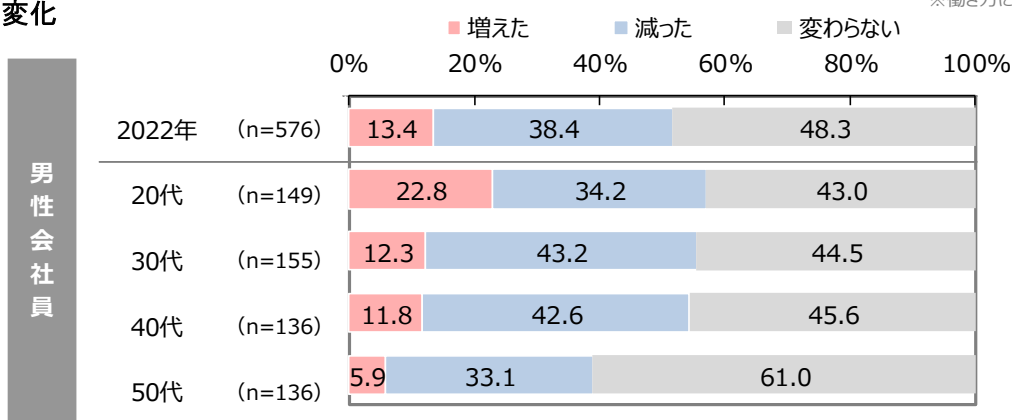
支出が増えたものは、「水道光熱費」が35.2%で最も高く、「テレワーク関連費」23.4%、「子供の教育関連の費用」20.2%と続いております。

一方、支出が減ったものは、「飲み代」「旅行代」が6割前後と突出しており、「ファッション費用」37.3%、「身だしなみのための費用」31.6%と続いております。

設問：新型コロナウイルスの影響により、以下の項目の支出や残業代に変化はありましたか。

### ■ 残業代の変化

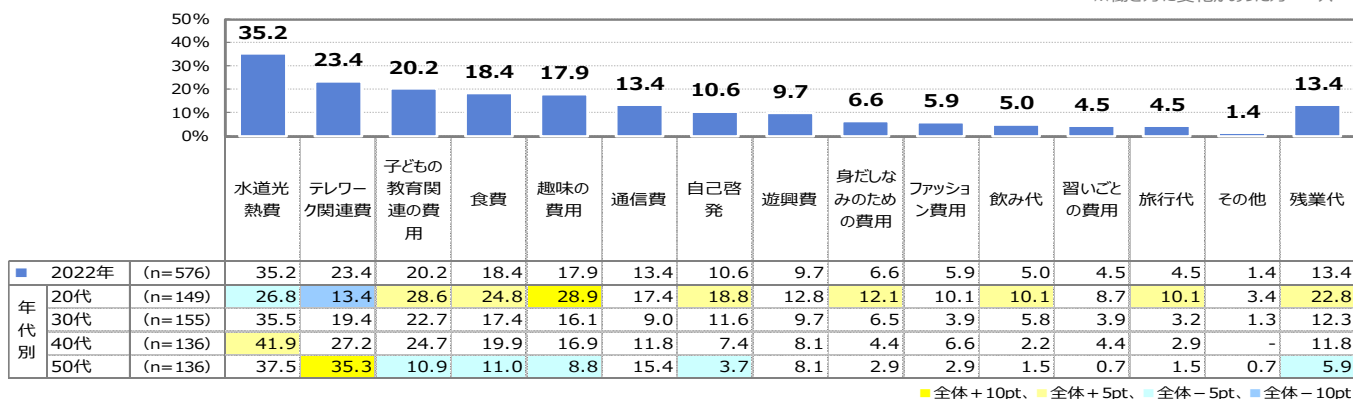
※働き方に変化があった方ベース



### ■ 支出増えたもの

男性会社員

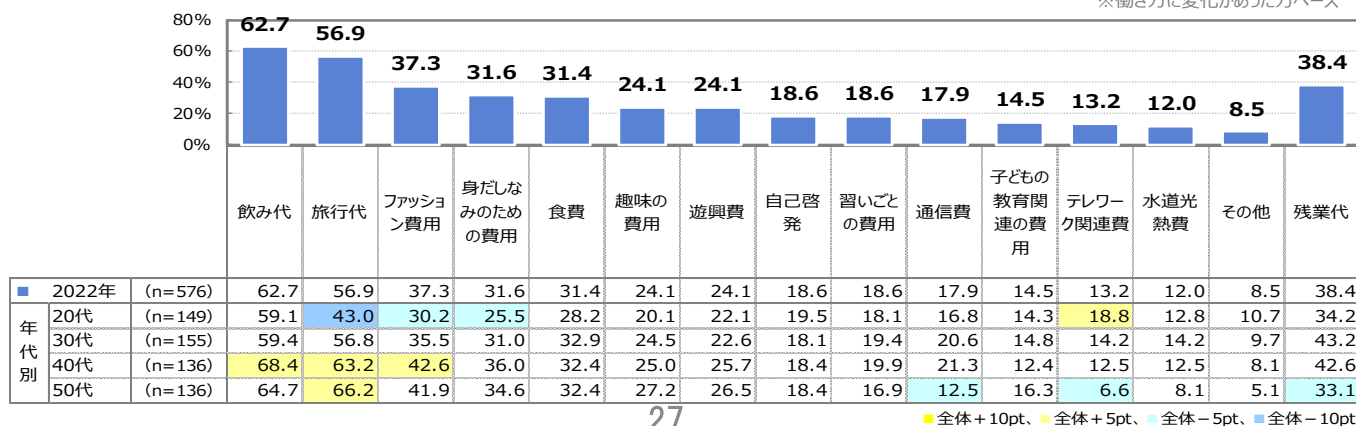
※働き方に変化があった方ベース



### ■ 支出減ったもの

男性会社員

※働き方に変化があった方ベース





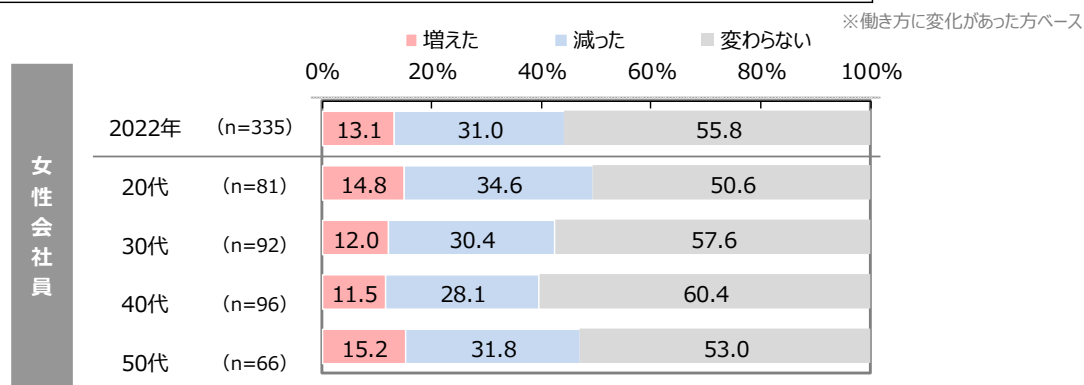
女性社員では、残業代の変化については、31.0%の方が「減った」と回答しており、「増えた」との回答は13.1%にとどまります。

支出が増えたものは、「水道光熱費」が46.3%で最も高く、「子供の教育関連の費用」28.2%、「テレワーク関連費」23.0%、「食費」21.5%と続いております。

一方、支出が減ったものは、「旅行代」が64.8%と最も高く、「飲み代」63.0%、「ファッション費用」55.5%、「身だしなみのための費用」48.4%と続いております。

## ■ 残業代の変化

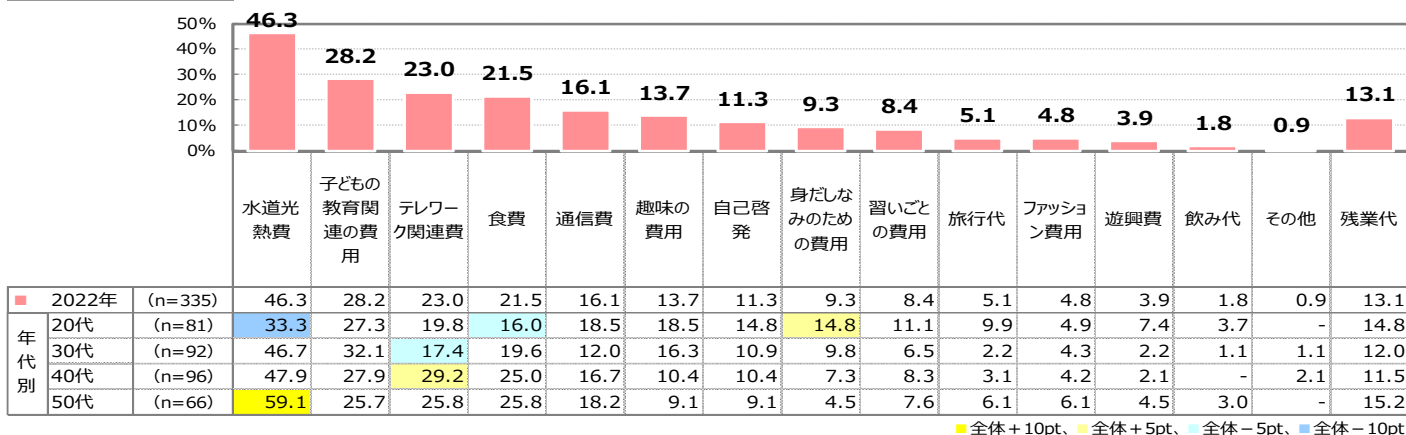
設問：新型コロナウイルスの影響により、以下の項目の支出や残業代に変化はありましたか。



## ■ 支出増えたもの

女性社員

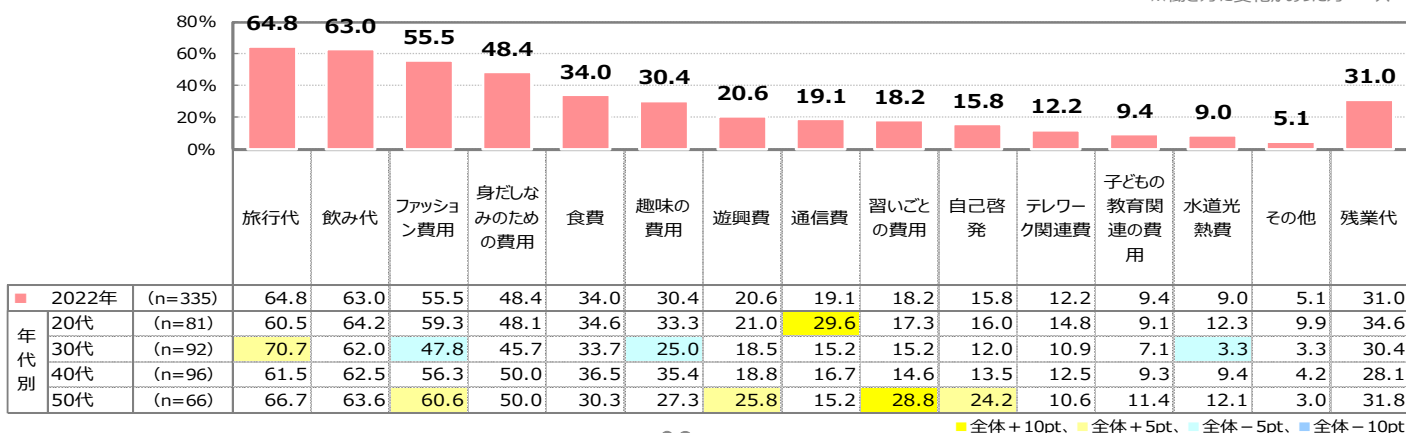
※働き方に変化があった方ベース



## ■ 支出減ったもの

女性社員

※働き方に変化があった方ベース



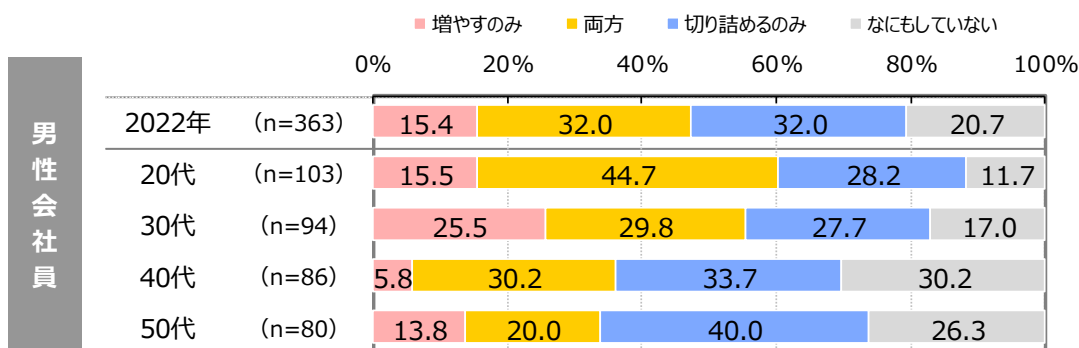
## ■ 支出が増えた分のまかない方

では、支出が増えた方は、増えた分のお金をどのようにして賄っているのでしょうか。

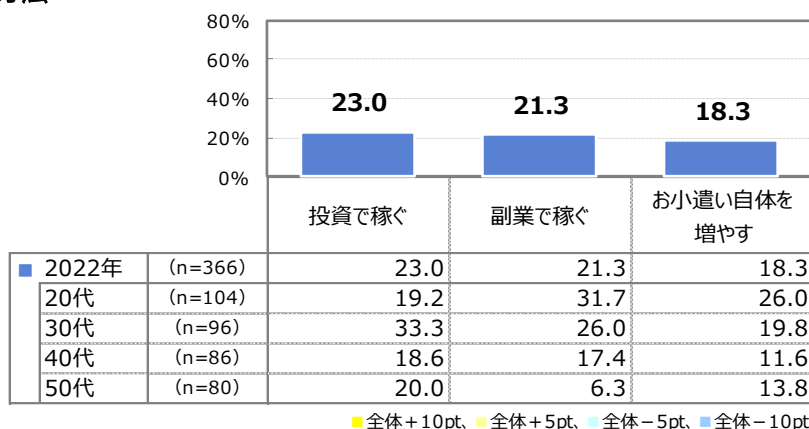
男性社員における、支出が増えた分の賄い方は、お金を「増やすのみ」が15.4%、「両方」行っている方が32.0%、「切り詰めるのみ」が32.0%となっており、8割弱の方が何かしらの行動をしています。お金を増やす方法では、「投資で稼ぐ」が23.0%で最も高く、30代で3割以上と高い点が特徴的です。一方、20代では「副業で稼ぐ」が3割以上と最も高くなっております。また、お金を切り詰める方法では、「食費」が35.5%で最も高く、「飲み代」が26.2%と続くことから、飲食代を切り詰める傾向がみられます。

設問：支出が増えた分を、どのように賄っていますか(賄う予定ですか)。

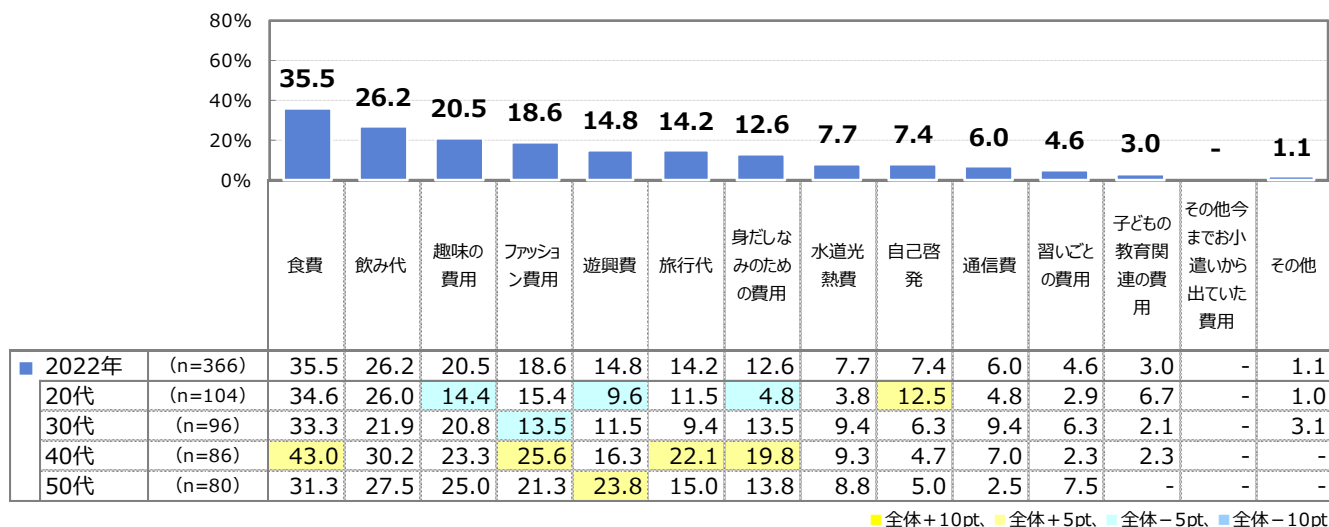
※無回答除く かつ 働き方に変化があった人ベース



## ■ お金を増やす方法



## ■ お金を切り詰める方法



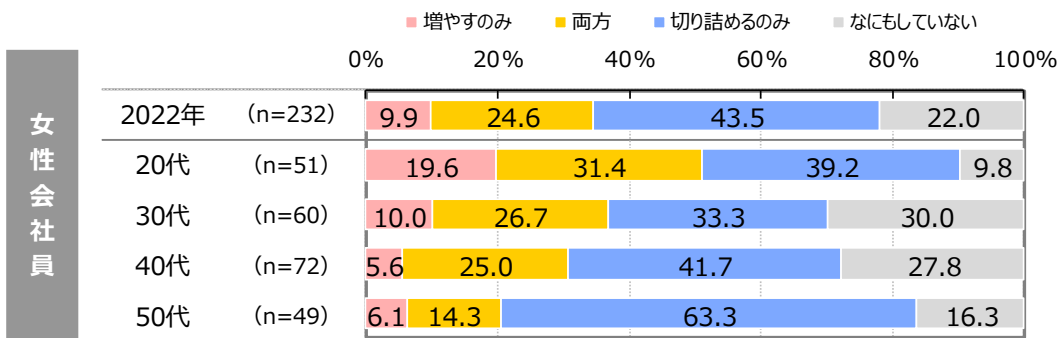
女性会社員では、「お金を増やすのみ」が9.9%、「両方」行っている方が24.6%、「お金を切り詰めるのみ」が43.5%となっており、男性会社員と比較して、「お金を切り詰める」方が多い傾向がみられます。

お金を増やす方法は、「副業で稼ぐ」が16.7%と最も高くなっており、また、「お小遣い自体を増やす」「副業で稼ぐ」ともに20代で最も高い点が特徴的です。

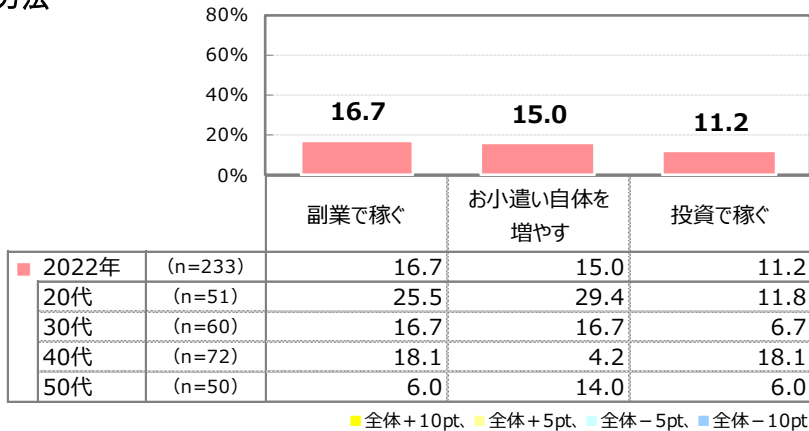
一方、お金を切り詰める方法は、「食費」が40.3%で最も高く、「ファッション費用」38.6%、「身だしなみのための費用」26.2%と続きます。男性会社員と比較して、「ファッション」「身だしなみ」を切り詰める方が多い結果となっております。

設問：支出が増えた分を、どのように賄っていますか(賄う予定ですか)。

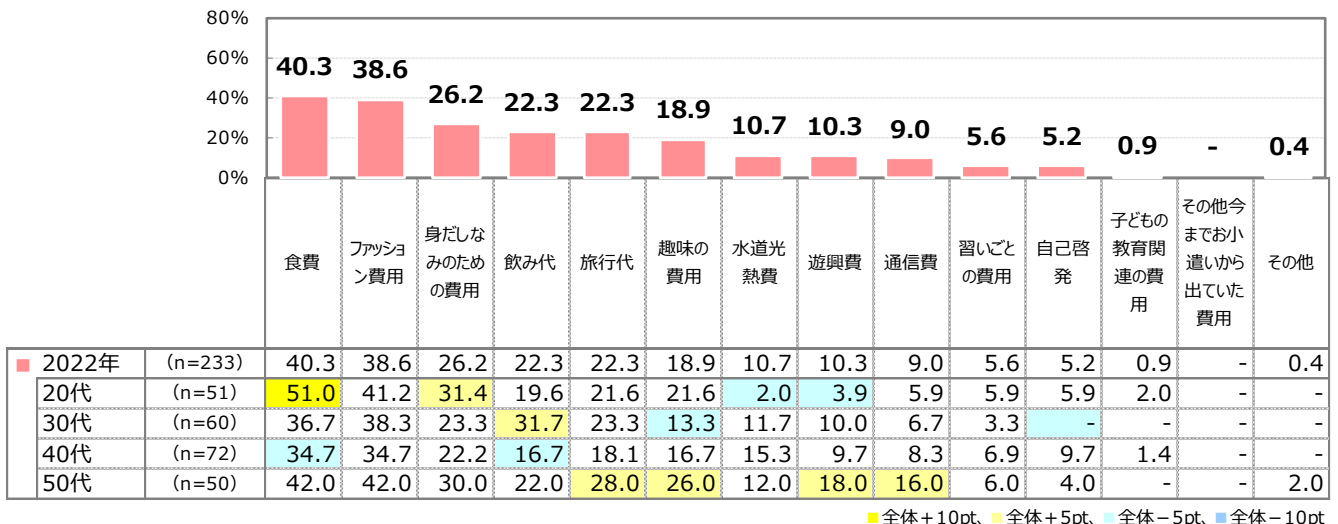
※無回答除く かつ 働き方に変化があった人ベース



■ お金を増やす方法



■ お金を切り詰める方法



## 【5】 経済的なゆとり

- 経済的なゆとりについて、男性・女性会社員とも昨年より大きな変化はない
- お小遣い面からみて男性会社員の「ゆとりがある層」は、20代と30代がやや多め、個人年収は全体より58万円、世帯年収は84万円高い結果となる

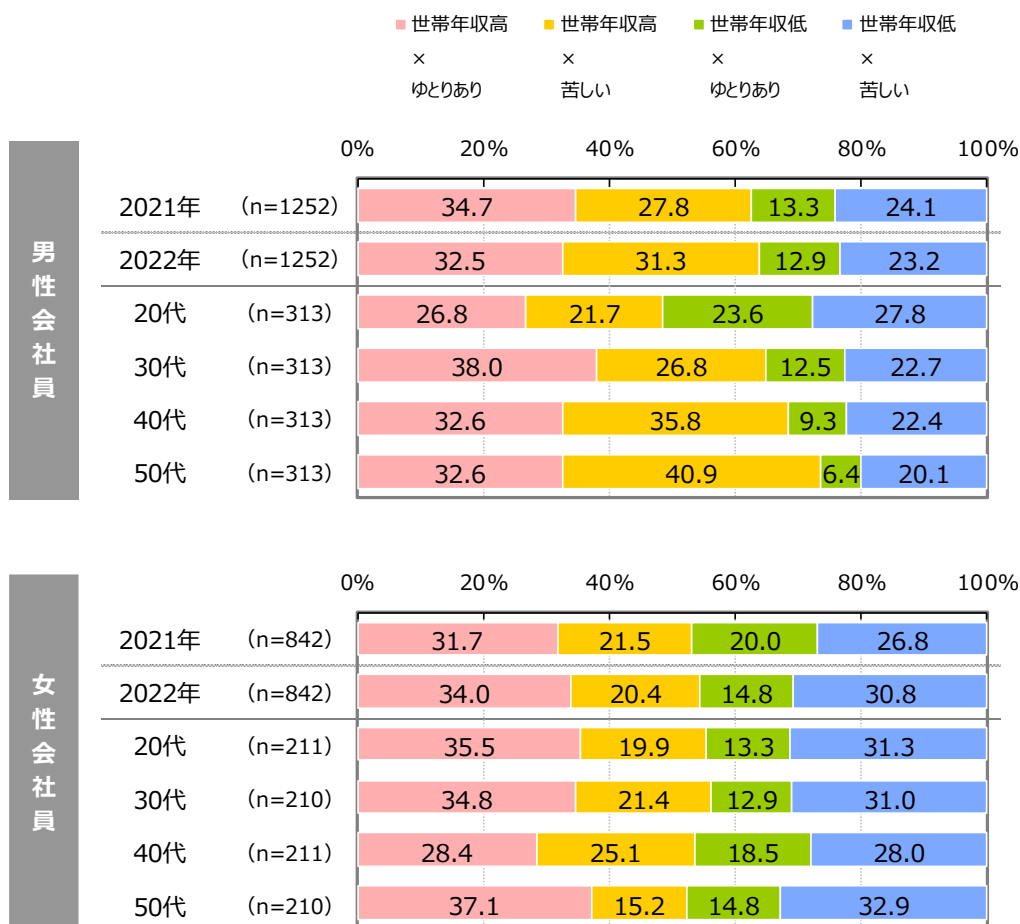
### ■ 経済的なゆとり

『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認します。『世帯年収』は、500万円以上を“高”、500万円未満を“低”と定義し、『日常生活のゆとり』は、「大いにゆとりがある」+「まあまあゆとりがある」を“ゆとりあり”、「大変苦しい」+「やや苦しい」を“苦しい”と定義します。それぞれを掛け合わせ、経済的なゆとりにおいて、4層のグループを作成しました。

男性会社員では、昨年同様「世帯年収高×ゆとりあり」が32.5%と最も多く、「世帯年収高×苦しい」が31.3%、「世帯年収低×苦しい」が23.2%で続きます。昨年と比較して、「世帯年収高×苦しい」が増加しております。また、年代別にみると、20代において「世帯年収低×ゆとりあり」層が23.6%と他の年代よりも高くなっており、世帯年収は低いが、ゆとりある生活を送っている様子がうかがえます。一方で、年代が上がるほど、「世帯年収高」層が増えますが「世帯年収高×苦しい」層の割合が高くなっていく点が特徴的です。

女性会社員では、「世帯年収高×ゆとりあり」が34.0%と最も多く、「世帯年収低×苦しい」が30.8%と続きます。男性会社員と比較して、どの年代でも「世帯年収低×苦しい」層が高い点が特徴となっております。

設問：“おこづかい”面からみて、この一年間のあなたの日常生活はいかがですか？

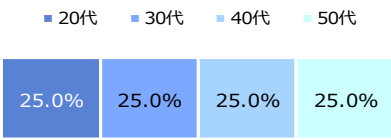
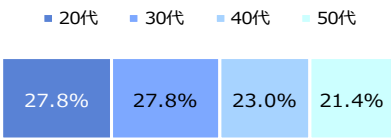
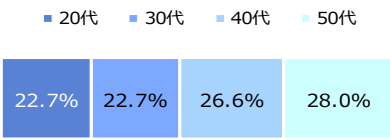
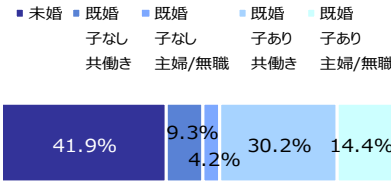
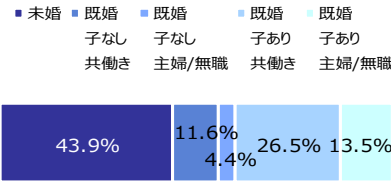
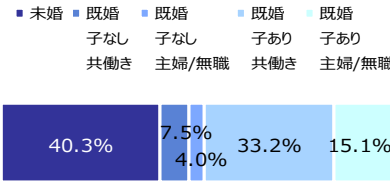


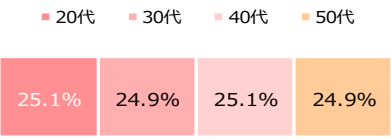
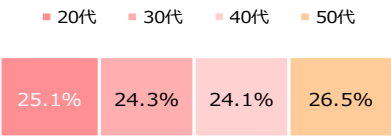
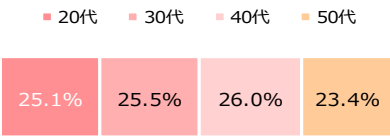
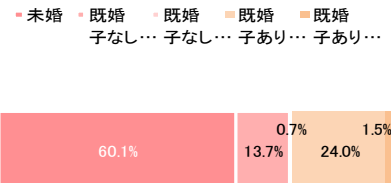
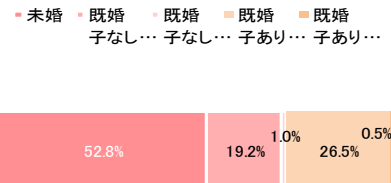
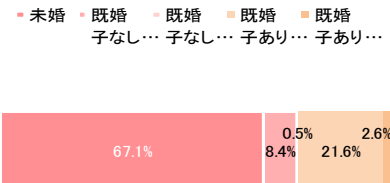
## ■ ゆとりがある層／ない層のプロファイル比較

お小遣い面からみて、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」を、会社員全体と比較したものを以下に掲載します。ここから、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」がどのような方なのかを確認します。

男性会社員の「ゆとりがある層」は、20代、30代がやや多く、若年層寄りの傾向がみられます。また、全体と比較して、個人年収は58万円、世帯年収では84万円高い結果となり、収入自体の多さがわかります。一方、「ゆとりがない層」は、全体より40代、50代が多く、個人年収・世帯年収ともに、全体よりも低い結果でした。

女性会社員の「ゆとりがある層」は、50代がやや多いですが、男性会社員ほど年代差は見られません。また、個人年収、世帯年収については、男性会社員と同様に、ゆとりがある層で、ともに高い結果となっています。

|      | 男性会社員 全体<br>(n=1252)  | ゆとりがある層<br>(n=569)   | ゆとりがない層<br>(n=683)  |
|------|---|--|---|
| 年齢   |    |    |    |
| 年収   | 個人年収 <b>518</b> 万円<br>世帯年収 <b>664</b> 万円  | 個人年収 <b>576</b> 万円<br>世帯年収 <b>748</b> 万円   | 個人年収 <b>469</b> 万円<br>世帯年収 <b>595</b> 万円  |
| 家族構成 |  |  |  |

|      | 女性会社員 全体<br>(n=842)   | ゆとりがある層<br>(n=411)   | ゆとりがない層<br>(n=431)  |
|------|---|--|---|
| 年齢   |  |  |  |
| 年収   | 個人年収 <b>340</b> 万円<br>世帯年収 <b>615</b> 万円  | 個人年収 <b>394</b> 万円<br>世帯年収 <b>735</b> 万円   | 個人年収 <b>289</b> 万円<br>世帯年収 <b>502</b> 万円  |
| 家族構成 |  |  |  |

## 【6】 お小遣いの使いみち、やりくり術

- ▶ お小遣いの使いみちトップ3は、男性会社員は「昼食代」が42.5%、「携帯電話代」が27.0%、「嗜好品代」が21.7%。女性会社員は「昼食代」が34.7%、「身だしなみのための費用」が33.3%、「携帯電話代」が30.8%
- ▶ 男性会社員の71.8%、女性会社員の84.2%がお小遣い面で何らかのやりくりを実施しており、具体的なやりくり術は男性会社員は「昼食費を安くする」が、女性会社員は「お弁当を持参」トップ
- ▶ 男性会社員は14.9%、女性会社員は14.4%は副収入があり、1か月あたりの副収入額が男性会社員で平均37,626円に対し、女性会社員は平均21,454円と金額に1万5000円以上の差がある

### ■ 必要不可欠な使いみちと必要額(月額)

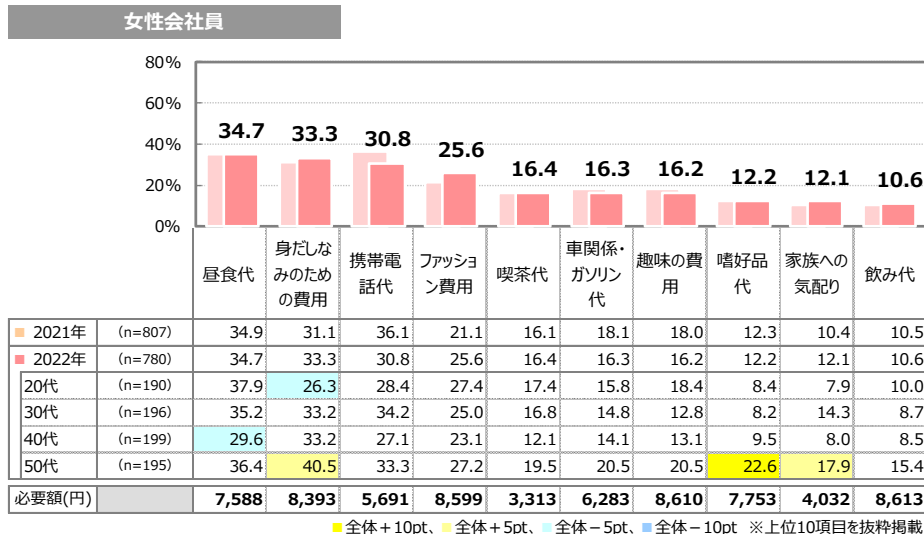
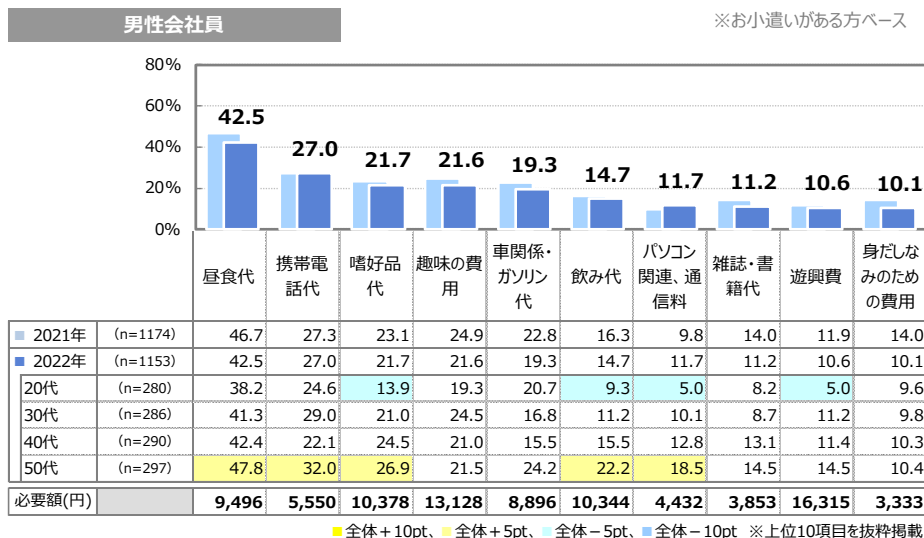
お小遣いの使いみちとして必要不可欠な項目を、上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「昼食代」が42.5%と突出しており、昨年同様トップとなりました。

「昼食代」の必要額は平均9,496円です。なお、必要額が最も高い項目は、必要不可欠な項目順位としては9番目に高い「遊興費」で16,315円となっております。

女性会社員は、「昼食代」が34.7%と最も高く、以下「身だしなみのための費用」、「携帯電話代」が続きます。必要額が最も高い項目は、「飲み代」で8,613円という結果となりました。

設問：あなたの“おこづかい”の使いみちとして、必要不可欠なものは何ですか？  
また、その項目の月々に必要な金額をお答えください。



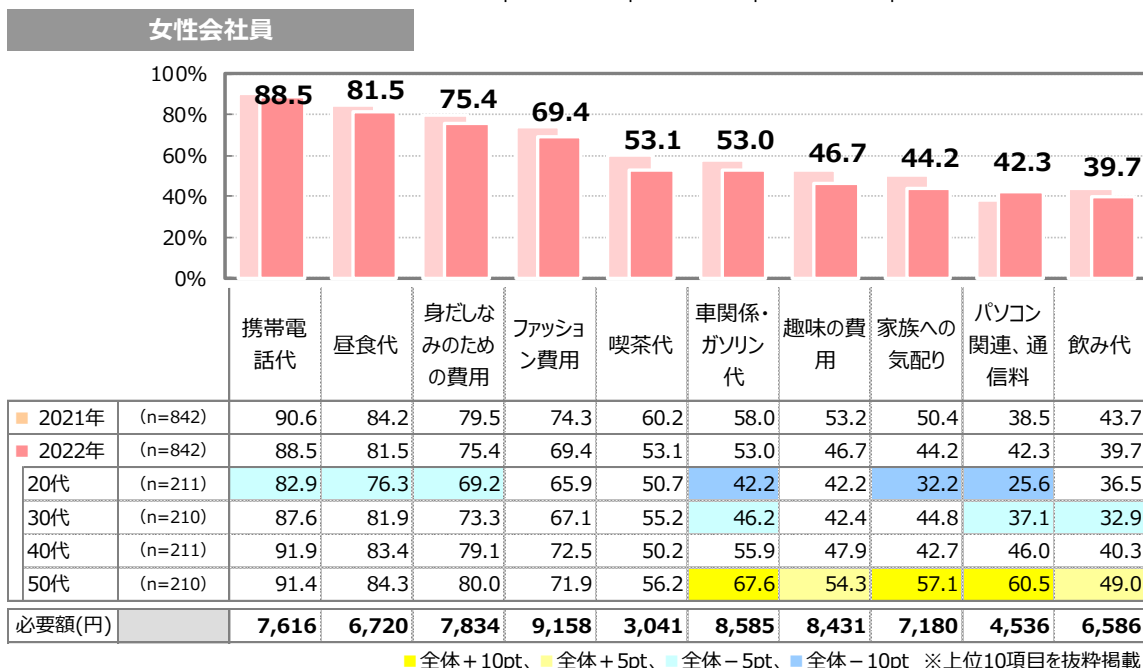
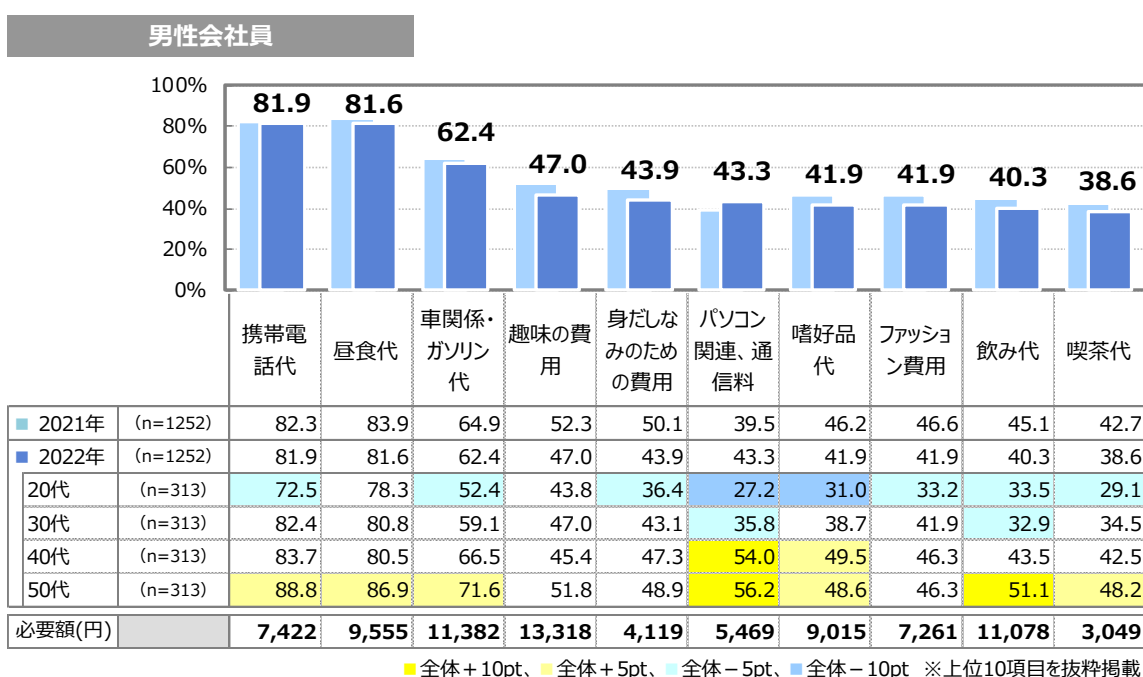
## ■ 月々の出費

月々の出費として使用している項目の上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「携帯電話代」が81.9%と最も高く、以下「昼食代」81.6%、「車関係・ガソリン代」62.4%が続きます。なお、使用額が最も高い項目は「趣味の費用」で13,318円となっております。

女性会社員では、「携帯電話代」が88.5%と最も高く、以下「昼食代」81.5%、「身だしなみのための費用」75.4%、「ファッション費用」69.4%が続きます。男性会社員と比較して、「身だしなみのための費用」、「ファッション費用」が上位に来ており、「携帯電話代」と「昼食代」以外のお金のかけ方に違いがみられます。

設問：あなたは、下記の項目に月々いくらかけていますか。





## ■ お小遣いのやりくりと節約術

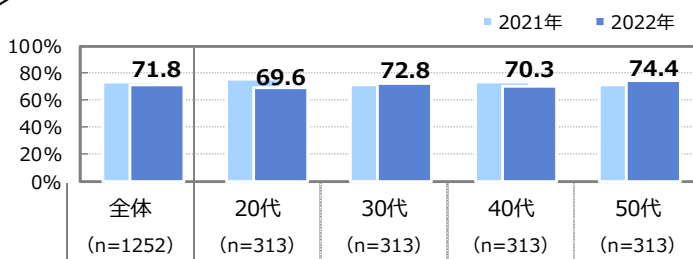
男性会社員における、お小遣いのやりくり実施率は71.8%と、多くの方が、何かしらの節約策を実行していることがわかります。具体的なやりくり術には、「昼食費を安くする」、「外で飲む回数を減らす」、「水筒を持参する」などが上位に挙げられます。また、すべての年代に共通して「昼食費を安くする」が最も高くなっております。

女性会社員におけるやりくり実施率は、男性会社員よりも高く、84.2%の方が節約策を実行しています。具体的なやりくり術には、「弁当を持参する」、「水筒を持参する」、「昼食費を安くする」などが上位に挙げられます。また、男性会社員と比較して、洋服・靴に関する項目が上位に挙がる点が特徴的です。

設問：あなたは、「おこづかい」面でみて、ここ最近、やりくりをしていることがありますか。

### 男性会社員

#### <やりくり実施率>



1位 2位 3位 4位 5位

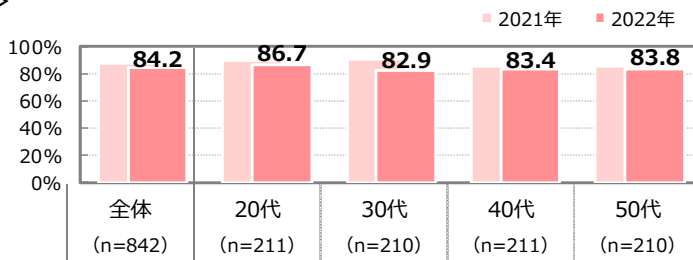
#### 具体的なやりくり術

|                                | 2021年 (%) | 2022年 (%) |
|--------------------------------|-----------|-----------|
| 昼食費を安くするように努力している              | 33.7      | 31.0      |
| 外で飲む回数を減らしている                  | 24.9      | 21.4      |
| 水筒を持参するようにしている                 | 22.7      | 20.8      |
| 衝動買いをしないようにしている                | 21.4      | 19.8      |
| 弁当を持参するようにしている                 | 20.4      | 21.1      |
| 少し遠くても歩くようにしている                | 18.1      | 19.5      |
| ネット通販やバーゲンなどで価格が安いものを買うようにしている | 16.5      | 11.2      |
| 洋服・靴など、安いものを買うようにしている          | 16.2      | 11.5      |

※上位8項目を抜粋掲載

### 女性会社員

#### <やりくり実施率>



1位 2位 3位 4位 5位

#### 具体的なやりくり術

|                                | 2021年 (%) | 2022年 (%) |
|--------------------------------|-----------|-----------|
| 弁当を持参するようにしている                 | 40.5      | 38.9      |
| 水筒を持参するようにしている                 | 39.9      | 41.7      |
| 昼食費を安くするように努力している              | 37.4      | 45.5      |
| 衝動買いをしないようにしている                | 31.5      | 30.8      |
| 洋服・靴など、安いものを買うようにしている          | 28.4      | 26.5      |
| 洋服・靴などを買わないようにしている             | 26.2      | 23.2      |
| ネット通販やバーゲンなどで価格が安いものを買うようにしている | 23.8      | 19.9      |
| 外で飲む回数を減らしている                  | 22.9      | 24.2      |

※上位8項目を抜粋掲載

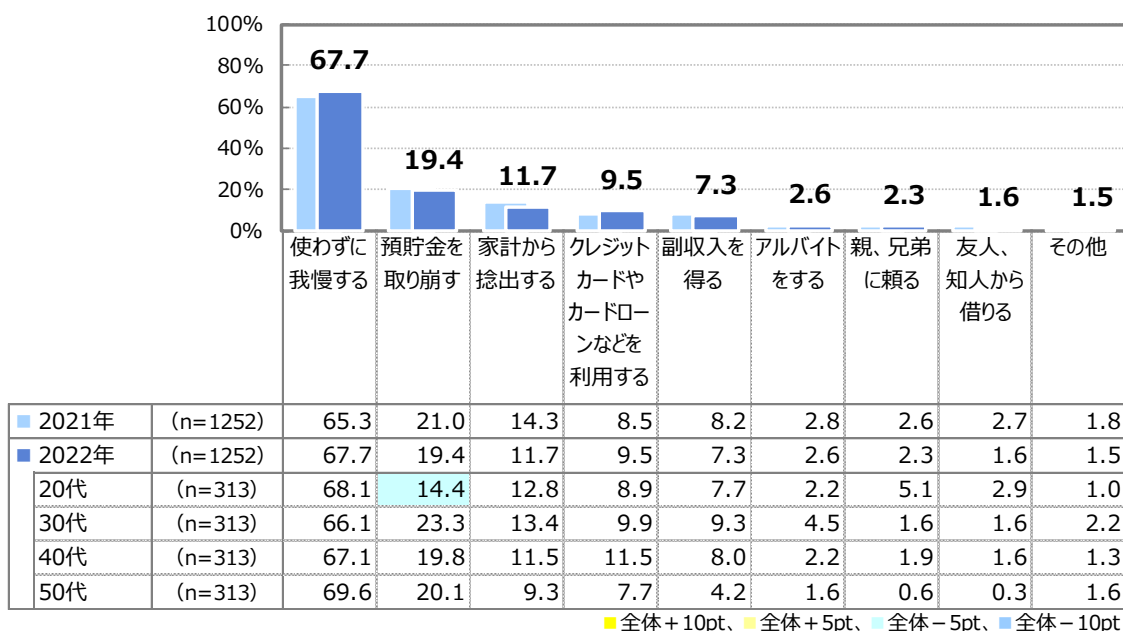
## ■ お小遣い不足時の対応

男性社員における、お小遣い不足時の対応では、「使わずに我慢する」が67.7%で突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続き、昨年同様、手持ちのお金で対応するケースが多くなっております。年代別にも、どの年代でも「使わずに我慢する」が突出している点に変化はありません。

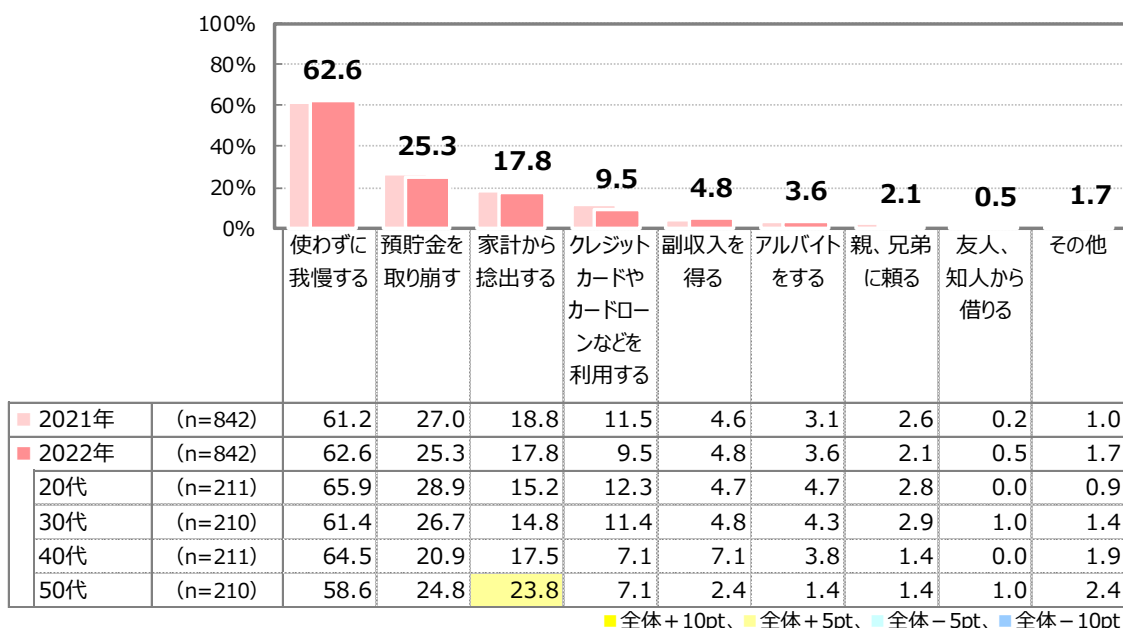
女性社員においても、男性社員と同様に、「使わずに我慢する」が62.6%と突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続く点も共通しております。

設問：“おこづかい”が足りなくなったとき、あなたはどのようにやりくりしていますか？

### 男性社員



### 女性社員



## ■ 副収入事情

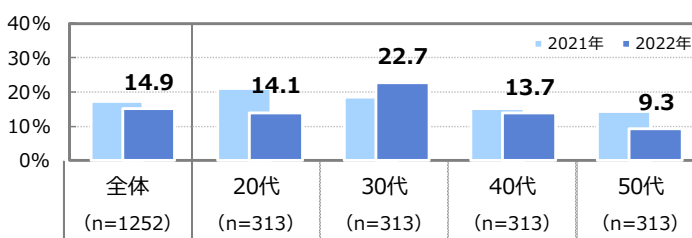
男性社員の14.9%は副収入があり、1ヵ月あたりに平均37,626円の収入額となっています。その収入源は、「ポイント・アンケートサイト」が52.9%と最も多く、「株式投資」、「アルバイト・副業」などが続きます。年代別にみると、副収入を得ている割合は、30代で最も高く、2割強となっております。また、40代以上では副収入を得ている割合は少ないものの、副収入額は30代より高い傾向となっております。

女性社員は14.4%が副収入ありで、僅差ながら40代が最も副収入を得ている割合が高いです。1ヶ月あたりの副収入額は50代が最も高く、32,771円となっております。

設問：あなたは給与以外に副収入がありますか？ある方は月にどのくらいの収入を得ていますか？  
どのような方法で副収入を得ていますか？

### 男性社員

#### <副収入を得ている割合>



#### 副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

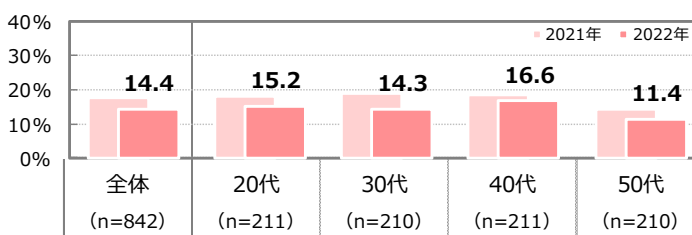
|             | (n=185)        | (n=44)         | (n=70)         | (n=43)         | (n=28)         |
|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1ヶ月当たりの副収入額 | <b>37,626円</b> | <b>32,168円</b> | <b>32,648円</b> | <b>49,884円</b> | <b>39,822円</b> |

| 収入源              | 1位   | 2位   | 3位   | 4位   | 5位   | (%) |
|------------------|------|------|------|------|------|-----|
| ポイントサイト、アンケートサイト | 52.9 | 61.4 | 52.1 | 51.2 | 44.8 |     |
| 株式投資             | 42.8 | 31.8 | 46.5 | 51.2 | 37.9 |     |
| アルバイト・副業         | 23.5 | 15.9 | 18.3 | 34.9 | 31.0 |     |
| 不動産投資            | 9.1  | 2.3  | 9.9  | 16.3 | 6.9  |     |
| FX等の外国為替取引       | 8.0  | 6.8  | 9.9  | 11.6 | 0.0  |     |
| フリーマーケット         | 8.0  | 6.8  | 9.9  | 11.6 | 0.0  |     |
| せどり、古物売買など       | 6.4  | 11.4 | 7.0  | 2.3  | 3.4  |     |

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位7項目を抜粋

### 女性社員

#### <副収入を得ている割合>



#### 副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

|             | (n=120)        | (n=32)         | (n=29)         | (n=35)         | (n=24)         |
|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1ヶ月当たりの副収入額 | <b>21,454円</b> | <b>18,281円</b> | <b>21,742円</b> | <b>16,357円</b> | <b>32,771円</b> |

| 収入源                    | 1位   | 2位   | 3位   | 4位   | 5位   | (%) |
|------------------------|------|------|------|------|------|-----|
| ポイントサイト、アンケートサイト       | 59.5 | 65.6 | 66.7 | 57.1 | 45.8 |     |
| アルバイト・副業               | 37.2 | 25.0 | 40.0 | 45.7 | 37.5 |     |
| 株式投資                   | 15.7 | 9.4  | 16.7 | 17.1 | 20.8 |     |
| フリーマーケット               | 12.4 | 25.0 | 10.0 | 11.4 | 0.0  |     |
| ネットオークション              | 8.3  | 3.1  | 6.7  | 11.4 | 12.5 |     |
| 懸賞                     | 5.8  | 3.1  | 6.7  | 8.6  | 4.2  |     |
| ブログ、ホームページなどの開設による広告収入 | 5.0  | 3.1  | 3.3  | 11.4 | 0.0  |     |

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位7項目を抜粋

※インターネットサーチを行っているため、「ポイントサイト、アンケートサイト」が高くなっています。

## 【7】 会社員の給与管理状況

- 既婚男性会社員の6割弱が「お給料の“全額”を家庭に入れている」と回答。20代は46.8%と他世代に比べて低くはあるが、若い世代も全額を家庭にいれてる層が主流
- 女性会社員の既婚世帯は、男性会社員に比べて全額を家庭に入れる割合が低く34.8%
- 共働き世帯(子あり)の給与管理状況では、男性会社員では56.3%が「配偶者が管理し、お小遣いを渡す」となり、女性会社員はその割合が1割以下と自分で給与管理する割合が高い

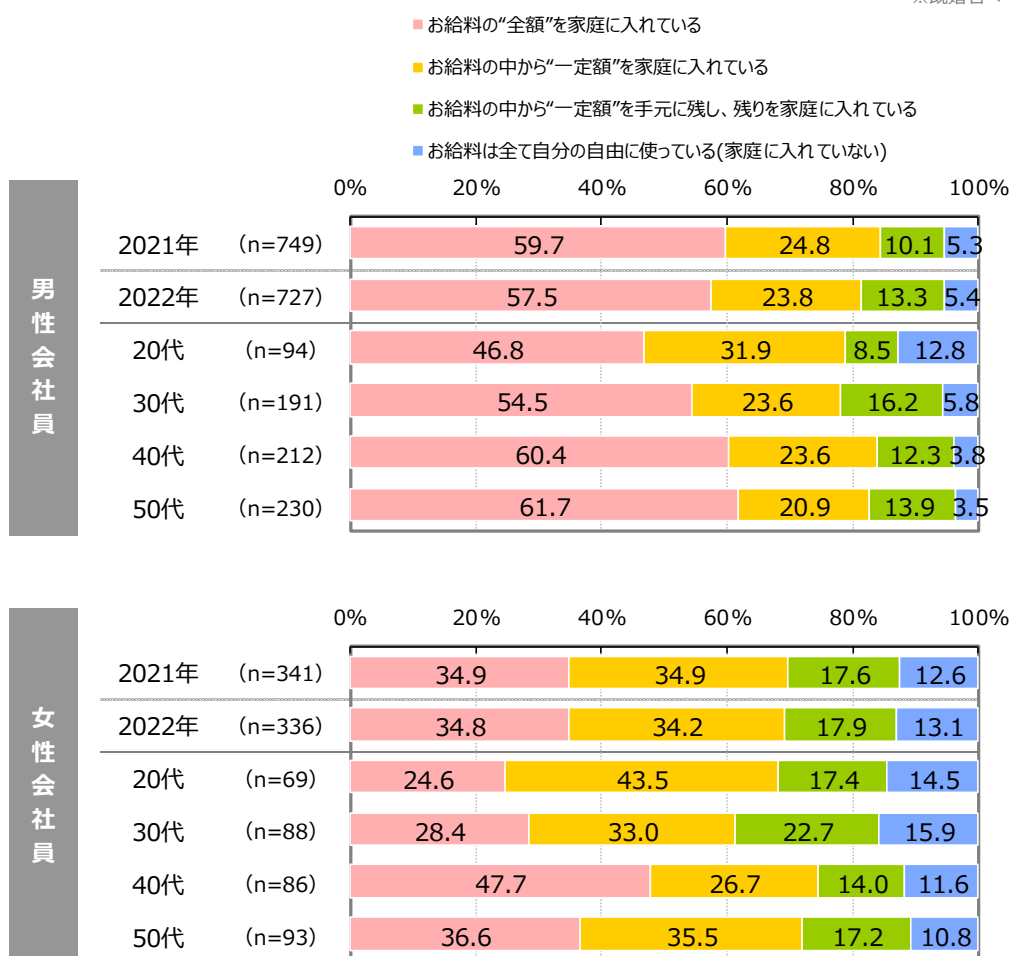
### ■ 給与管理状況

男性会社員の既婚世帯では、57.5%が「お給料の“全額”を家庭に入れている」という結果で、昨年と同様、6割近くがお小遣い制であることが分かります。年代別に見ると、若年層ほど「お給料の“全額”を家庭に入れている」割合が低く、20代で最も低くなっている点が特徴です。

女性会社員の既婚世帯では、「お給料の“全額”を家庭に入れている」と「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」の割合が3割半ばで同水準となり、男性会社員と比べて全額を家庭に入れている割合は低くなっています。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

※既婚者ベース



男性社員の給与管理状況をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)は、「お給料は“全額”を家庭に入れている」が40.2%にとどまり、全額を家庭に入れる方は全体よりも15pt以上低くなっています。

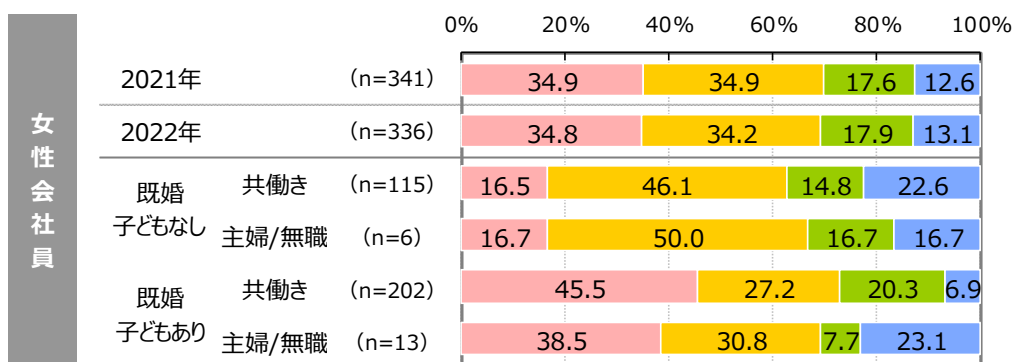
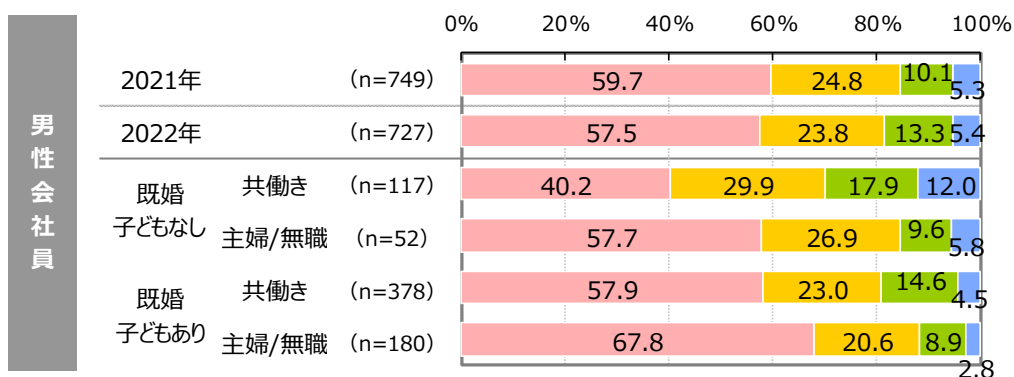
女性社員でも、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)は、「お給料は“全額”を家庭に入れている」が16.5%にとどまり、全額を家庭に入れる方は全体よりも15pt以上低くなっています。

※既婚・子どもなし・主婦/無職はサンプル数僅少のため参考値扱いとなります。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

※既婚者ベース

- お給料の“全額”を家庭に入れている
- お給料の中から“一定額”を家庭に入れている
- お給料の中から“一定額”を手元に残し、残りを家庭に入れている
- お給料は全て自分の自由に使っている(家庭に入れていない)



※n=30未満は参考値として掲載

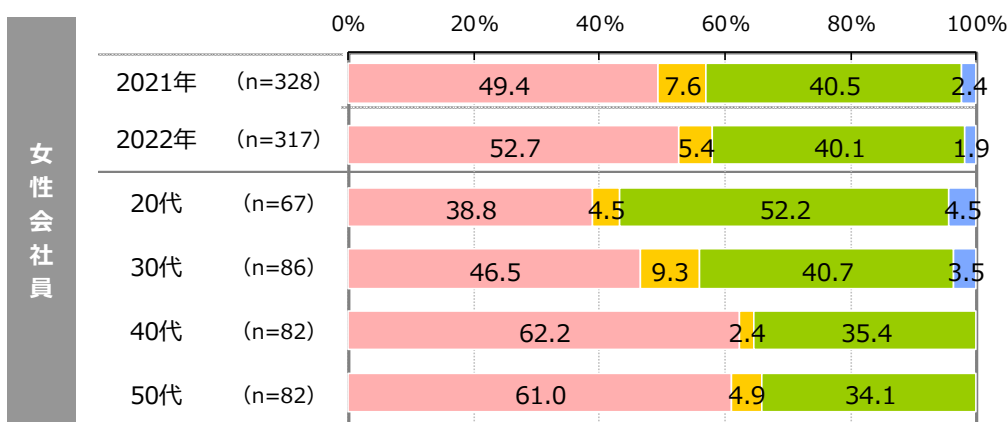
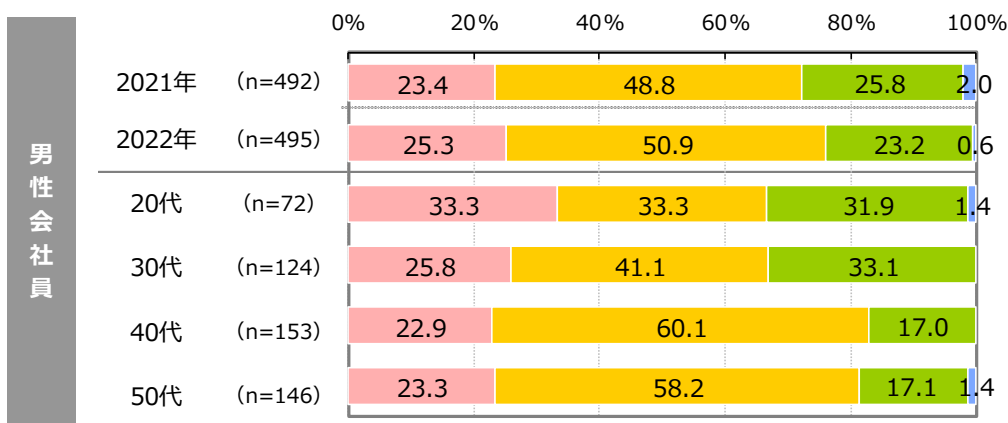
共働き世帯の給与管理状況を見ると、男性会社員では50.9%が「配偶者(パートナー)が管理し、あなたに生活費やお小遣いを渡す」という結果となりました。また、「あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す」「配偶者(パートナー)とは別々で管理している」がそれぞれ2割台となっております。年代別にみると、若年層ほど「あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す」割合が高くなる傾向となっており、20代では3割を超えている点の特徴です。また、「配偶者(パートナー)とは別々で管理している」も3割を超えております。

女性会社員では、「あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す」が52.7%と半数以上という結果となりました。次いで、「配偶者(パートナー)とは別々で管理している」が40.1%となります。男性会社員と比べて、自身、もしくは別々で管理する割合が高くなっております。

設問：あなたと配偶者(パートナー)のお給料は、どのように管理していますか。

※既婚共働きベース

- あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す
- 配偶者(パートナー)が管理し、あなたに生活費やお小遣いとして渡す
- 配偶者(パートナー)とは別々で管理している
- その他

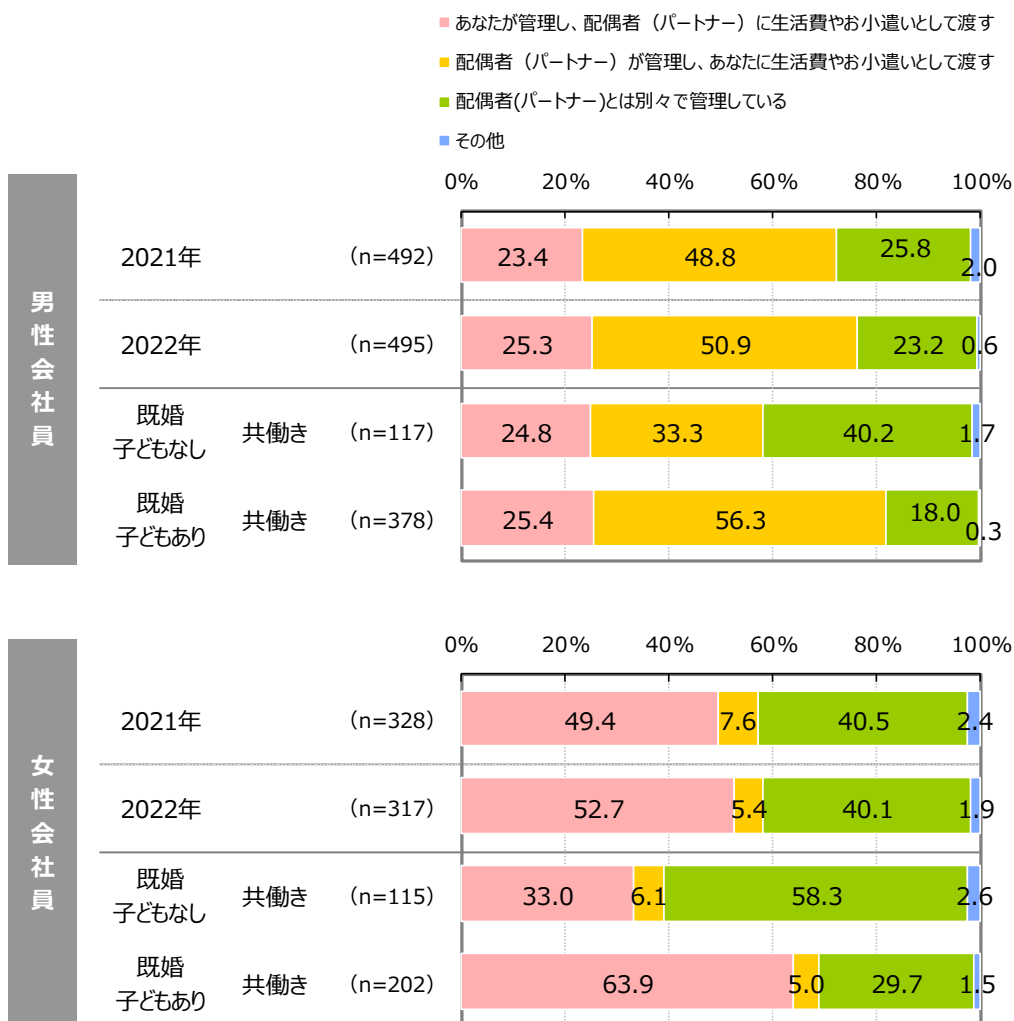


共働き世帯の給与管理状況をライフステージ別にみると、男性会社員の子どもなし世帯では、「配偶者(パートナー)とは別々に管理している」が40.2%と最も高い割合を占めます。一方、子どもあり世帯では、「配偶者(パートナー)が管理し、あなたに生活費やお小遣いとして渡す」が56.3%と最も高い割合を占める点が特徴です。

女性会社員では、子どもあり世帯で「あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す」が63.9%と6割強を占める点が特徴です。子どもができることにより、別財布から、女性が管理する同じ財布へ移行する様子が見られます。

設問：あなたと配偶者(パートナー)のお給料は、どのように管理していますか。

※既婚共働きベース



## 【8】 支払い手段

- ▶ 男性会社員の昼食代の支払い手段としては、「現金」がトップで70.3%、ついで「クレジットカード」37.3%、「QRコード決済」が34.1%と続く
- ▶ 女性会社員も同様の順番で、「現金」がトップで69.9%、ついで「クレジットカード」36.2%、「QRコード決済」が34.3%と続く

### ■ 昼食代・飲み代の支払い手段

男性会社員の昼食代の支払い方法は、「現金」が70.3%で最も高く、「クレジットカード」37.3%、「QRコード決済」34.1%が続きます。「QRコード決済」については、昨年から3pt以上の増加となっております。また、性年代別でみると、「クレジットカード」は30代以下が4割以上と高い点が特徴となっております。

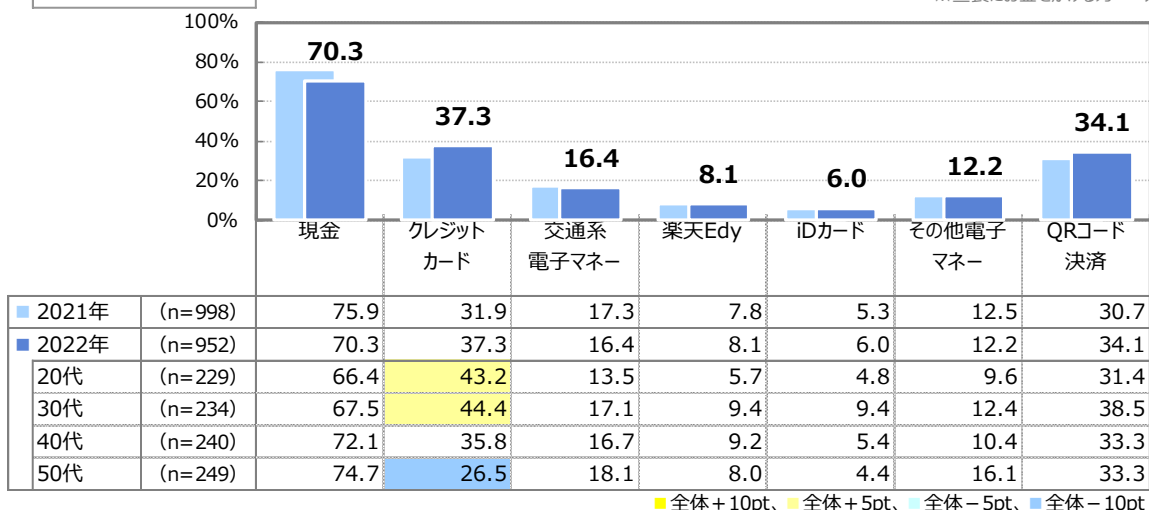
また、飲み代の支払い方法も昼食代と同様に、「現金」が81.2%と最も高く、「クレジットカード」58.1%、「QRコード決済」32.6%が続きます。飲み代に関して「QRコード決済」は、昨年から10pt以上の増加となっております。また、昼食代と比較して、「クレジットカード」が20pt以上高い点が特徴的です。

設問：以下の項目について、あなたの支払手段としてあてはまるものをすべてお選びください。

#### 男性会社員

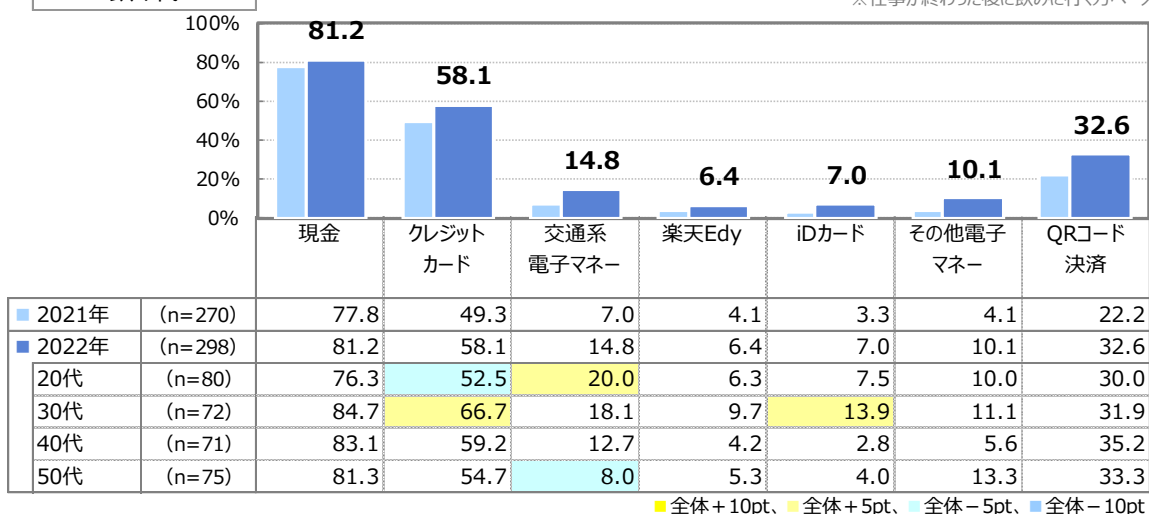
##### 昼食代

※昼食にお金をかける方ベース



##### 飲み代

※仕事が終わった後に飲みに行く方ベース



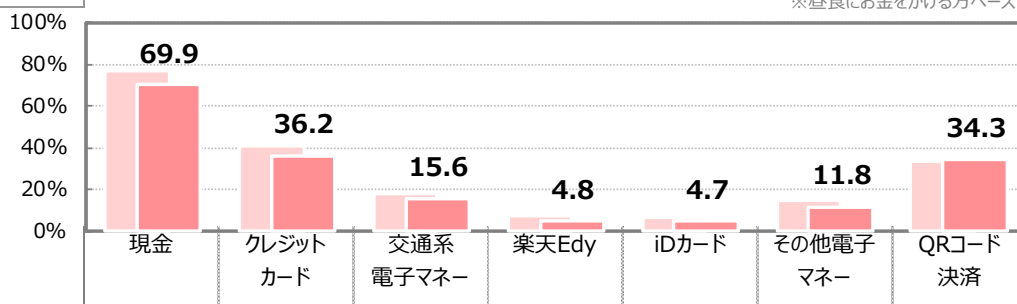


女性会員の昼食代の支払い方法は、「現金」が69.9%で最も高く、「クレジットカード」36.2%、「QRコード決済」34.3%が続きます。いずれの支払い方法も昨年から大きな変化は見られません。

また、飲み代の支払い方法は、「現金」が81.1%で最も高く、「クレジットカード」55.2%、「QRコード決済」30.8%が続きます。昨年と比較して、「QRコード決済」が10pt以上増加している点が特徴となっております。

**女性会社員**
**昼食代**

※昼食にお金をかける方ベース

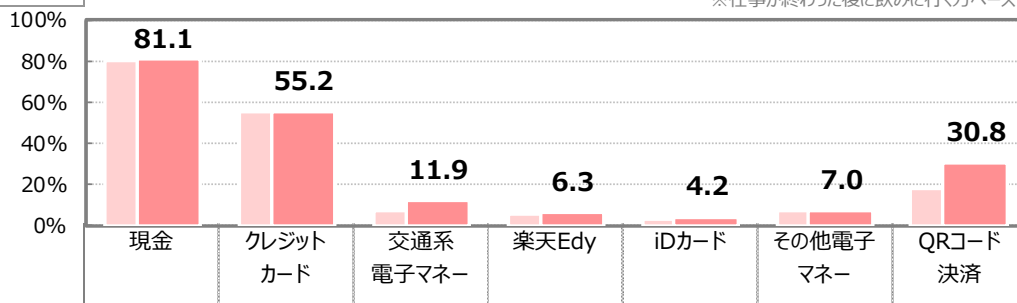


| 年次    | 人数      | 現金   | クレジットカード | 交通系電子マネー | 楽天Edy | iDカード | その他電子マネー | QRコード決済 |
|-------|---------|------|----------|----------|-------|-------|----------|---------|
| 2021年 | (n=645) | 76.7 | 40.6     | 18.0     | 7.3   | 6.4   | 15.0     | 33.3    |
| 2022年 | (n=621) | 69.9 | 36.2     | 15.6     | 4.8   | 4.7   | 11.8     | 34.3    |
| 20代   | (n=150) | 66.7 | 40.7     | 19.3     | 4.7   | 6.0   | 7.3      | 36.7    |
| 30代   | (n=162) | 65.4 | 40.7     | 17.3     | 3.7   | 6.8   | 13.0     | 40.7    |
| 40代   | (n=155) | 74.2 | 31.0     | 14.8     | 4.5   | 3.2   | 13.5     | 34.8    |
| 50代   | (n=154) | 73.4 | 32.5     | 11.0     | 6.5   | 2.6   | 13.0     | 24.7    |

■ 全体 + 10pt、■ 全体 + 5pt、■ 全体 - 5pt、■ 全体 - 10pt

**飲み代**

※仕事が終わった後に飲みに行く方ベース



| 年次    | 人数      | 現金   | クレジットカード | 交通系電子マネー | 楽天Edy | iDカード | その他電子マネー | QRコード決済 |
|-------|---------|------|----------|----------|-------|-------|----------|---------|
| 2021年 | (n=149) | 80.5 | 55.0     | 7.4      | 5.4   | 3.4   | 6.7      | 18.1    |
| 2022年 | (n=143) | 81.1 | 55.2     | 11.9     | 6.3   | 4.2   | 7.0      | 30.8    |
| 20代   | (n=47)  | 83.0 | 46.8     | 12.8     | 4.3   | 4.3   | 2.1      | 27.7    |
| 30代   | (n=32)  | 87.5 | 65.6     | 12.5     | 6.3   | 9.4   | 9.4      | 37.5    |
| 40代   | (n=34)  | 73.5 | 52.9     | 5.9      | 11.8  | 2.9   | 2.9      | 38.2    |
| 50代   | (n=30)  | 80.0 | 60.0     | 16.7     | 3.3   | 0.0   | 16.7     | 20.0    |

■ 全体 + 10pt、■ 全体 + 5pt、■ 全体 - 5pt、■ 全体 - 10pt

## 【9】 投資状況

- ▶ 男性会社員は、現在投資しているものとして「株式投資」が24.4%とトップ、次いで「投資信託」21.8%。30代男性会社員で「株式投資」が31.6%、「投資信託」が28.8%と全体より高め
- ▶ 女性会社員では、「投資信託」が21.0%で最も高く、「株式投資」11.5%が続く
- ▶ 検討中の投資としては、20代および30代男性会社員がどの投資の種類においても高めの傾向

### ■ 投資状況

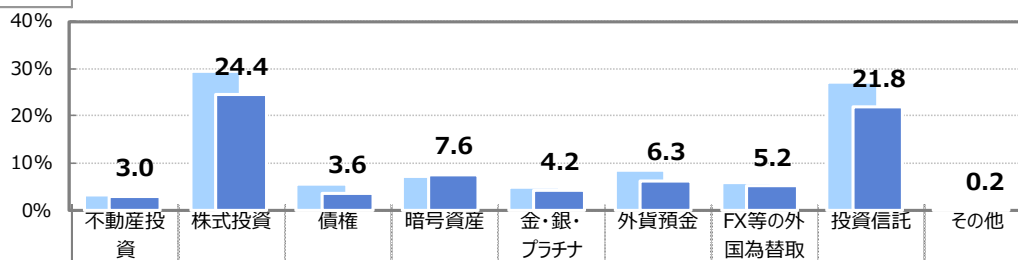
男性会社員の投資状況は、現在、投資しているものを見ると、「株式投資」が24.4%で最も高く、「投資信託」21.8%が続きます。その他のものはいずれも1割未満にとどまります。「株式投資」「投資信託」については、30代では3割前後と高い点が特徴となっております。現在の投資状況の昨年比較として、暗号資産が微増している以外は、いずれも減少する結果となっております。

また、検討中のものについては、大差がなく、「金・銀・プラチナ」「投資信託」「株式投資」が1割半ばとなっております。年代別では、一般的に40代以上より30代以下でスコアが高い点が特徴となっております。

設問：以下の項目についての、あなたの現在の投資状況について当てはまるものをお答えください。

#### 男性会社員

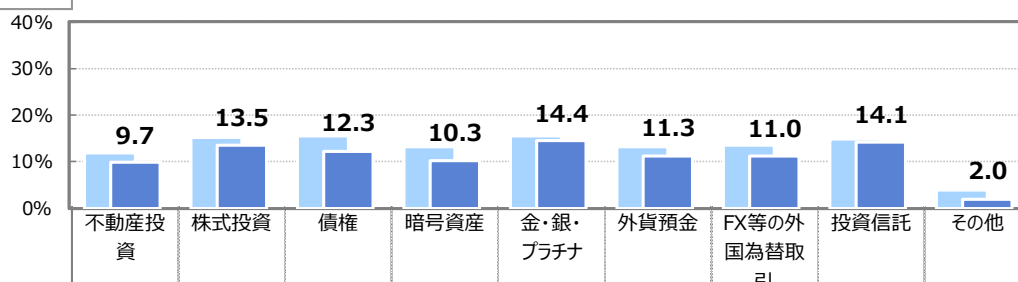
現在、投資をしている



|            | 2021年 (n=1,252) | 2022年 (n=1,252) | 20代 (n=313) | 30代 (n=313) | 40代 (n=313) | 50代 (n=313) |
|------------|-----------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 不動産投資      | 3.3             | 3.0             | 2.6         | 3.8         | 3.5         | 2.2         |
| 株式投資       | 29.2            | 24.4            | 16.6        | 31.6        | 24.6        | 24.6        |
| 債権         | 5.4             | 3.6             | 3.5         | 3.2         | 4.2         | 3.5         |
| 暗号資産       | 7.0             | 7.6             | 7.7         | 10.9        | 7.3         | 4.5         |
| 金・銀・プラチナ   | 4.8             | 4.2             | 3.5         | 3.8         | 5.4         | 4.2         |
| 外貨預金       | 8.5             | 6.3             | 3.2         | 8.3         | 7.7         | 6.1         |
| FX等の外国為替取引 | 5.8             | 5.2             | 3.2         | 7.3         | 6.7         | 3.5         |
| 投資信託       | 27.2            | 21.8            | 18.5        | 28.8        | 20.1        | 19.8        |
| その他        | 0.6             | 0.2             | 0.3         | 0.3         | 0.0         | 0.0         |

■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

#### 検討中



|            | 2021年 (n=1,252) | 2022年 (n=1,252) | 20代 (n=313) | 30代 (n=313) | 40代 (n=313) | 50代 (n=313) |
|------------|-----------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 不動産投資      | 11.9            | 9.7             | 13.4        | 10.9        | 7.3         | 7.0         |
| 株式投資       | 15.0            | 13.5            | 15.3        | 15.7        | 13.7        | 9.3         |
| 債権         | 15.6            | 12.3            | 16.3        | 13.4        | 10.2        | 9.3         |
| 暗号資産       | 13.3            | 10.3            | 13.1        | 13.4        | 10.2        | 4.5         |
| 金・銀・プラチナ   | 15.3            | 14.4            | 16.3        | 17.3        | 12.5        | 11.5        |
| 外貨預金       | 13.0            | 11.3            | 14.1        | 13.4        | 10.2        | 7.3         |
| FX等の外国為替取引 | 13.6            | 11.0            | 12.1        | 14.7        | 10.2        | 7.0         |
| 投資信託       | 14.9            | 14.1            | 16.3        | 17.3        | 12.5        | 10.2        |
| その他        | 4.0             | 2.0             | 2.2         | 2.9         | 2.2         | 0.6         |

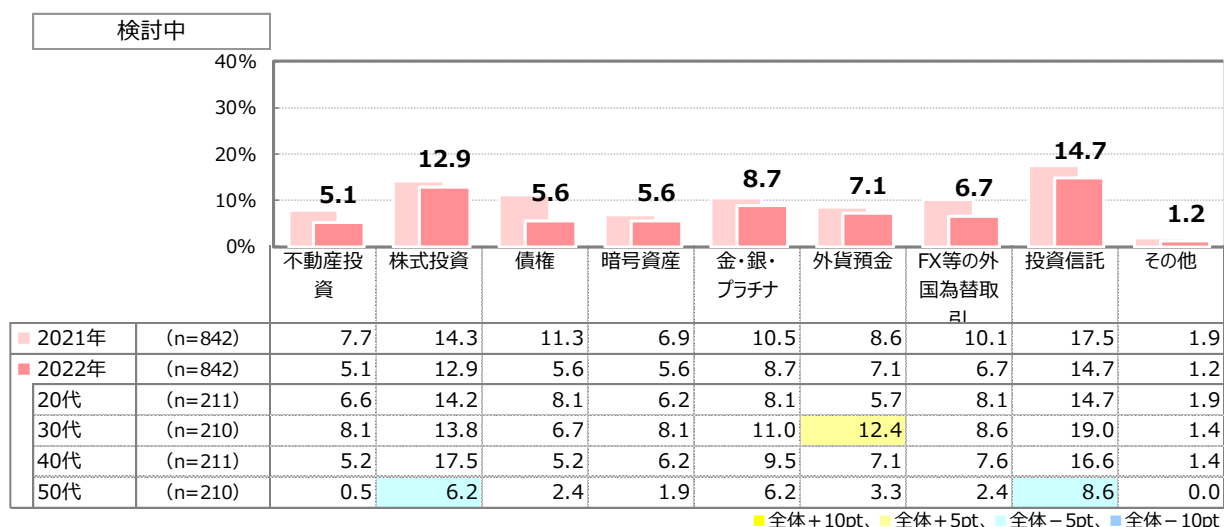
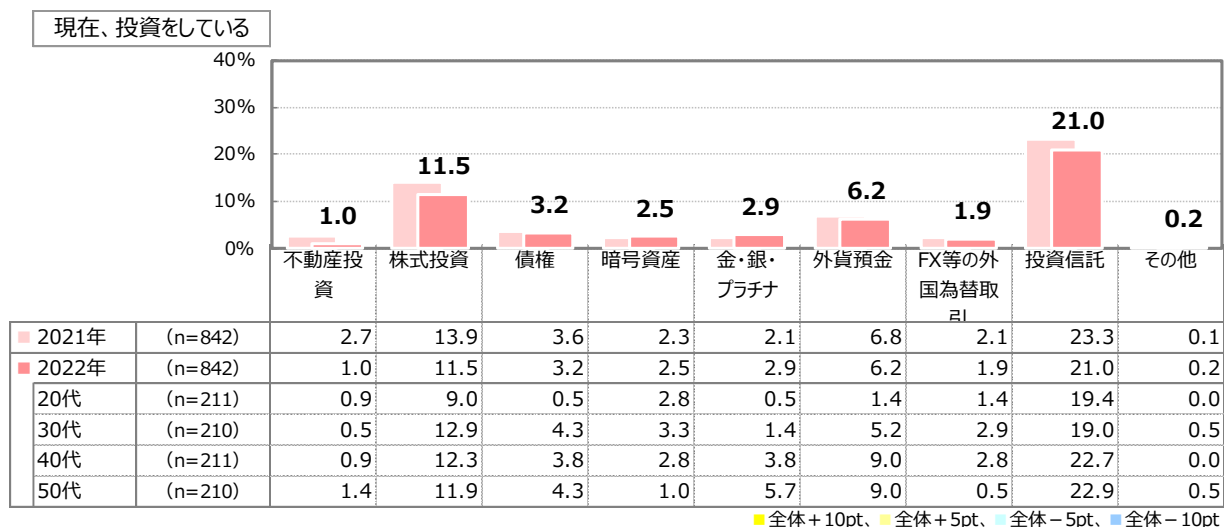
■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

女性会社員の投資状況は、現在、投資しているものを見ると、「投資信託」が21.0%で最も高く、「株式投資」11.5%が続きます。男性社員で最も高い「株式投資」は男性社員より10pt下回ります。また、その他のものはいずれも1割未満にとどまります。

また、検討中のものについては、現在、投資しているものと同様、「投資信託」が14.7%で最も高く、「株式投資」12.9%が続きます。年代別では、30代で「外貨預金」が他の年代より高くなっております。

設問：以下の項目についての、あなたの現在の投資状況について当てはまるものをお答えください。

### 女性社員



## 【10】次世代サービスの認知及び利用状況

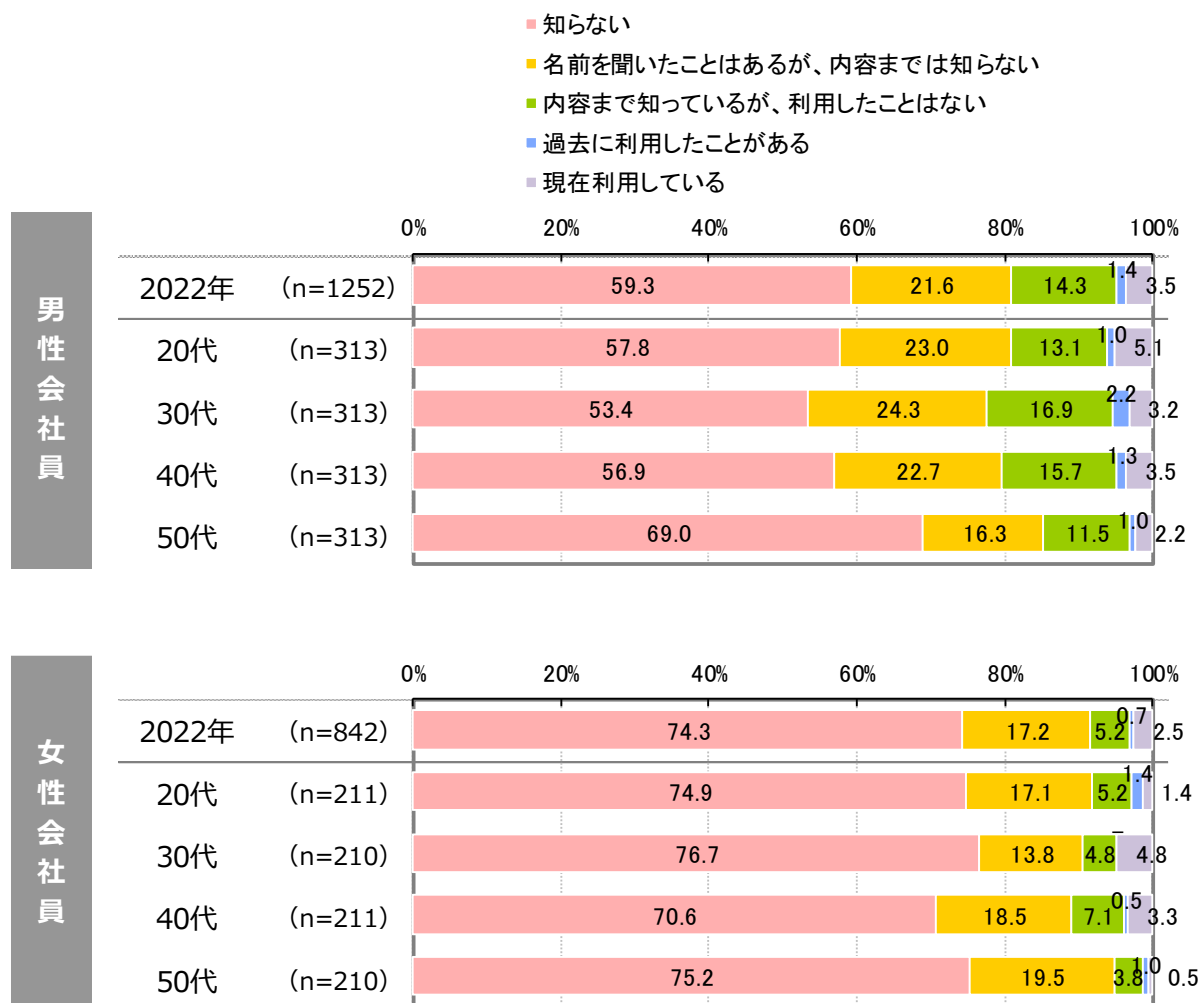
- NFT(非代替性トークン)の認知は、男性会社員で40.7%、女性会社員で25.7%
- Metaverse(仮想空間)の認知は、男性会社員で46.8%、女性会社員で29.9%
- STO(デジタル証券)の認知は、男性会社員で28.5%、女性会社員で14.4%
- ※認知=「知らない」以外の回答%の足し上げ

### ■ NFTの認知及び利用状況

NFTについては、男性会社員では、「知らない」が59.3%を占めます。認知者の中では「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が21.6%、「内容まで知っているが、利用したことはない」が14.3%となっております。なお、「現在利用している」については3.5%にとどまります。

女性会社員では、「知らない」が74.3%となり、男性会社員より15pt認知率は低くなっております。また、認知者の中では「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が17.2%、「内容まで知っているが、利用したことはない」が5.2%となっております。なお、「現在利用している」については2.5%にとどまります。

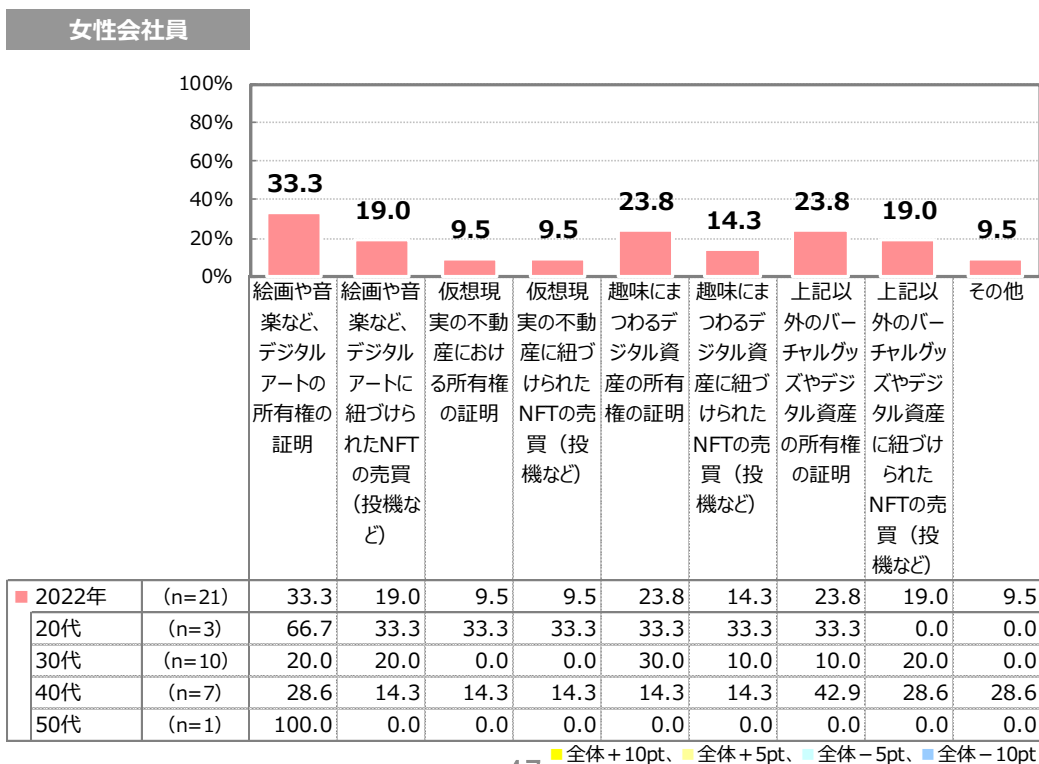
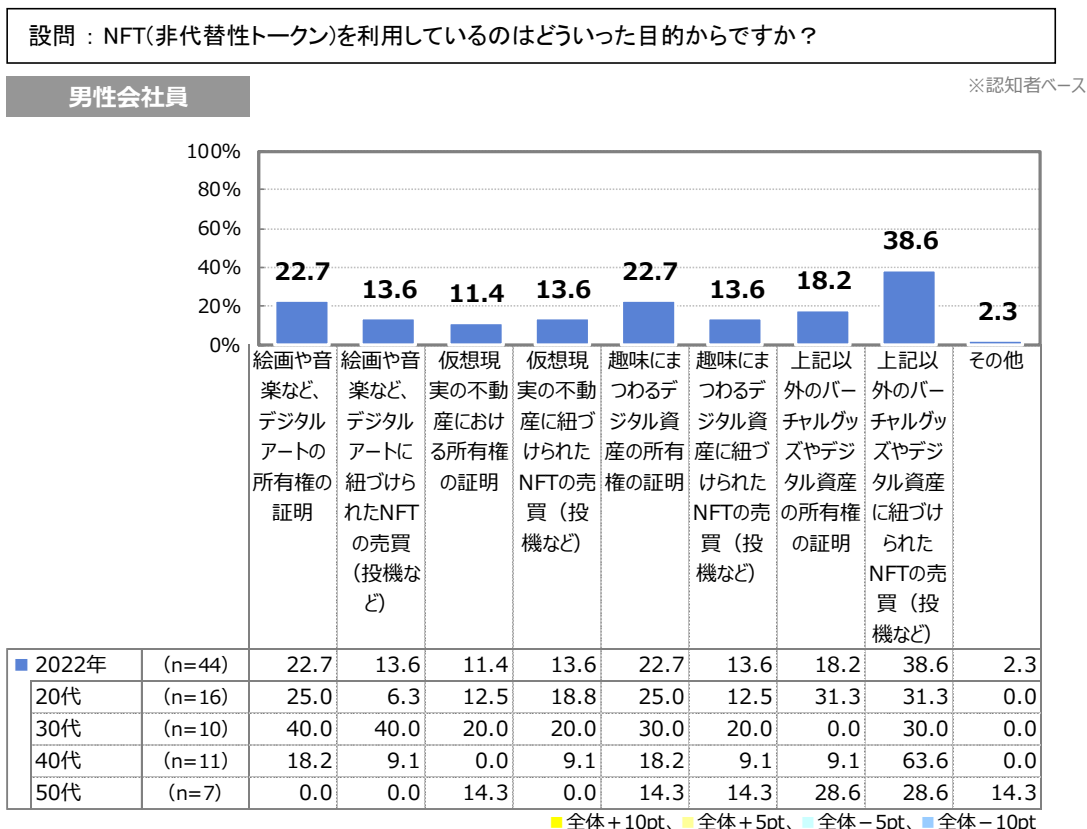
設問：NFT(非代替性トークン)についての、あなたの現在の認知や利用状況として当てはまるものをお答えください。



## ■ NFTの認知及び利用状況(つづき)

男性社員における、NFT利用目的では、「上記以外のバーチャルグッズやデジタル資産に紐づけられたNFTの売買」が38.6%で突出しています。次いで、「絵画や音楽など、デジタルアートの所有権の証明」、「趣味にまつわるデジタル資産の所有権の証明」が続きます。

女性社員においては、「絵画や音楽など、デジタルアートの所有権の証明」が33.3%と最も高いです。次いで、「趣味にまつわるデジタル資産の所有権の証明」、「上記以外のバーチャルグッズやデジタル資産の所有権の証明」が続きます。



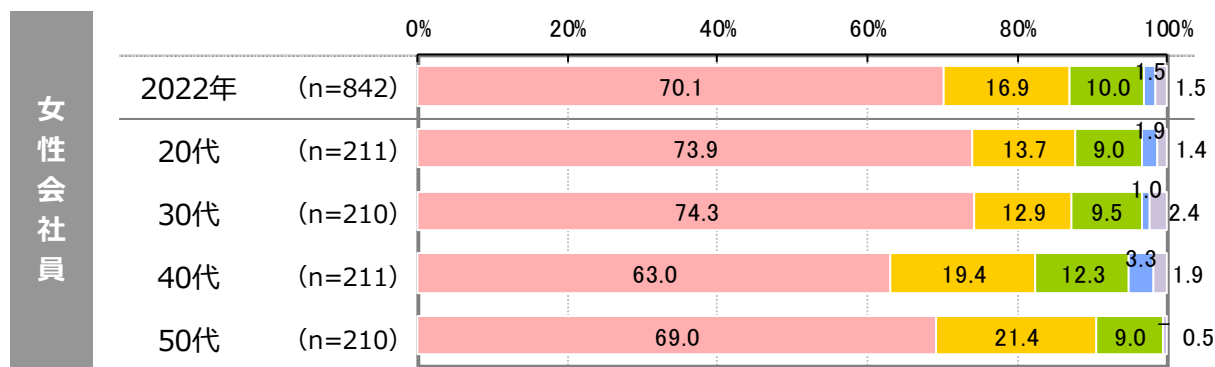
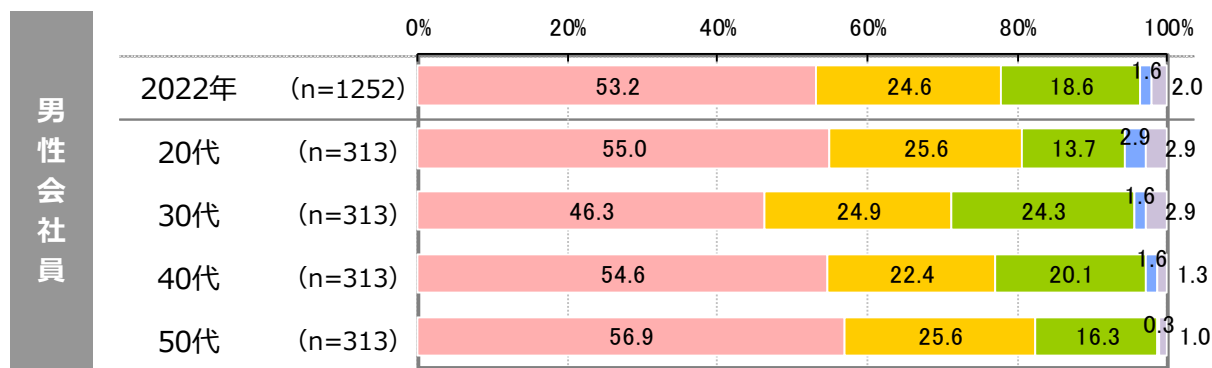
## ■ Metaverse(仮想空間)の認知及び利用状況

Metaverseについては、男性会社員では、「知らない」が53.2%を占めます。認知者の中では「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が24.6%、「内容まで知っているが、利用したことはない」が18.6%となっております。なお、「現在利用している」については2.0%にとどまります。

女性会社員では、「知らない」が70.1%となり、男性会社員より15pt以上認知率は低くなっております。また、認知者の中では「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が16.9%、「内容まで知っているが、利用したことはない」が10.0%となっております。なお、「現在利用している」については1.5%にとどまります。

設問：Metaverse(仮想空間)についての、あなたの現在の認知や利用状況として当てはまるものをお答えください。

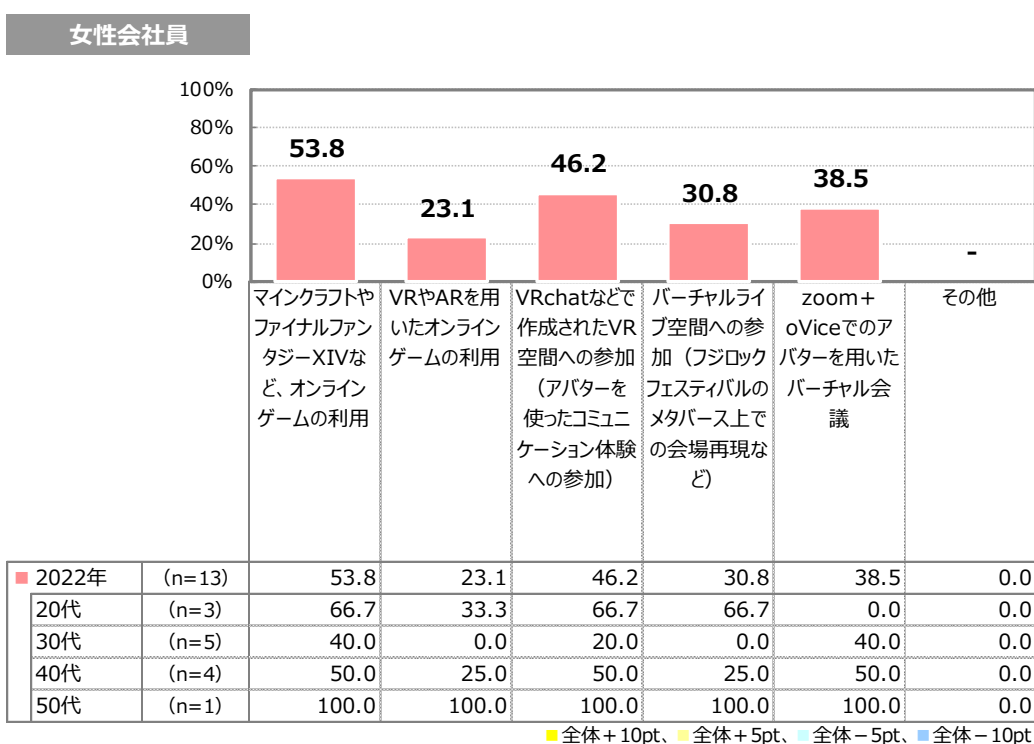
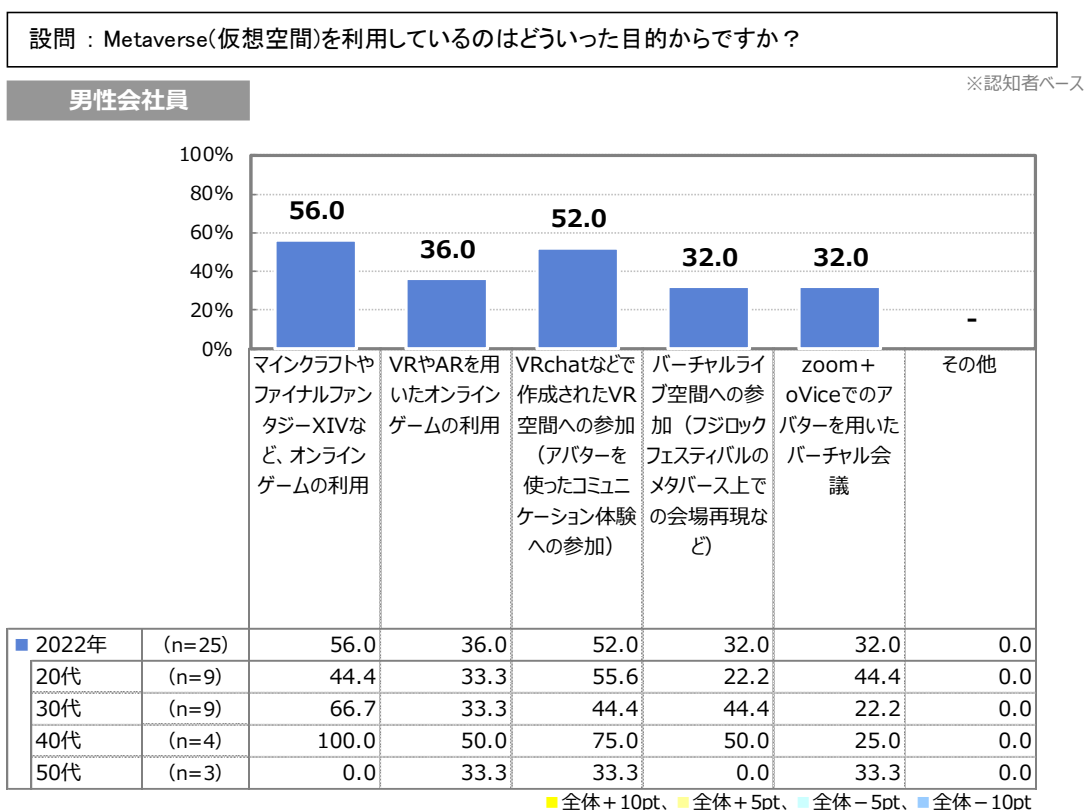
- 知らない
- 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない
- 内容まで知っているが、利用したことはない
- 過去に利用したことがある
- 現在利用している



## ■ Metaverse(仮想空間)の認知及び利用状況(つづき)

男性会社員における、Metaverse利用目的では、「マイクラフトやファイナルファンタジーXIVなど、オンラインゲームの利用」が56.0%と最も高いです。次いで、「VRchatなどで作成されたVR空間への参加」が続きます。

女性会社員においても、「マイクラフトやファイナルファンタジーXIVなど、オンラインゲームの利用」が53.8%と最も高いです。次いで、男性会社員と同様、「VRchatなどで作成されたVR空間への参加」が続きます。



※n=30未満は参考値として掲載

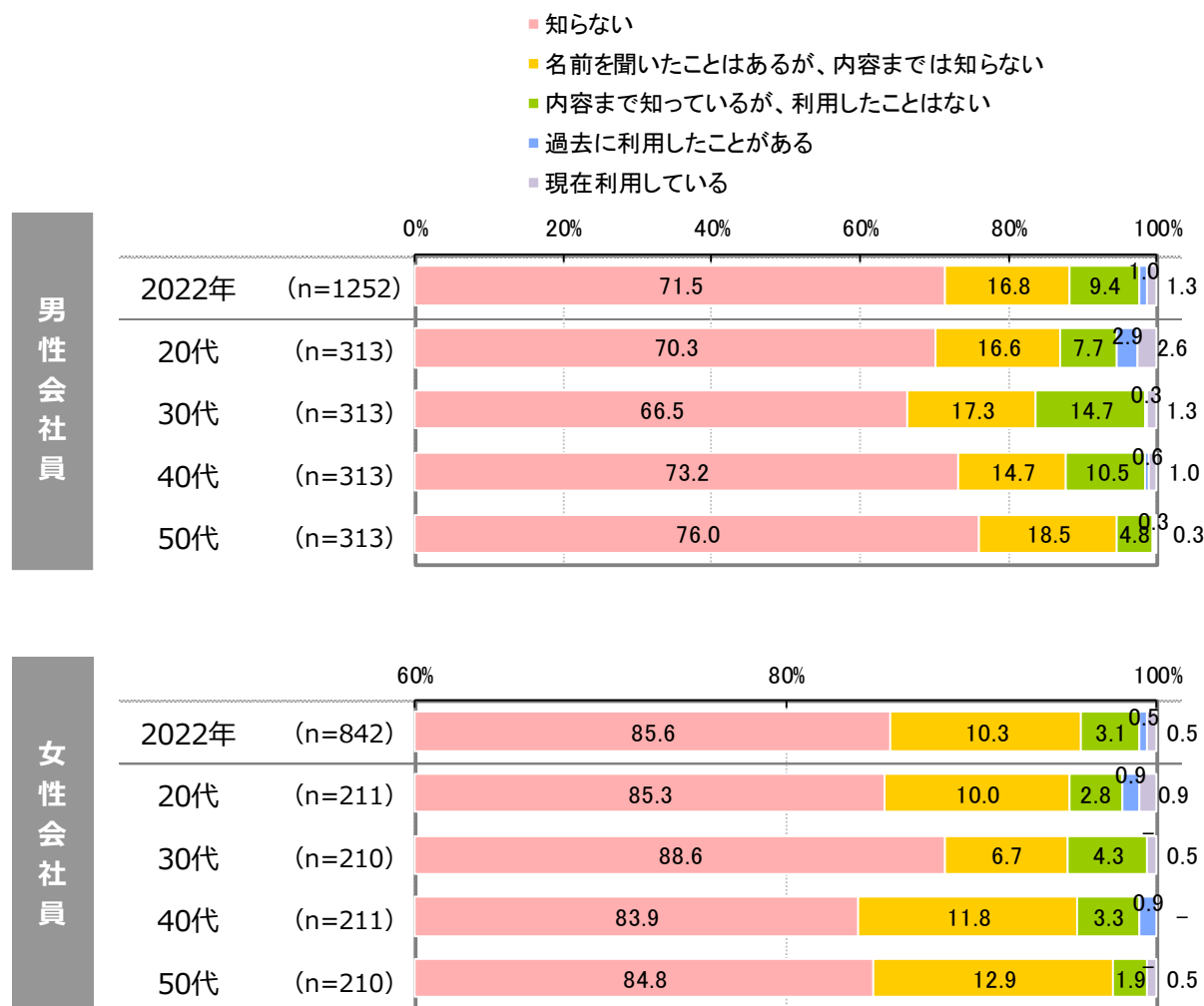


## ■ STO(デジタル証券)の認知及び利用状況

STOについては、男性会社員では、「知らない」が71.5%を占めます。認知者の中では「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が16.8%、「内容まで知っているが、利用したことはない」が9.4%となっております。なお、「現在利用している」については1.3%にとどまります。

女性会社員では、「知らない」が85.6%となり、男性会社員より10pt以上認知率は低くなっております。また、認知者の中では「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が10.3%、「内容まで知っているが、利用したことはない」が3.1%となっております。なお、「現在利用している」については0.5%にとどまります。

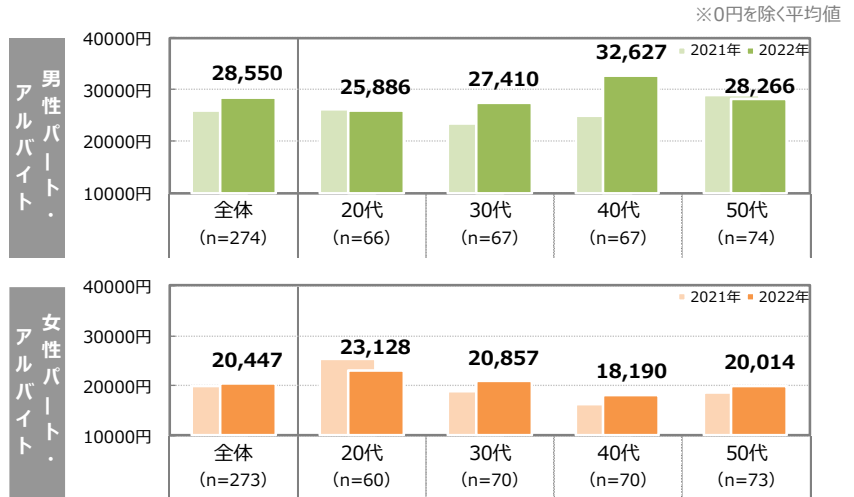
設問：STO(デジタル証券)についての、あなたの現在の認知や利用状況として当てはまるものをお答えください。



## 【11】パート・アルバイトの基本データ

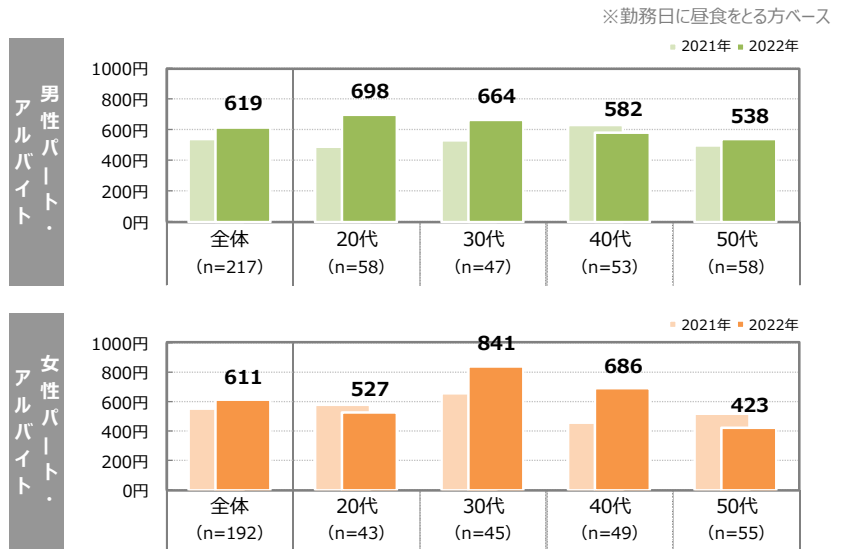
### ■ お小遣い

1カ月の平均お小遣い額



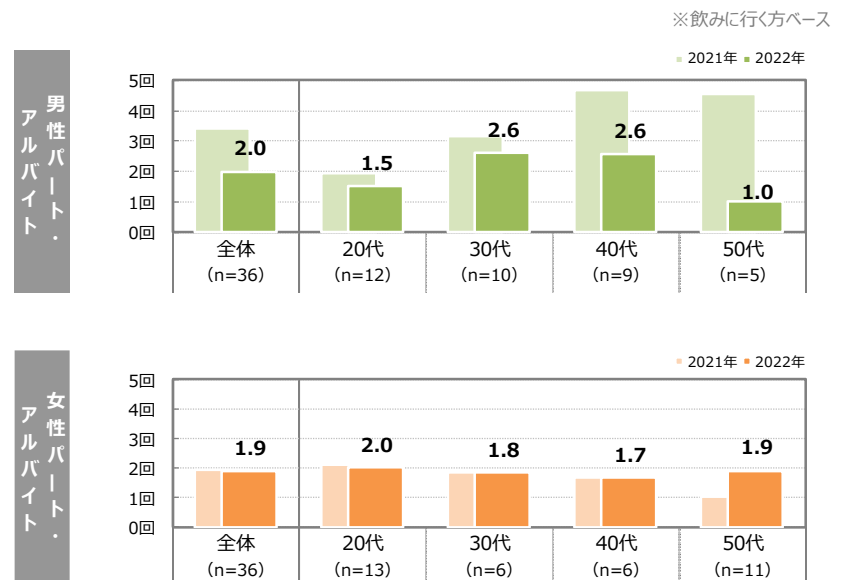
### ■ 昼食事情

1日の平均昼食代



### ■ 飲み事情

1カ月の平均飲み回数

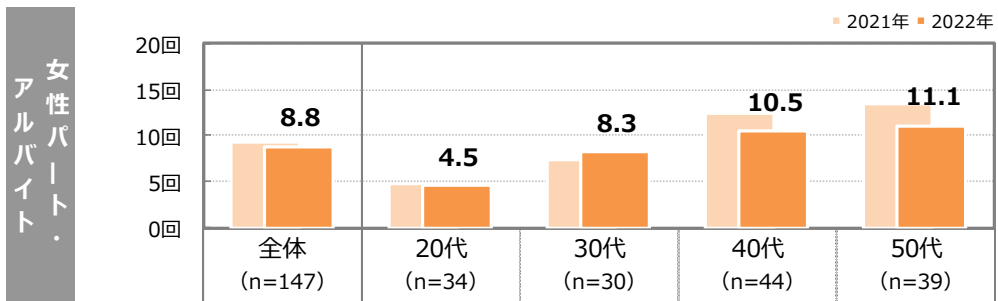
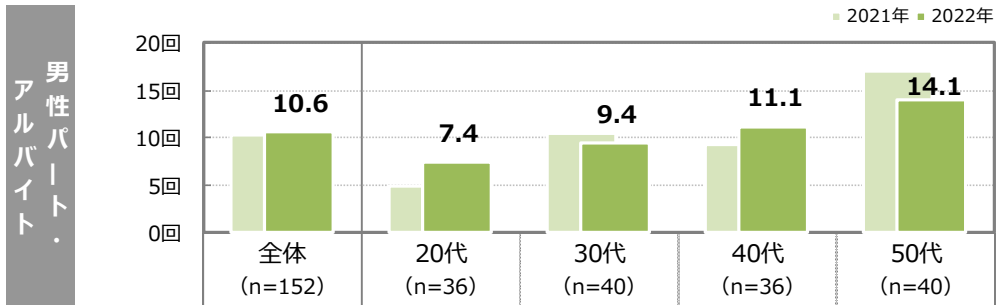


※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

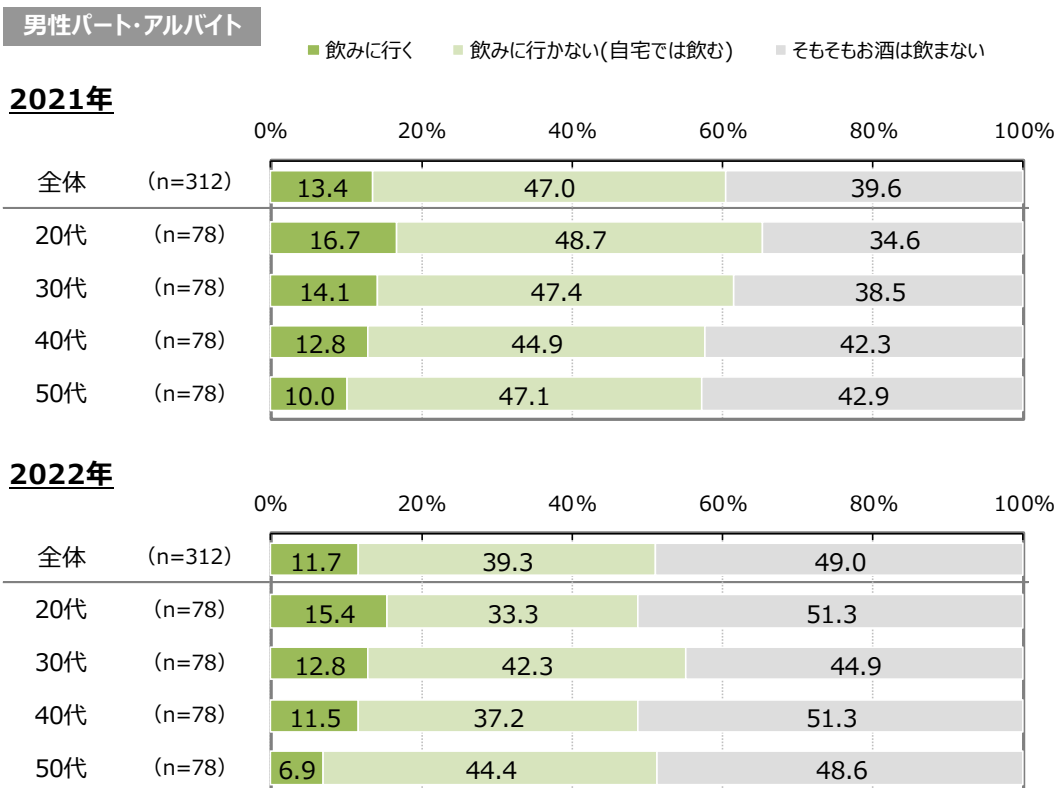
1ヵ月の家飲み回数

※自宅での飲み方ベース

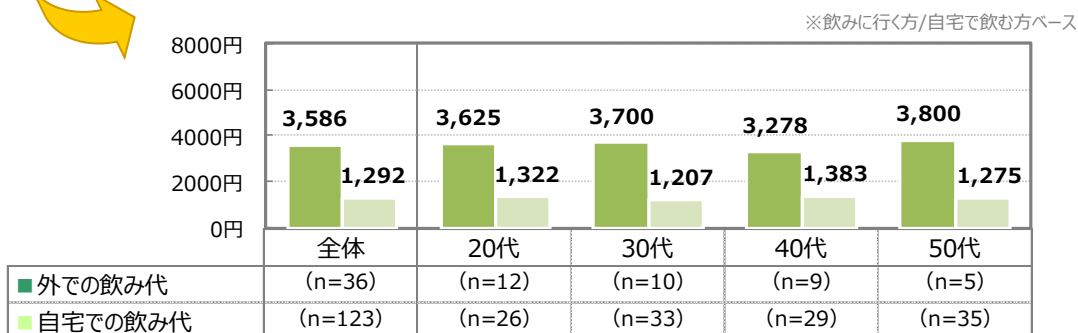


■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代

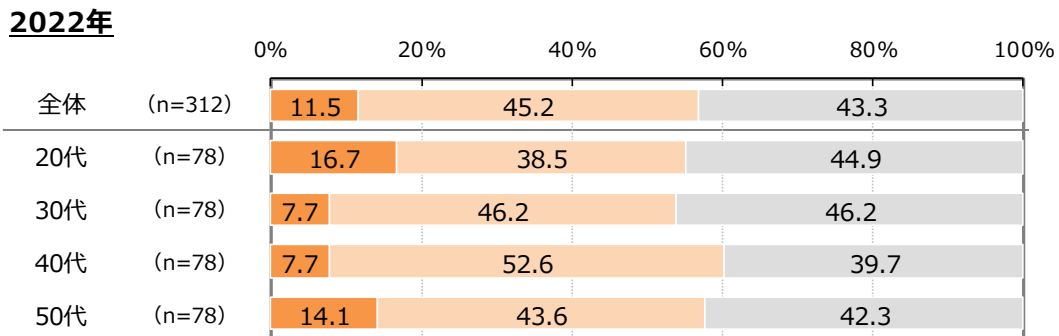
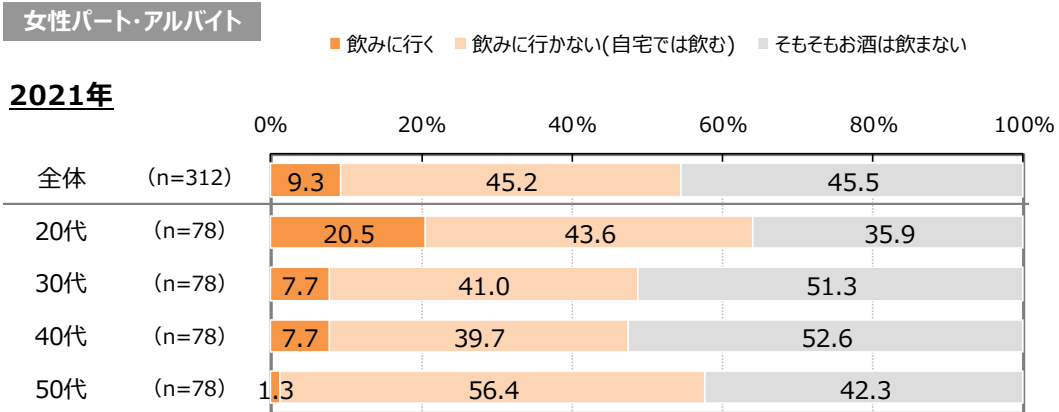


1回の平均飲み代は・・・？

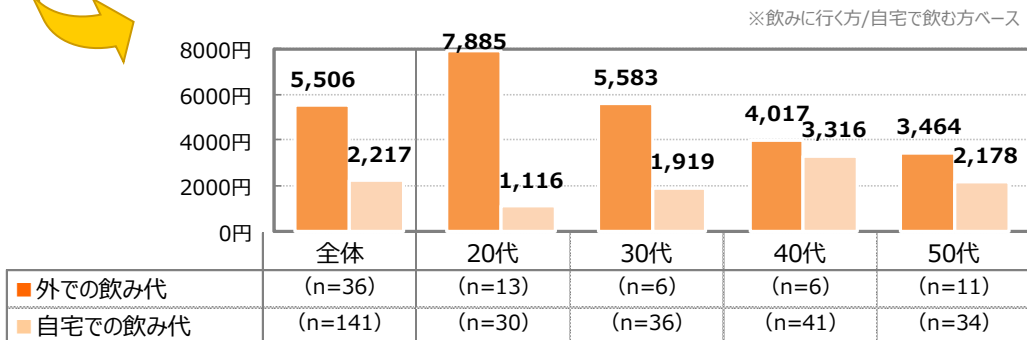


■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代



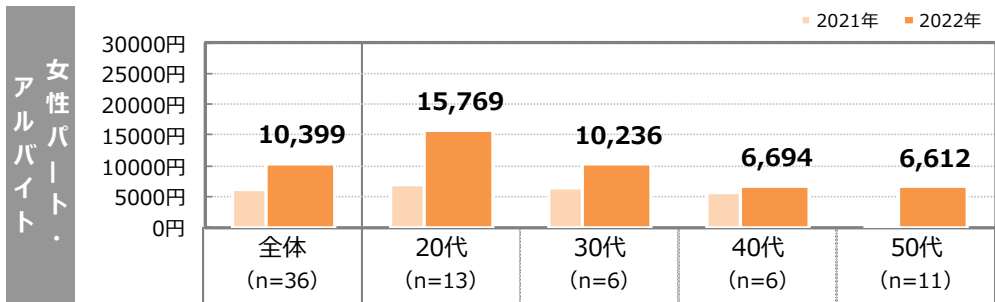
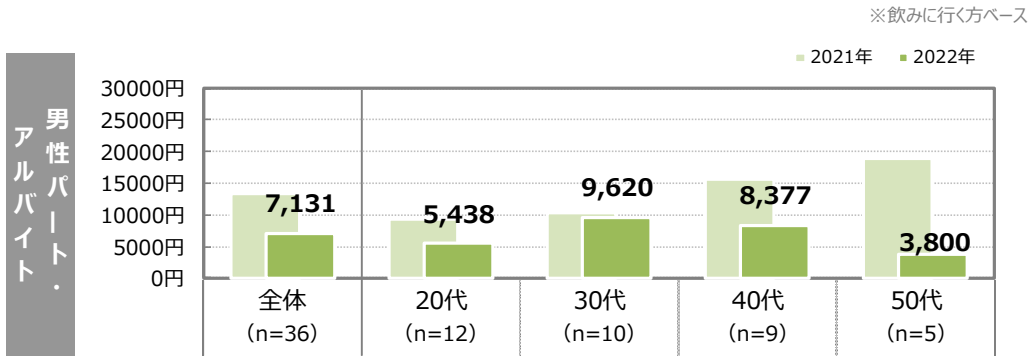
1回の平均飲み代は・・・？



※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1ヵ月の平均飲み代



※n=30未満は参考値として掲載